

## 学 長 挨 拶

桐蔭横浜大学

学長 小 島 武 司

「学術交流レポート 2008」が刊行されて、学術活動などの進展が一覧できることになり、大変喜ばしく思います。

前年にも記したところと同じですが、その意義は極めて大きいと考えます。大学は、研究と教育を同時に推進していくところに、組織としての独自性があります。教育は、研究の裏打ちを得てこそ真の輝きをもち、若者の精神に鋭い刻印と深い感動を与えるものとなります。しばしば見過ごされやすいことですが、知的好奇心に富む柔軟な若い心に生じる素朴な疑問が端緒となって、時代を越える理論等が生み出されることも少なくないのです。大学において教育と研究が支え合って展開されることで、社会に対する大きな貢献が可能になるのだと思います。このことは、学問が大きく進歩し、最先端が加速度的な伸びを示している今日についても、等しく妥当するはずであり、その意義は、一段と強まっているともいえます。

何年か前のことですが、イタリアのボローニア大学創立 900 年記念シンポジウムに招かれ、学術報告を行ったことがあります。世界最古の大学の足跡を聞きながら、教育と研究のコラボレーションの中に宿る可能性の大きさを感じることに入りました。

「学術交流レポート」は、2008 年度の専任教員の学術研究活動を中心にまとめたものです。本学は、2008 年度よりスポーツ健康政策学部が発足したことから、法学、医用工学を併せて3つの方向に学部展開がされ、また、2つの学術大学院と1つの専門職大学院（法科大学院）がこれに加わることで、高等教育機関として総合的体制が固まりつつあるのではないかと自負しております。そこから生まれるところの学術研究活動の成果を社会に発信する本レポートが刊行されることで、幅広い交流の機会が生まれ、そのプロセスの中で、研究と教育の間のよき相乗作用が促進されることになれば、社会的意義は大なるものがあると感じております。

現在、本学において、地域社会と海外都市を結ぶデルタ型の多角的な仕組みを動かそうとする志が共有され、本学をいわばハブ組織として、研究と教育をグローバルに展開するエネルギーが盛り上がってきています。本レポートは、大学で一段と高い役割を果たしていくスプリングボードの一つとなるものと確信致します。

## 学術交流レポート2008 目次

■ 学長挨拶	1
■ 建学の精神	3
■ 大学組織図	4
■ 学部・学科概要	5～ 12
■ 研究科・専攻概要	13～ 15
■ 法学部	
法律学科	16～ 54
■ 医用工学部	
生命医工学科	55～ 69
臨床工学科	70～101
■ 工学部	
電子情報工学科	102～118
ロボット工学科	119～126
■ 工学系	127～132
■ スポーツ健康政策学部	
スポーツ教育学科	133～140
スポーツテクノロジー学科	141～145
スポーツ健康政策学科	146～151
■ 工学研究科 医用工学専攻・情報・機械工学専攻	152～167
■ 法務研究科 法務専攻	168～177
■ 先端医用工学センター	178～182
■ 2008年度退職者	183～192
■ 公開講座・セミナー等	193～200

## 建学の精神

社会連帯を基調とした、義務を実行する自由人たれ。

学問に徹し、求学の精神の持主たれ。

道義の精神を高揚し、誇り高き人格者たれ。

国を愛し、民族を愛する国民たれ。



## 学部・学科概要

### 法学部法律学科 (Faculty of Law Department of Law)

法学部は、1993年4月、複雑・多様化する社会に対応できる法律の専門家を育成する目的でスタートしました。

2004年4月からは法科大学院を設置し、法科大学院と連携して法学部の法学教育の充実をはかっています。

法学部が目指しているのは、法科大学院への進学も視野に入れて、比較法や司法政策などの知識を備えた「裁判官、検察官、弁護士」にふさわしい人材、外資系企業や国際機関で法的知識を駆使できる「国際法務者」、企業内の法的トラブルの解決策や防止策を考える「企業法務者」、主に登記や法律書面の作成にあたる「司法書士」や「行政書士」などの法律専門職、公務員や警察官、消防官など公共の分野で活躍する人材を養成することです。アメリカや中国のロースクールなど、海外留学にも重点的に取り組んでいます。

カリキュラムは、将来の目標に応じたコースを設け、法律の各分野（たとえば憲法、民法、刑法、民事訴訟法、刑事訴訟法、商法、行政法、労働法、経済法など）の他に、新しい法律分野（たとえば知的財産権法、国際取引法、会社法務、電子商取引法など）の科目、加えて、多彩な教養科目、さらに英語を中心に外国語を豊富に用意して、柔軟に学習ができるようにさまざまな工夫を凝らしています。特にゼミナール中心の対話による授業が特徴です。

## 医用工学部 (Faculty of Biomedical Engineering)

近年、医学領域においては急速な技術革新が行われています。特に、遺伝子工学や医用材料工学の発展には目覚ましいものがあります。医用工学部は生命医工学科と臨床工学科の2学科からなり、「医学」と「工学」を融合したメディカル新時代を担う新しいタイプの学部です。

生命医工学科は、生命・環境システム工学科を募集停止とし、本年度新たに開設された学科です。生命工学の技術を基礎として、医用材料開発と再生工学技術を扱いながら工学（バイオエレクトロニクス）、医学・医療への貢献を目的としています。さらに、生命医工学科では、医療分野において医療方針を決定するための情報の収集を担当する医療国家資格である臨床検査技師国家試験受験資格を取得する為のカリキュラムを有しています。また、危険物取扱者、ME 技術実力認定試験、放射線取扱主任者第1種・第2種、基本情報技術者などの合格を目指した指導も実施しています。

臨床工学科は医用工学を臨床領域へ展開し、医療器具などの開発研究を通して、現代医療の質の向上に貢献し得る人材教育を行うことにより、医療技術の発展に寄与することを目的としています。さらに、工学技術を担当する医療国家資格である臨床工学技士国家試験受験資格を取得するためのカリキュラムに加え、ME 技術実力認定試験、放射線取扱主任者第1種・第2種、基本情報技術者、CAD 利用技術者1級・2級、デジタル1種・2種などの合格を目指した指導を実施しています。

医用工学部では、毎年、桐蔭医用工学国際シンポジウムを開催し、世界でトップレベルの医用工学研究者を招待し、最先端の技術・研究に英語で接するとともに、学生自ら英語でのプレゼンテーションを行うことによりその英語力・国際感覚を養っています。また、アメリカ留学を奨励し、これからの国際化社会に対応できる学生の育成を積極的に進めています。

### 生命医工学科

(Department of Medical Technology)

生命医工学科では、生命工学の技術を基礎として、医用材料開発と再生工学技術を研究します。人材育成については、幅広い教養を備えた技術者・科学者の育成を目的として、数理科学・物質科学の基礎教育を徹底し、生物工学諸分野、医用工学諸分野、医療系諸分野の専門的知識を教授し、基礎医学、臨床医学の体系を概観してもらいます。さらに、卒業研究、臨地実習を通じて専門知識の応用力と技術経営力を涵養し、医用材料・医薬品開発、食品・化粧品等製造業、医療機関、基礎医学研究機関等への卒業生の活路を開拓します。

これらの教育、研究を実践する場を提供するために生命医工学科では、そのカリキュラムに国家資格である臨床検査技師の受験資格を取得できる授業を盛り込んでいます。医療現場でチーム医療の中核をなす臨床検査技師の国家資格を取得することにより幅広い医療分野での学生の活躍を期待しています。

初年度から学生たちの医療に対するモチベーションを高めるために、実際の現場を知っておくことが大切と考え、積極的な関連学会への参加・検査センターへの見学など様々なイベントを企画しています。

## 臨床工学科

(Department of Clinical Engineering)

近年、医学領域においては急速な技術革新が行われています。特に、遺伝子工学や医用材料工学の発展には目覚ましいものがあります。また、NMR・X線CT・超音波診断装置をはじめとする画像診断機器や人工心肺、透析装置などのハイテク機器が医療の世界にもたらした貢献は絶大です。今後、医療現場におけるこのような医用工学機器や医用工学技術に期待される役割がますます重大なものになることは明らかです。

一方、病院等での医療現場では、これまでの医師、看護師中心の治療から、臨床工学技士等を含めたチーム医療が益々重要になってきております。

本学の臨床工学科は、臨床工学技士の養成を第一の使命とし、さらにこれまで培ってきた医用機器工学、医用材料工学、生化学、遺伝子工学などをベースとして、社会の要請に応えられる広い視野を有する医用工学の研究者・技術者等を育成することを目的とした学科です。

学科の教育では、医療国家資格である臨床工学技士国家試験受験資格（臨床工学技士法第14条第4号による）を取得する為のカリキュラムに加え、第1種・第2種ME技術実力検定試験（日本ME学会）の合格を目指した指導を実施しています。また、独創性のある研究者・技術者を育成するために、知識の詰め込みだけではなく、自ら現象を確認・分析し、その結果を次世代の医用工学へと発展させるためのアイデアを膨らませる能力の育成に力を注いでいます。また、国際的な視野とIT時代の技術者に必要な情報・通信技術のスキルを身につけさせるため、語学教育とコンピュータ教育も充実させています。

## 生命・環境システム工学科

(Department of Life and Environmental Science)

近年の生命科学分野は、ヒトゲノム解析、DNAチップの開発、タンパク質工学の発展といった観点で目覚ましいものがあります。また環境分野においても、地球環境の保全、クリーンエネルギーの産生、ストレス解消の問題等話題に事欠きません。生命・環境システム工学科では、生命であるの環境、環境であるの生命という立場から、時代の要請に応える教育・研究を目指しています。

したがって、それぞれの専門分野の深耕と融合を目的とした教育・研究を実践するために、生命工学分野は、生物の持つ高度な機能の解明と、それを工学に応用するための学問体系とし、遺伝子工学、バイオエレクトロニクス、ナノ・バイオテクノロジーといった研究を推進するための基礎学問を修得し、遺伝子治療、バイオセンサ、人工臓器といった、医療への貢献を目指します。環境システム工学分野は、地球環境保全（環境分析、内分泌攪乱物質、複合材料開発など）とクリーンエネルギー供給（太陽電池開発など）といったグローバルな課題に取り組むとともに、人間をとりまく環境をより良いものにするために、生態学、社会学を基盤とした領域（生体環境工学、環境評価など）を加えて、予防医学的見地から個々の心身の健康維持、増進（人間環境工学、福祉環境計画学など）をはかるための方策についての教育・研究を行います。

## 工学部 (Faculty of Engineering)

この 21 世紀は、20 世紀に成長した IT、ロボット、環境の分野を総合的に結びつけ、直面するエネルギーや環境に関する課題を解決し、この世界で生きる全ての人類と生物、そして地球環境の永続的（持続可能な）発展と明るい未来をしっかりと築きあげる世紀であると言えます。

こうした明るい未来の実現に貢献できる人材の育成には、これまでの工学の分野の知識や技術だけでなく、エネルギーや環境に関するセンスが養われた本物のデザインや設計という、人間と広義の環境を中心にした分野の知識や専門性が、今までの文系の分野までを含めた新しい工学教育として必要になっています。

桐蔭横浜大学工学部は、こうした新しい教育の展開により明るい未来を築き、社会に貢献できる人材を育成します。これを実現する全く新しいカリキュラムは、高等学校で理系の科目を中心に学んできた生徒も、文系の科目を中心に学習してきた生徒も、それぞれの得意な科目で、専門の分野をゼロから学ぶことができる積極的で斬新な教育体系を目指しています。いわば、文系・理系の垣根のない工学部を目指しています。

現在の 2 学科を簡単に紹介します。

電子情報工学科：コンピュータ構成とソフトウェア技術が教育の中心です。地雷探査、GPS システム、コンピュータグラフィクス、脳システムなどに具現化する分野も担っています。

ロボット工学科：メカトロニクス教育を中心においています。情報処理技術、制御技術、メカニカル機構、プロセス機構、生体機構、視覚ロボットなどそのものも守備範囲としています。

### 電子情報工学科

#### (Department of Electronics and Information Engineering)

コンピュータ、インターネット、携帯電話、デジタル家電などの言葉で知られる電子情報関連の技術は、現代における社会生活、産業活動にとって不可欠なものになっています。いわゆる IT（情報技術）と呼ばれるこの分野は日進月歩の進歩・発展をしていますが、その一方で新聞などで話題になる様々な陰の部分と表裏一体になっていて、技術的にも社会的にも多くの問題の解決が必要になっています。

電子情報工学科では、このような IT 時代に対応できる技術者・研究者・教育者の養成を目指しています。カリキュラムは、ハードとしての電子工学とソフトとしての情報工学、それらを応用した通信関連の技術について、基礎から段階を追って系統的に修得できるように構成されています。講義、演習、実験、少人数のセミナー、プロジェクト研究、卒業研究など、いろいろな授業形態を通して主体的に学ぶことによって、いつの時代にも通用する実力を身に付けることができます。

また、技術だけの世界に閉じ込めることなく、現実の社会生活に適応できる社会人としての素養も身に付けられるような教育も実施しています。たとえば、情報倫理や知的財産権などにも関心を持てるようにする科目を用意し、情報技術者としての社会的義務・責任を理解して行動できるよう配慮しています。

電子情報工学科では、多様な経歴をもつ教員が協力して、大学 4 年間にどのような内容と手順で教育するのが学生にとって効果的か、ということについても研究を続け、研鑽を重ねています。卒業までに、学生一人ひとりを、一人の自立した社会人として IT 分野で活躍できる人材に育てることが目標です。



## ロボット工学科

(Department of Robotics & Bio-mechatronics)

これからの世界で私たちの生活を支えるのは、IT（情報技術）とRT（ロボット技術）だと言われています。このうち、ロボットとは、自動的に動く機械のことです。極端な言い方をすれば、電気洗濯機や自動ドアもロボットの一種です。これが言いすぎだというのであれば、電気洗濯機や自動ドアのように自動的に動く部分を持った機械にも、ロボット技術が生かされていると言うことはできると思います。

ロボットには、動く部分と動かす部分があるので、学科のカリキュラムではその両方について学びます。

〈 人の場合 〉

動く部分：手足など

動かす部分：脳、神経（本当はエネルギーも必要です）

〈 ロボットの場合 〉

動く部分：モータ、ギヤなど

動かす部分：コンピュータ（+プログラミング）、電気回路、センサ

ロボットについて学ぶために、私たちの学科では、実際に物に触れたり作ったりすることからスタートします。実物で体感したイメージに学問的な知識の肉付けをしていくことで、実社会でものをいう実力を養っていきます。また、学生と教員が互いに声を掛けやすいアットホームな雰囲気の中で、学生同士が協力し教え合う機会を通して、それぞれが人間的にも成長していく場を提供しています。

# スポーツ健康政策学部

(Faculty of Culture and Sport Policy)

桐蔭横浜大学では2008年4月、旧来の体育系・スポーツ学部とは異なる「文化スポーツ」というコンセプトを掲げた、全く新しいスポーツの学部を創設しました。今までスポーツは、勝ち負けを争う競技や健康増進のためのものと考えられてきました。しかし「マッスル（筋肉）ミュージカル」や「YOSAKOI ソーラン祭り」が文化でもありスポーツでもあるように、スポーツをもっと大きな無限の世界につながる扉だと考えてください。スポーツやさまざまな身体運動は、私たちのあらゆる感覚を刺激し、新しい表現やコミュニケーションを生み出します。そこから、福祉や教育、街づくりや国際関係など、現代社会が抱える諸問題を解決する糸口が生まれてくるのではないのでしょうか。

それゆえにスポーツ健康政策学部が育みたい人材は、プロ選手や体育教師にとどまりません。たとえばスポーツ行政に取り組む公務員、アスリートから高齢者・障害者まで応用できるスポーツ用品やトレーニング機器の技術開発者、からだを動かして豊かな心を育むことができる小学校教師や中・高保健体育教師、スポーツを通して国際交流を促進するNGO職員、科学的な分析ができるスポーツトレーナーなど、実にさまざまです。

スポーツ経験者には、自分を表現する「積極性」と、チームプレーで身につく「他人を理解する力」という立派なベースがあります。そんな可能性にあふれた学生に、4年間で「想像する力」「コミュニケーションする力」「つらくてもがんばる力」をつけ、これからの社会を変えるような人材を育成していきたいと思っています。自分が取り組んできたスポーツの可能性がどこまで広がるか、「文化スポーツ」の視点から私たちと一緒に考えていこうではありませんか。

## スポーツ教育学科

(Department of Sport Education)

この学科は、今日的な教育課題の解決に応えることができかつ確で柔軟な指導法などを身に付けた学校教員や、生涯学習社会で活躍できるスポーツ指導者を養成することを目的としています。

基本的な生活習慣の乱れ、体力低下、いじめ、不登校などの教育課題、加えて教員の指導力不足など学校は多くの課題を抱えており、これらの解決が急務となっています。この学科では、単にスポーツや健康のみならず、広く学校教育について学べる履修科目やそれを専門的に教授できる教員を揃えていますので、教員として求められる資質・能力と指導力を十分に研いでいくことができます。この学科はスポーツ系学部では全国で初めて小学校1種免許を取得できるということでもユニークな存在です。子どもたちの心身を巡る課題の多くは、特に義務教育の初期の段階においてスポーツ教育などを充実することによりかなり解決できると考えています。

また、現在は生涯学習社会といわれていますが、中でもスポーツは人々の生活を豊かにする文化として重視されています。最近では生涯スポーツを継続的に実践している人々も増えています。当然、文化スポーツについて理解し、適切なスポーツ指導によって人々の生活をより豊かにする人材も社会から求められています。誰もが楽しくスポーツに親しめる社会の建設に向け、その指導者を養成していくこともこの学科の使命です。

## スポーツテクノロジー学科

(Department of Sport Technology)

本学科は、スポーツを理論、実践の両面から支援できる指導者や、スポーツエンジニアの養成を目指し、スポーツ科学や工学そして関連する領域の専門的知識とともに、科学的・総合的な識見や技能を持つ人材を養成することを目的とし、「スポーツトレーナーコース」と、「スポーツテクノロジーコース」の2コースで構成されています。

近年のスポーツ科学は、医学と工学と結びつき、飛躍的に進化を遂げました。「スポーツトレーナーコース」では最新のトレーニング理論やデータ分析方法を学び、その最前線を推し進めます。トレーニングに関する専門知識に加え、技術や戦術、心理やチームワークなどを学び、スポーツ界だけでなく、競技や表現を支えるからだづくりに広く貢献できる指導者やトレーナーを育成します。

また、スポーツ・トレーニング機器は、工学技術の応用によって発展し、アスリートの競技能力を向上させてきました。「スポーツテクノロジーコース」では、こうした機器の次のステージとして、アスリートに限らず、高齢者や障害者向けなど、広く社会への応用を探ります。身体機能に関する科学的知識と工学技術を兼ね備えた新しいスポーツエンジニアを育成します。

## スポーツ健康政策学科

### (Department of Culture and Sport Policy)

スポーツ健康政策学科は、スポーツはもとより、儀礼や芸術表現などの身体運動や身体表現も含め、「からだを動かすこと」を通して、仕事や生きかたの可能性を柔軟かつ大胆に広げていくことを目指す、これまでにない新たな領域を追究する学科です。

スポーツは未だに勝敗や記録を求める競技・競争という狭いイメージから脱し切れずにいます。しかしスポーツや身体運動、身体表現などは、個々人が健康なからだをつくるにも、活力ある地域社会を育むにも、異文化社会で言葉を越えたコミュニケーションをはかって交流していくにも、ますます不可欠のファクターとなりつつあります。

そのため、スポーツ健康政策学科では、政治や行政、日本をはじめとする多様な文化・社会に関する知識、外国語コミュニケーション力（英語、中国語、韓国語）を身につけ、それらを基礎として、文化スポーツを手がかりに街づくりや地域振興をはかる行政スタッフ、文化スポーツによる国際交流や国際協力を推進する人材、スポーツや身体運動などの楽しさや大切さを的確かつ魅力的に伝えられるジャーナリスト等の育成をはかります。

主に国内をフィールドに仕事を展開していくことを目指す「健康政策コース」と、国際的なフィールドを視野に入れる「国際交流政策コース」の2つのコースがあります。

学術的な知見が、現実社会における具体的なことがらとどのように関わっているかを、体験を通して「全体的知識」として体得できるよう、サービス・ラーニングや国際コミュニケーション実習など、実習を充実させ、座学と実習を有機的に結びつけるカリキュラムとなっています。

## 研究科・専攻概要

### 法学研究科 (Graduate School of Law)

#### 修士課程法律学専攻

大学院法学研究科は、法律学専攻のみを設置し、すべての法分野について、広く国際的な視野に立った深度ある教育と研究を行うことを目的としています。したがって、細分化された専攻の枠を超えて、主体的に任意の授業科目を選択することができます。法律学専攻の中に、相互の関連性の高い授業科目を系統的に配置して、公法学、刑事法学、民事法学、基礎法・比較法学の4つの研究分野を設置。それぞれの研究分野ごとに、国内の研究機関はもとより、海外の大学等との連携強化により、教育と研究の可能性は大きく広がっています。

#### 博士後期課程法律学専攻

博士後期課程は、既設の大学院法学研究科修士課程における法学研究教育を基礎とし、かつ、それに接続して、日本の将来の法律学および法実務のより高度な発展を支えることができる研究者および高度の専門的職業人を養成します。特に、比較法的方法を体得し、外国法や国際関係法に精通し、高度の専門的実務に従事する資質を備えた人材を養成します。

# 工学研究科 (Graduate School of Engineering)

## 修士課程医用工学専攻

医用工学専攻では、医用工学ならびに生命・環境工学の分野において新たな研究を提案し、実践する研究者、技術者の養成を目的とします。医療に貢献する理工学技術の開発、健康管理にかかわる生態環境、化学環境、生活環境の問題の科学的な解明と処理、環境改善にかかわる新技術の開発などに扱う専門家の育成を目指しています。

研究分野は下記の通りです。

1. 医用工学研究分野
2. 生態環境工学研究分野
3. 遺伝子工学研究分野
4. 生体機能分子工学研究分野

## 修士課程情報・機械工学専攻

情報・機械工学専攻の研究分野は大きく二つに分けられますが、ひとつは情報とそれを扱う人間との間のインターフェイスに関する研究であり、他はわれわれの生活の様々な局面で利用されようとしている、各種機械の機能化さらには知能化に関する研究です。これらの研究において独自技術を扱う専門家の育成を目指しています。

研究分野は下記の通りです。

1. 応用情報工学研究分野
2. 知能機械工学研究分野

## 博士後期課程医用工学専攻

本専攻は、新たな研究の視点を持った医用工学ならびに環境工学の研究者の育成、医工学の技術開発に貢献する専門家の養成を目的とします。

医用工学においては、医用材料と医療用診断装置の開発、理化学的治療技術の開発、そして罹病以前の健康管理にかかわる科学的研究、特に健康維持に対して生態環境、化学環境、生活環境が絡む問題の科学的解明などを課題とします。

研究分野は下記の通りです。

1. 医用工学研究分野
2. 生態環境工学研究分野
3. 遺伝子工学研究分野
4. 生体機能分子工学研究分野
5. ナノテクノロジーおよびエネルギー工学研究分野

## 法務研究科法務専攻（法科大学院・Law School）

2004年4月から法科大学院を設置し、法律実務家の養成に力を入れています。

それまでは、法学部法律学科を卒業した学生が司法試験を受け、合格した者だけが司法研修所に入って実務家になるための訓練を受けていたのですが、それでは今日の社会の需要に追いつけないということから、大学院の中に法律の理論のみならず、法律実務を教える法務研究科を設けることになったのです。これが、法科大学院（いわゆる Law School）です。ここでは、教員として裁判官、検事、弁護士など相当数の実務経験者を擁し、実際の実例を通して、社会に生起する現実の問題をどのように適切に処理するかを学びます。そのためには、単なる法的理論や基礎理論だけではなく、高い見識と広い視野に支えられたリーガル・マインドの涵養も必要とされます。

この Law School を卒業した者は、多くは新たな司法試験を受けて裁判官、検事、弁護士などの法律家になることが期待されていますが、各企業の法務部や国その他の公共団体の職員、更には司法書士など法律関係の他の部署で働くことも期待されており、今後この分野の発展は、大学のみならず社会全体にとって、非常に重要な部門になると思われます。

## 法学部 (Faculty of Law)

### 法律学科 (Department of Law)

#### 石山 宏一 (いしやま こういち) 教授

---



出生年 : 1947 年  
在籍 : 1999 年 4 月～  
最終学歴 : 米国タフツ大学フレッチャー法律外交大学院修士課程  
学位 : 国際学修士  
学位論文 : The Shinmi Mission: Japan's "First" Encounter  
With The United States  
専門分野 : ビジネス英語、時事英語、ジャーナリズム論  
前職 : 駒沢女子短期大学英語英文科助教授  
ビジネスタイムズ(シンガポール) 記者  
ザ・ストレートタイムズ(シンガポール) 記者  
日本経済新聞記者、ザ・タイムズ(ロンドン) 記者  
AP 通信(ニューヨーク) 記者  
(株)サイマル・インターナショナル会議通訳者  
留学 : 米国ミドルベリー大グルー基金生(1965～1969)  
同タフツ大フレッチャースクール(1969～1970)  
資格 : 通訳案内業(英語)免許(国家資格)  
非常勤講師 : 大妻女子大学文学部コミュニケーション文化学科  
学会 : 日本時事英語学会(2000-2003 年度理事(関東支部長))  
社会的活動 : (社)日本外国特派員協会(外人記者クラブ) 図書委員、母  
校ミドルベリー大学(米国)同窓会東京支部顧問  
受賞・表彰 : 「現代用語を英語にする」(単著、ジャパントイムズ 1991 年  
刊)が東京・八重洲ブックセンター(本店)の語学部門ベスト  
セラーリスト(同年 10 月第3,4週)で第8, 9位を占める。米国  
ミドルベリー大学教養学部政治学科より High Honors(上席  
優秀賞)受賞(1969)。「ポケットプログレッシブ英和・和英  
[愛称ポケプロ]辞典」(堀内克明・元明大教授との共編著、  
小学館刊)が初版('95 年2月発行)から第2版('01 年2月  
刊)を経て'04 年3月末までの約8年間での推定実売部数  
が 110 万部を突破し(小学館外国語辞書編集部調べ)、新  
規市場参入本としては異例のミリオンセラーとなった。ま  
た、'02 年2月下旬実施された東京大学前期日程英語入試  
問題の一部が'01 年に担当した桐蔭高校3年生向け特別  
講義(「難関校リスニング対策」と「難関校自由英作文対  
策」)内容と酷似、ほぼ的中し現役合格した同校3年生から  
熱烈感謝され、学校説明会で honorable mention(名誉ある  
言及)を受ける。2007 年 5 月 11 日発売された新刊書「トレン  
ド日米表現辞典第4版」(編集主幹担当)がオンライン最大  
書店アマゾン(日本)の「和書・和英辞典」部門の「売れてい  
る順」(ベストセラーリスト)で 10 月 24 日初めて第1位(検索  
対象753冊中)を占め、和英辞典ランキングの頂点に立つ



た。上記の「ポケプロ辞典」第3版(08年2月刊)が三省堂書店神保町本店の一般書部門「週間ベストセラー」ランキング(09年3月29日調べ)で1位を占める。

## 著書出版

---

### 石山宏一

「ポケットプログレッシブ英和・和英辞典第3版ハローキティ版」

堀内克明共編著

小学館 p.634

2008年12月17日

内容:上記のミリオンセラーとなったポケット版英語辞典第3版(08年2月発行)のハローキティ版。ハローキティ版は初版が1999年4月、2版が03年4月に発行されている。ハローキティのキャラクター権は(株)サンリオが所有しており、この辞典は小学館とサンリオのコラボ商品。同辞典の他のキャラクター版としては「ドラえもん版」が1995年1月に初版、01年4月に2版が発行され、「ピーターラビット版」が1995年1月に初版、03年4月に2版が発行されている。

## 学会・研究会発表

---

### 石山宏一

「新語解剖シリーズ(47)－『smexting』から『地頭力(じあたまりよく)』まで」

日本時事英語学会第79回新語・語法研究分科会

2008年5月10日 於青山学院大

### 石山宏一

「新語解剖シリーズ(48)－『staycation』から『低炭素社会』まで」

日本時事英語学会第80回新語・語法研究分科会

2008年7月12日 於青山学院大

### 石山宏一

「新語解剖シリーズ(49)－『geotagging』から『セルフレジ』まで」

日本時事英語学会第81回新語・語法研究分科会

2008年9月12日 於八丁堀中央区民館(東京・八丁堀)

### 石山宏一

「貿易英語最前線:barter から Doha Round まで」

日本時事英語学会第81回新語・語法研究分科会

2008年9月12日 於八丁堀中央区民館(東京・八丁堀)

### 石山宏一

新語解剖シリーズ(50)－『toxic assets』から『婚活(こんかつ)』まで

日本時事英語学会第82回新語研究分科会

2008年11月8日 於明石町中央区民会館(東京・築地)

### 石山宏一

新語解剖シリーズ(51)－『a going concern』から『派遣切り』まで

日本時事英語学会第83回新語研究分科会

2009年1月10日 於青山学院大学青山キャンパス(東京・青山)

## 石山宏一

新語解剖シリーズ(52) - 『an e-mail storm』から『渡り』まで  
日本時事英語学会第84回新語研究分科会  
2009年3月14日 於青山学院大学青山キャンパス(東京・青山)

## 論文掲載

---

### 石山宏一

「新しいマクロ経済英語入門教科書試案その4」  
桐蔭横浜大学編『桐蔭論叢』第18号 63-72頁  
2008年6月15日

### 石山宏一

「新しいマクロ経済英語入門教科書試案その5」  
桐蔭横浜大学編『桐蔭論叢』第19号 49-60頁  
2008年12月15日

## 講演会・研修会講師

---

### 石山宏一

「秋高からミリオンセラーまで」  
秋田県立秋田高校昭和40年卒業生同窓会「四〇会」講演  
2008年10月11日 於パーティギャラリーイヤタカ(秋田・秋田市)

## 雑誌掲載

---

### 石山宏一

石山宏一の週刊新語ウォッチング  
小学館編「小学館ランゲージワールド」(電子隔週刊誌オンラインコラム)  
(英日編) (9) non-doms 非居住者 (10) smexting 一服メール / (日英編) (9) 地頭力(じあたまりよく)  
creative thinking (10) 後期高齢者医療(制度) a new medical insurance (system) for the elderly aged  
over 75  
2008年4月14日、28日

### 石山宏一

石山宏一の週刊新語ウォッチング、(英日編) (11) an alpha male 組織(会社)のボス (12) compression  
socks 着圧(ちやくあつ)靴下 / (日英編) (11) 戦力外通告(される) be designated for assignment (and  
put on waivers) (12) メタボ健診 a medical checkup for metabolic syndrome  
小学館編「小学館ランゲージワールド」(電子隔週刊誌オンラインコラム)  
2008年5月12日、26日

### 石山宏一

石山宏一の週刊新語ウォッチング、(英日編) (13) X.O.W. モト[元]カノ (14) agflation アグフレーション  
 / (日英編) (13) マグロ蓄養(ちくよう) a tuna ranch (14) 低炭素社会 a low-carbon society  
小学館編「小学館ランゲージワールド」(電子隔週刊誌オンラインコラム)  
2008年6月9日、23日

### 石山宏一

石山宏一の週刊新語ウオッチング、(英日編)(15) staycation 自宅バケーション[ステイケーション](16) fast fashion ファーストファッション/(日英編)(15) 限界集落(げんかいしゅうらく) a marginal hamlet (16) 立体商標 a three-dimensional[3-D] trademark  
小学館編「小学館ランゲージワールド」(電子隔週刊誌オンラインコラム)  
2008年7月8日、22日

### 石山宏一

石山宏一の週刊新語ウオッチング、(英日編)(17) VISTA (新興国の)ビスタ(18) air quotes 指文字引用符/(日英編)(17) 若年性認知症 premature senility (18) 腰(こし)パン saggy pants  
小学館編「小学館ランゲージワールド」(電子隔週刊誌オンラインコラム)  
2008年8月5日、19日

### 石山宏一

石山宏一の週刊新語ウオッチング、(英日編)(19) party school パーティ大学(20) geotagging 地理タグ付け (21) slugging 相乗り通勤する/(日英編)(19) 炭層ガス coalbed methane (CBM)(20) セルフレジ self checkout (21) 米粉(こめこ) rice flour  
小学館編「小学館ランゲージワールド」(電子隔週刊誌オンラインコラム)  
2008年9月1日、15日、29日

### 石山宏一

石山宏一の新語ウオッチング、(英日編)(22) the financial bailout plan 金融安定化法案(23) toxic assets 不良資産/(日英編)(22) 婚活(こんかつ) mate-hunting (23) 自治体キャラクター local governments' cartoon characters  
小学館編「小学館ランゲージワールド」(電子隔週刊誌オンラインコラム)  
2008年10月14日、27日

### 石山宏一

石山宏一の新語ウオッチング(英日編)(24) credit default swaps(CDSs)損失肩代わり商品(25) digital natives デジタルネイティブ/(日英編)(24) 二酸化炭素の地下貯留 Carbon Dioxide Capture and Storage(CCS)(25) 時価会計 mark-to-market accounting  
小学館編「小学館ランゲージワールド」(電子隔週刊誌連載オンラインコラム)  
2008年11月10日、25日

### 石山宏一

石山宏一の新語ウオッチング(英日編)(26) carbon footprint カーボンフットプリント[累積二酸化炭素排出量](27) a going concern ゴーイングコンサーン[継続企業の前提]/(日英編)(26) 周産期医療 prenatal care (27) 派遣切り the “temps”-cutting  
小学館「小学館ランゲージワールド」(電子隔週刊誌連載オンラインコラム)  
2008年12月8日、22日

### 石山宏一

石山宏一の新語ウオッチング(英日編)(28) an obesity tax 肥満税(29) the millenium generation ミレニアム世代/(日英編)(28) 埋蔵金 slush funds (29) 認認介護 dementia-to-dementia nursing care  
小学館編「小学館ランゲージワールド」(電子隔週刊誌連載オンラインコラム)  
2009年1月13日、26日

## 石山宏一

石山宏一の新語ウォッチング(英日編)(30)an e-mail storm メールストーム(31)a game changer ゲームルール変更事件/(日英編)(30)定額給付金 fixed-amount cash handouts(31)渡り frequent golden parachutes

小学館編「小学館ランゲージワールド」(電子隔週刊誌連載オンラインコラム)

2009年2月9日、23日

## 石山宏一

石山宏一の新語ウォッチング(英日編)(32)a locavore 地産地消主義者(日英編)(32)ブログ炎上 blog laming 小学館編「小学館ランゲージワールド」(電子隔週刊誌連載オンラインコラム)

2009年3月9日

## 石山宏一

石山宏一の新語ウォッチング[英和編](33)a fat tail 予想不能数値[和英編](33)草食系男子 a herbivorous young male

小学館編「小学館ランゲージワールド」(電子隔週刊誌連載オンラインコラム)

2009年3月23日

## その他

---

英文コメント英字新聞社記事掲載

South China Morning Post (SCMP.com=香港最大英字紙), “War of words: Citizen journalists are challenging the established press, but will laypeople with laptops replace professionals?”(By Julian Ryall)の電子記事に「市民ジャーナリズム(citizen journalism)」に関する英文コメントが引用。

2008年5月3日

学長通訳

小島学長とリチャード・アルダーマン教授(米ヒューストン大)との対談通訳

2008年9月12日 於桐蔭横浜大学学長室

外人記者クラブセミナー英語司会

(社)日本外国特派員協会(「外人記者クラブ」)図書委員会主催「Book Break--Peter Mcmillan's “One Hundred Poems, One Poem Each”(新刊著者と語るセミナー/ピーター・マクミラン訳「小倉百人一首」)での英語での司会、於同協会(東京・有楽町)

2008年11月6日 於同協会(東京・有楽町)

学長通訳文掲載

桐蔭横浜大学法学部編「バイリーガル創立記念」小冊子「学長対談」に昨年9月12日に英日・日英逐次通訳者をつとめた小島武司学長とリチャード・アルダーマン教授(米ヒューストン大学)とのバイリーガルに関する対談(於本学学長室)の邦訳文を掲載。

2009年2月14日発行

共編著『ポケプロ辞典』iPhoneアプリ採用

08年2月2日発売された共編著「ポケットプログレッシブ英和・和英辞典第3版」(小学館、和英担当、ミリオンセラー)が09年2月11日にアップル社ケータイiPhoneの「iPhoneアプリ」(ケーション)のダウンロード対象に採用・発売された。同社の「App Store」からダウンロードできるようになった。

iPhoneアプリ採用の共編著『ポケプロ辞典』が App ストアのレファレンス部門ベストセラーリストで3位  
共編著「ポケットプログレッシブ英和・和英辞典第3版」〔小学館、和英担当〕は09年2月11日、アップル社ケータイiPhoneの「iPhoneアプリ」(ケーション)のダウンロード対象に採用・発売されたが、その「App ストア (Store)」のレファレンス部門のベストセラーリストで第3位〔3月26日時点〕を占めた

## 内ヶ崎 善英 (うちがさき よしひで) 教授

---



出生年 : 1958 年  
在籍 : 1993 年 4 月～  
最終学歴 : 中央大学大学院法学研究科博士後期課程  
学位 : 法学修士 (中央大学)、Master of Laws (N.Y.U.)  
学位論文 : 勧告的意見の機能について  
専門分野 : 国際法  
前職 : 日本学術振興会特別研究員  
留学 : New York University, School of Law  
非常勤講師 : 中央大学法学部  
学会 : 国際法学会、世界法学会

## その他

---

### ○助成金・補助金等

科学研究費補助金 基盤研究(C) (2007 年-2009 年)

## 小川 浩三 (おがわ こうぞう) 教授

---



出生年 : 1953 年  
在籍 : 2002 年 4 月～  
最終学歴 : 東京大学大学院法学研究科博士課程単位取得退学  
学位 : 法学修士 (東京大学)  
専門分野 : 法史学、比較法  
前職 : 北海道大学大学院法学研究科教授  
留学 : ドイツ連邦共和国チュービンゲン大学  
法学部国際的私法史研究所(1993.3～1994. 8)  
学会 : 比較法学会(理事)、日独法学会(理事)、法制史学会  
社会的活動 : 最高裁判所図書館委員会委員

## 著書出版

---

小川浩三 (共著) 早稲田大学比較法研究所 (編)

「比較と歴史のなかの日本法学——比較法学への日本からの発信——」

成文堂

2008 年 3 月 31 日

小川浩三 (共著) 新田一郎・林信夫 (編)

「法が生まれるとき」

創文社

2008 年 10 月 15 日

**小川浩三**(訳書)

ハンス＝ユルゲン・ケルナー「ドイツにおける刑事訴追と制裁」

信山社 XX+242 頁

2008年6月25日

---

**鹿見嶋 繁 雄 (かごしま しげお) 教授**

---



出生年 : 1950年  
在籍 : 1993年4月～  
最終学歴 : 立教大学大学院文学研究科  
学位 : 文学修士  
学位論文 : ゴート語の現在分詞について  
専門分野 : ゲルマン語学  
前職 : 成蹊大学工学部非常勤講師  
非常勤講師 : 中央大学法学部  
学会 : 日本独文学会

---

**笠原 毅 彦 (かさらは たけひこ) 教授**

---



出生年 : 1957年  
在籍 : 1993年4月～  
最終学歴 : 慶應義塾大学大学院法学研究科博士課程満期退学  
学位 : 法学修士(慶應義塾大学)  
学位論文 : 法判断権の所在  
専門分野 : 民事法、法情報学  
前職 : 常磐大学短期大学部講師  
留学 : ドイツ連邦共和国ザールラント大学(1984～1986, 1994～1995)  
学会 : 日本私法学会、比較法学会、慶應法学会、民事訴訟法学会、法とコンピュータ学会、日本経営実務法学会、情報ネットワーク法学会  
社会的活動 : 手続法研究所(慶應)理事、私立大学情報教育協会法律学教育FDIIT活用研究委員会委員、同協会、産官学連携サイバーユニバーシティ構想推進会議委員、情報ネットワーク法学会理事・サイバーコート研究会主査、総務省戦略的情報通信研究開発推進制度専門評価委員

---

**学会・研究会発表**

**笠原毅彦**

「法学教育のIT化ー大学間連携を視野に入れて」

情報ネットワーク法学会研究大会

パネリスト米田憲一, 角田篤泰, 稲垣直樹

2008年12月6日 於東京電機大学

## 論文掲載

---

### 笠原毅彦

「法学教育のIT化 ― ロースクール完成年度を契機として」  
情報ネットワーク法学会平成 19 年度研究大会第2分科会のパネルディスカッションから  
情報ネットワークローレビュー7巻  
2008 年 7 月 23 日

### 笠原毅彦

「IT を利用した裁判手続き支援」  
人工知能学会誌 23 巻 4 号  
2008 年 7 月 23 日

### 笠原毅彦

「知識伝達から知の創造へー価値創造の前提としての主体性」  
明治学院大学法創造研究会報告書  
2008 年 7 月 23 日

## 加藤 幸 嗣 (かとう こうじ) 教授

---



出 生 年 : 1953 年  
在 籍 : 2004 年 10 月～  
最 終 学 歴 : 東京大学法学部  
学 位 : 法学士  
専 門 分 野 : 行政法、地方自治法、環境法  
前 職 : 参議院法制局参事、山口大学助教授、国土舘大学教授等  
学 会 : 日本公法学会、日本行政学会、自治体学会、日本環境学会

## 加藤 英 夫 (かとう ひでお) 教授

---



出 生 年 : 1942 年  
在 籍 : 1993 年 4 月～  
最 終 学 歴 : 早稲田大学大学院文学研究科修士課程  
学 位 : 文学修士  
学 位 論 文 : ドライザー文学の文明諸相の研究  
専 門 分 野 : アメリカ研究、アメリカ文学研究  
前 職 : 千葉工業大学教授  
留 学 : ミシガン大学  
学 会 : アメリカ学会、千葉大学英文学会(評議員)

## 河合 幹雄 (かわい みきお) 教授

---



出生年 : 1960 年  
在籍 : 1993 年 4 月～  
最終学歴 : 京都大学法学部博士後期課程  
学位 : 法学修士  
学位論文 : アメリカにおける被害者の権利運動  
専門分野 : 法社会学  
前職 : 京都大学法学部助手  
留学 : パリ第 2 大学博士課程  
非常勤講師 : 一橋大学法学部・法科大学院  
学会 : 日本法社会学会、日本法哲学学会、日本犯罪社会学会、  
日本被害者学会、比較法史学会  
社会的活動 : 法務省矯正局「矯正処遇に関する政策研究会」委員、日本  
法社会学会理事、日本犯罪社会学会常任理事、横浜刑務  
所視察委員会委員長、警察大学校嘱託教員、特定非営利  
法人文化創造理事長  
受賞・表彰 : 第六回日本法社会学会奨励賞

### 著書出版

---

(2005 年度未掲載分 1 件)

細井洋子、西村春夫、樫村志郎、辰野文理、編著

『修復的司法の総合的研究 ―刑罰を超え新たな正義を求めて―』

**河合幹雄** 「第 27 章 フランス」

風間書房 429～436 頁

2006 年 1 月

**河合幹雄** 他共著

洋泉社 MOOK『アキバ通り魔事件をどう読むか！？』

「犯罪学的に見れば、この事件は一級に凶悪とは言えない」

洋泉社 87～91 頁

2008 年 8 月 29 日

### 学会・研究会発表

---

(2007 年度未掲載分 2 件)

**河合幹雄**(コーディネーター兼司会)

ラウンドテーブルB「裁判員は犯罪をどう見るのか」

話題提供者 河合幹雄(桐蔭横浜大学)北村隆憲(東海大学)

日本犯罪社会学会第 34 回学術大会

2007 年 10 月 20 日 於:龍谷大学

**河合幹雄**(コメンテーター)

シンポジウム「日本社会の構造変化と犯罪・非行の動向」

コーディネーター兼司会 宮澤節生(青山学院大学)コーディネーター 原田豊(科学警察研究所)

パネリスト 町村敬志(一橋大学)刈谷剛彦(東京大学)朴元奎(北九州大学)

日本犯罪社会学会第 34 回学術大会

2007 年 10 月 21 日 於:龍谷大学



**河合幹雄**(報告)

シンポジウム「ミニシンポジウム①」全国調査からみた民事訴訟制度:利用者と代理人の意思決定と  
2008年度日本法社会学会学術大会  
2008年5月10日 於:神戸大学

**河合幹雄**(コーディネーター兼司会)

ミニ・シンポジウムA「ネット上の犯罪—書き込みを中心に」  
パネリスト 池内ひろ美(東京家族ラボ)岡村久道(弁護士)坂明(慶応大学総合政策学部・元警察庁生活安全局情報技術犯罪対策課長)  
日本犯罪社会学会第35回学術大会  
2008年10月18日 於:専修大学

**論文掲載**

---

(2006年度未掲載分 1件)

**河合幹雄**

「陪審制度導入の影響 —アメリカの陪審を見学して」  
『刑政』通巻1376号平成19年2月号 矯正協会 160～161頁  
2007年2月

(2007年度未掲載分 4件)

**河合幹雄**

「長期自由刑とは何か」  
『刑政』通巻1380号平成19年6月号 矯正協会 98～99頁  
2007年6月

**河合幹雄**

「日本の治安は悪化しているのか」  
『公明』2007年8月号 特集「定説」を疑う 通巻20号 公明党機関誌委員会 24～29頁  
2007年8月

**河合幹雄**

「裁判員制度は日本の民主主義を変える可能性を持っている—頼れない官と向き合う個人」  
『論座』2007年10月号 通巻149号 朝日新聞社 87～91頁  
2007年10月

**河合幹雄**

「被害者のことを考える余裕」  
『刑政』通巻1384号平成19年10月号 矯正協会 88～89頁  
2007年10月

**河合幹雄**

「KEY WORD PFI 刑務所」  
『法学教室』2008年4月号 通巻331号 有斐閣 2～3頁  
2008年4月

## 河合幹雄

「再非行少年と再非行でない非行少年」

『月刊 少年育成』2008年6月号通巻627号 特集「増えつつける再非行」

大阪少年補導協会 8～13頁

2008年6月

## 河合幹雄

「社会的観点から見た犯罪被害者」

『更生保護』平成20年12月号59巻12号 特集「犯罪被害」

日本更生保護協会 38～42頁

2008年12月

## 講演会・研修会講師

---

(2007年度未掲載分 3件)

### 河合幹雄(講師)

「大局的見地から犯罪の少ない日本を維持する 刑事政策における日本の伝統的手法」

特別捜査幹部研修所第80期生研修講義

2007年6月12日 於 警察大学校特別捜査幹部研修所

### 河合幹雄(講師)

「大局的見地から犯罪の少ない日本を維持する 刑事政策における日本の伝統的手法」

特別捜査幹部研修所第81期生研修講義

2007年11月15日 於 警察大学校特別捜査幹部研修所

### 河合幹雄(講師)

「裁判員制度は大丈夫なのか」

桐蔭横浜大学現代GP公開講座

2008年2月8日 於:新横浜プリンスホテル千鳥の間

### 河合幹雄(講師)

「少年審判廷を検証！」

被害者と司法を考える会主催

2008年4月29日 於:青山学院大学総合研究所9階16会議室

### 河合幹雄(講師)

「犯罪・治安対策」

人事院公務員研修所平成20年度 初任行政研修 政策課題研究:基調講演・全体討議(犯罪・治安対策)

2008年5月19日・5月23日 於:人事院公務員研修所

### 河合幹雄(講師)

「大局的見地から犯罪の少ない日本を維持する 刑事政策における日本の伝統的手法」

特別捜査幹部研修所第82期生研修講義

2008年6月6日 於:警察大学校特別捜査幹部研修所

### 河合幹雄(講師)

「犯罪統計の分析と犯罪情勢の予測」

法務総合研修所 第28回ベトナム法整備支援研修

2008年7月1日 於:法務総合研修所

**河合幹雄**(講師)

「治安の現状と地域社会」

神奈川県安全・安心まちづくりセンター主催 平成二十年度安全・安心まちづくりリーダー養成講座  
2008年8月23日 於:横浜市社会福祉総合センター

**河合幹雄**(講師)

「大局的見地から犯罪の少ない日本を維持する 刑事政策における日本の伝統的手法」

特別捜査幹部研修所第83期生研修講義  
2008年10月30日 於:警察大学校特別捜査幹部研修所

**河合幹雄**(講師)

「都市計画と安全 法社会学からの期待」

都市防犯研究会(日本都市計画学会)  
2008年12月11日 於:都市計画協会会議室

**雑誌掲載**

(2006年度未掲載分 1件)

座談会 **河合幹雄**、北島敬介、北島元始、瀬川晃、津富宏、太田幸充、田中奈々子、澤田健一、林和治、古田修一、名執雅子、小林万洋

「会長を囲む座談会 矯正は社会からの期待にどうこたえるか」

『刑政』通巻1375号平成19年1月号 矯正協会 56～98頁  
2007年1月

(2007年度未掲載分 4件)

**河合幹雄**

「地域社会の健全性が、安心と未来の治安をもたらす。」

コラム「今月の論点」『のんびる』2007年6月号、パルシステム生活協同組合連合会 5頁  
2007年5月

**河合幹雄**

インタビュー 「真実がわからない”取り残され感”が格段に良くなった社会で不安を生む」

『人間会議』2007年冬号 宣伝会議 90～95頁  
2007年12月

**河合幹雄**

書評 「私が選んだ3冊・2007年の収穫本」

『論座』2008年1月号 311頁  
2008年1月

**河合幹雄**

書評 「Book Hunting 人生経験剥奪社会に残した「泣いてもええんよ」の言葉」

(河合隼雄著『泣き虫ハアちゃん』の書評)  
『Foresight』2008年2月号 新潮社 57頁  
2008年2月

### 河合幹雄

書評「Book Review『死刑』森達也」  
『論座』2008年5月号 325頁  
2008年5月

### 河合幹雄、井上達夫、松原芳博

「死刑論議の前提」  
『世界』2008年9月号 no.782 岩波書店 pp.141-153  
2008年8月10日

### 河合幹雄

「Book Review『刑法入門』山口厚」  
『論座』2008年9月号 327頁  
2008年9月

### 河合幹雄

「私のすすめる岩波新書」  
『図書』2008年臨時増刊岩波新書創刊70年記念 22～23頁  
2008年11月

### 座談会：河合幹雄、松本時夫、吉田宣之

「座談会「裁判員制度の課題」」  
『桐蔭論叢』第19号 2008年12月 桐蔭横浜大学 5～23頁  
2008年12月

### 河合幹雄

「「障害者の犯罪」は増加していない 日本の犯罪状況の全体像を示せ」  
『サイゾー』2009年3月号 pp.97～98  
2009年3月1日

### 新聞記事掲載

---

(2006年度未掲載分 3件)

### 河合幹雄

「「犯罪「減少」社会を診断する」」  
オピニオン面 コラム 時流持論連載1 朝日新聞  
2007年1月22日

### 河合幹雄

「犯罪の「稚拙化」に注目を」  
オピニオン面 コラム 時流持論連載2 朝日新聞  
2007年2月12日

### 河合幹雄

「裁判員制が問う市民と情報」  
オピニオン面 コラム 時流持論連載3 朝日新聞  
2007年3月5日

(2007 年度未掲載分 4 件)

**河合幹雄**(インタビュー)

「「凶悪化」より「稚拙化」

時時刻刻「少年法改正案 低年齢路線に限界 小学 5 年生でも少年院」に付加されたコラム記事  
朝日新聞

2007 年 5 月 4 日

**河合幹雄**(インタビュー)

「長崎、町田両事件を考える 暴力団排除・・・」

共同通信より全国の地方紙に配信され 10 社以上で掲載されている

長崎新聞

2007 年 5 月 9 日他

**河合幹雄**(インタビュー)

「”凶悪化”する少年犯罪をどう見る 犯罪数は激減、稚拙化が問題」

全国商工新聞

2007 年 5 月 21 日

**河合幹雄**(インタビュー取材)

「ニュースUP「交通事故不起訴4度 父の叫び届かぬ司法」

岡山支局 石戸論記者による ニュースUP「交通事故不起訴4度 父の叫び届かぬ司法」にインタビューが 16 行掲載された。

毎日新聞 岡山版

2008 年 1 月 30 日

**河合幹雄**(インタビュー)

「小さい罪から指導を」

福岡支局の記事「犯罪防ぐ街の姿は 福岡連続殺傷 専門家に聞く」の三人の論説のひとつとして掲載された。

朝日新聞 14 版社会面

2008 年 4 月 20 日

**河合幹雄**(インタビュー)

「「体感治安」悪化の一途」

時時刻刻「安全な国崩した犯行 秋葉原無差別殺傷」のなかでインタビュー8 行掲載。

朝日新聞

2008 年 6 月 10 日

**河合幹雄**(インタビュー)

「突然の凶行防止に壁 14 歳バスジャック 年齢チェックなど負担大きく 身分確認」

日本経済新聞 名古屋版

2008 年 7 月 19 日

**河合幹雄**

「書評『なぜ君は絶望と闘えたのか』」事件の多面性を示し、考察促す」

京都新聞 2008 年 8 月 31 日他

2008 年 8 月

## 河合幹雄(インタビュー)

「校区は最後の「砦」

記事タイトル「「選択制」に一石、賛否「学校レベル偏ってしまう」「指定校、区割り理不尽」も 江東区の新方針」という記事とその解説記事「小学校を地域の「核」に」の横に付加された識者コメント記事 東京新聞

2008年9月26日

## その他

### ○助成金・補助金等

平成 15-20(2003-2008)年度 科学研究費(特定領域研究)C01

研究課題名「市民の民事裁判使用行動」6729万8千円 共同研究者として(研究代表者 フット ダニエル)

### ○テレビ出演等

(2005年度未掲載分 1件)

出演 サイエンス・サイトーク 「凶悪犯罪は増えている、は本当か」 2006年1月29日 21:00～21:30  
TBS ラジオ

2006年1月29日

<A HREF="http://www.tbs.co.jp/radio/xitalk/">http://www.tbs.co.jp/radio/xitalk/</A>

ゲスト出演 BS朝日放送 ニュースの深層「アキバ無差別殺人 日本の安全を問う」

2008年6月16日(月)20:00-20:55

ゲスト:河合幹雄 司会:金慶珠

「それでも裁判員制度は必要だ」

インターネットテレビ ビデオニュース「マル激トーク・オン・ダイヤモンド 第408回」

ゲスト出演

2009年1月31日～

## 小島武司(こじま たけし) 教授



出生年 : 1936年

在籍 : 2006年9月～

最終学歴 : 中央大学大学院法学研究科

学位 : 法学博士

学位論文 : 訴訟改革の理論等

専門分野 : 民事訴訟法、仲裁法、弁護士法

前職 : 中央大学法学部教授、中央大学法科大学院教授

現職 : 桐蔭横浜大学学長

留学 : ミシガン大学ロースクール(アメリカ)、フィレンツェ大学(イタリア)、ケルン大学(ドイツ)、フランクフルト大学客員教授(ドイツ)、エクスマルセイユ大学客員教授(フランス)、コロンビア大学ロースクール(アメリカ・ADRセミナー担当)等

学会 : 民事訴訟法学会(元理事長)、仲裁ADR法学会(理事長)、司法アクセス学会(会長)

社会的活動 : 独立行政法人司法支援センター審査委員会(委員長)等

## 著書出版

---

(2007年度未掲載分 2件)

**小島武司**「コメント」 松本博之＝出口雅久編

『民事訴訟法の継受と伝播』

信山社

2008年2月

**小島武司**・監修

『実践民事弁護の基礎: 訴え提起までにすべきこと』

レクシスネクシス・ジャパン

2008年3月

なお、伊藤眞他編『民事司法の法理と政策〈小島武司先生古稀祝賀〉上巻(1204頁)、下巻(1186頁)』が刊行され、そこには小島の研究、教育、社会活動の全体像が直接(とりわけ下巻 1154-1181頁)間接に示されている。

## 雑誌掲載

---

(2007年度未掲載分 1件)

**小島武司、小林学**

「【ADR特集(1)】ADRの新たな「魅力」 - ミディエーション・モデルの可能性」

月刊日本行政 422号、13-17頁

2008年1月

## 鈴木直志(すずき ただし) 教授

---



出生年 : 1967年

在籍 : 1997年4月～

最終学歴 : 中央大学大学院文学研究科博士後期課程

学位 : 文学修士

学位論文 : プロイセン絶対王政における将校団について

専門分野 : ドイツ近世史・近代史、ヨーロッパ軍隊社会史

前職 : 大妻女子大学社会情報学部非常勤講師

留学 : ドイツ連邦共和国ヴュルツブルク大学

非常勤講師 : 中央大学文学部

学会 : 日本西洋史学会、歴史学研究会、法文化学会、戦略研究学会

受賞・表彰 : 戦略研究学会研究奨励賞(小野賞)受賞(2006年)

## 著書出版

---

**鈴木直志**

「プロイセン軍制改革 - 概観と展望」

『クラウゼヴィッツと『戦争論』』清水多吉・石津朋之編

(共著)彩流社 169-192頁

2008年10月31日

## 講演会・研修会講師

---

### 鈴木直志

「啓蒙絶対主義とは何か」  
桐蔭学園ポロニアフェスティバル・フロンティアセミナー  
於：桐蔭学園高校進学棟  
2008年9月21日

### 鈴木直志

「教養教育について・歴史学を素材に」  
法学部教員と父母の集い  
於：桐蔭横浜大学  
2009年3月28日

## 雑誌掲載

---

### 鈴木直志

「啓蒙絶対主義(啓蒙専制主義)について教えてください」  
『歴史と地理 世界史の研究』第217号 42-44頁  
2008年11月20日

ヨハネス・ブルクハルト(著)、**鈴木直志**(訳)  
「近世ヨーロッパにおける戦争と平和」  
『桐蔭法学』第15巻 第2号 1-22頁  
2009年2月25日



## 竹村典良（たけむら のりよし）教授

---



- 出生年 : 1957 年  
在籍 : 1993 年 4 月  
最終学歴 : 中央大学大学院法学研究科刑事法専攻博士後期課程  
学位 : 法学修士  
学位論文 : 刑事学的コープテーションの動因・諸相・帰趨(中央大学)  
専門分野 : 刑事政策、犯罪学、被害者学、刑事法  
前職 : 中央大学法学部兼任講師  
留学 : チュービンゲン大学(2002.8～2003.3)  
学会 : Société Internationale de Criminologie、World Society of Victimology、European Society of Criminology、British Society of Criminology、American Society of Criminology、Australian and New Zealand Society of Criminology、Academy of Criminal Justice Sciences. 日本刑法学会、日本犯罪社会学会、日本被害者学会
- 社会的活動 : Eleventh United Nations Congress on the Prevention of Crime and Criminal Justice, 18-25 April 2005, Bangkok, Thailand, Individual Observer、Tenth United Nations Congress on the Prevention of Crime and the Treatment of Offenders, Vienna ,10-17 April 2000, Individual Expert Observer、Editorial Board of Asian Journal of Criminology、都市生活に関する調査研究会委員(東京企画審議室)(1994.4～1995.3)
- 受賞・表彰 : 第3回菊田クリミノジー賞(2002)

### 論文掲載

---

**Takemura, N.** (2008) ‘Environmental Risks/Crimes of Nuclear Power Plant and Complexity Green Criminology: Anatomy of Problematique around Nuclear Power Plant, Earthquake and Environment’, *Research Bulletin (Toin University of Yokohama)*, 19: 81-88.

### 国際学会・シンポジウムでの発表・講演

---

**Takemura, N.**, “Global Criticality of Environmental Crimes and Chaos/Complexity Green Criminology: from environmental justice to social justice” and presented at the XV World Congress of International Society for Criminology, Barcelona, Spain, 20-25 July 2008

**Takemura, N.**, “Multiple Criticality of Environmental Crimes and Chaos/Complexity Green Criminology: Political Economy of Hazardous Waste Trafficking and Environmental Social Justice”, and presented at the 8th annual conference of European Society of Criminology held in Edinburg, United Kingdom, 2-5 September 2008

### 海外出張

---

The XV World Congress of International Society for Criminology, Barcelona, Spain, 20-25 July 2008

The 8th annual conference of European Society of Criminology held in Edinburg, United Kingdom, 2-5 September 2008

## その他

### ○助成金・補助金等

平成 20～23 年度科学研究費補助金(基盤研究(c))「地球環境危機における複雑系グリーン犯罪学に関する研究」(研究代表者:竹村典良)

## 原 千砂子 (はら ちさこ) 教授



出生年 : 1955 年  
在籍 : 1993 年 4 月～  
最終学歴 : 国際基督教大学大学院比較文化研究科博士後期課程  
学位 : 法学修士  
専門分野 : 政治思想史  
前職 : 長崎大学商科短期大学部助教授  
学会 : アメリカ学会、日本政治学会、政治思想学会、初期アメリカ学会

## ペマ・ギャルポ (ペマ・ぎやるぽ) 教授



出生年 : 1953 年  
在籍 : 2004 年 1 月～  
最終学歴 : モンゴル国立大学  
学位 : 政治学博士  
学位論文 : 中国とチベットの国際関係  
専門分野 : 国際政治  
前職 : ダライ・ラマ法王アジア・太平洋地区担当初代代表(1980～1990)  
岐阜女子大学 客員教授(1990～1996)  
岐阜女子大学 教授(1996～2004.3)  
拓殖大学海外事情研究所客員教授(1997～)  
拓殖大学海外事情研究所研究員・講師(1982～1997)  
現職 : チベット文化研究所名誉所長  
岐阜女子大学名誉教授  
学会 : アジア政経学会、国際政治学会、南アジア学会チベット学会、国際コミュニケーション学会  
社会的活動 : NPO法人チベット教育福祉基金理事長、(社)国際青年文化交流協会 理事、(財)OISCA顧問・講師団 副団長、日印親善協会理事など、約 20 団体に役職

## 講演会・研修会講師

### ペマ・ギャルポ

「チベットの真実」

2008 年 4 月 1 日 於戦略情報研究所

**ペマ・ギャルポ**

「チベットは今」

アジア問題懇話会

2008年4月5日 於プレスセンター

**ペマ・ギャルポ**

「仏教の心」

島根仏教会

2008年4月8日 於島根県民センター

**ペマ・ギャルポ**

松原仁講演会にてスピーチ きゅりあん

2008年4月9日

**ペマ・ギャルポ**

「チベット騒乱を検証する」

2008年6月2日 於アムネスティー東京支部

**ペマ・ギャルポ**

「チベット騒乱と中国」

2008年6月6日 於清和会セミナー

**ペマ・ギャルポ**

「ミャンマー・チベット問題に関する勉強会」

2008年6月12日 於衆議院第二議員会館

**ペマ・ギャルポ**

「チベットの今」

チベット文化研究所

2008年6月14日 於一二三町会館

**ペマ・ギャルポ**

「チベット問題について」

世日クラブ

2008年6月20日 於東武ホテル

**ペマ・ギャルポ**

「チベットの現状について」

2008年6月27日 於世界日報

**ペマ・ギャルポ**

「日本のアジア外交とチベット問題」

相模信用金庫

2008年6月27日 於二宮神社

**ペマ・ギャルポ**

「G8 宗教指導者サミット」

2008年6月29日 於京都西本願寺

**ペマ・ギャルポ**

「チベットの現状と未来」

国策研究会

2008年6月30日 於日本クラブ

**ペマ・ギャルポ**

NPOチベット教育福祉基金 ブリッジファンド報告会

2008年11月2日

**ペマ・ギャルポ**

エンジン01名古屋オープンカレッジ

2008年11月9日

**ペマ・ギャルポ**

「中国が隠し続けるチベットの真実」

NPOシチズンズカレッジ

2008年11月12日 於KDDIホール

**ペマ・ギャルポ**

「チベット問題の真相」

2008年12月4日 於名古屋椋山学園

**ペマ・ギャルポ**

「国際常識と中国のモラル」

2008年12月4日 於芝法人会

**ペマ・ギャルポ**

「インドを取り巻く地政学」

2008年12月8日 於防衛省情報本部

**ペマ・ギャルポ**

「その後の中国・チベット関係」

2008年12月11日 於拓殖大学海外事情研究所

**ペマ・ギャルポ**

照蓮タシ塾での講演

2008年12月18日

**ペマ・ギャルポ**

「オバマ政権とアジア」

2008年12月21日 於中部国際自動車学校

**ペマ・ギャルポ**

「チベットと中国の対話への経緯」

全日本仏教婦人連盟

2009年1月21日 於天王寺

### **ペマ・ギャルポ**

「若者に訴えたいことーお陰様イズムと日本」  
日本青年商工会議所全国理事長会  
2009年1月24日 於京都国際会議場

### **ペマ・ギャルポ**

「中国支配下のチベットの現状」  
民間外交推進協会  
2009年2月5日 於ホテルオークラ

### **ペマ・ギャルポ**

タシ塾での講演  
2009年2月26日

## **国際学会・シンポジウムでの発表・講演**

---

### **ペマ・ギャルポ**

「中国の人権状況を考えるシンポジウム」  
2008年4月30日 於憲政記念館

## **雑誌掲載**

---

### **ペマ・ギャルポ**

月刊誌 向上4月号 連載

### **ペマ・ギャルポ**

インタビュー記事  
サンデー毎日 4月6日増大号 pp.27～28

### **ペマ・ギャルポ**

対談掲載「チベットの祈りが中華拝金主義を打ち破る」  
「諸君」6月号 pp.52～60  
文芸春秋社

### **ペマ・ギャルポ**

「私は日本の中国属国化を心配している」  
「月刊日本」6月号 pp.20～21

### **ペマ・ギャルポ**

対談掲載「これは胡錦濤によるチベット・ジェノサイドだ」  
「WILL」6月号 pp.224～237

### **ペマ・ギャルポ**

「中国は五輪を開催する資格があるのか」  
産経新聞社「正論」6月号 pp.100～107

### **ペマ・ギャルポ**

月刊向上6月号 連載

**ペマ・ギャルポ**

「中国にとってチベット問題とは何か」  
「世界思想」6月号 pp.18～21

**ペマ・ギャルポ**

「向上」8月号  
修養団

**ペマ・ギャルポ**

「修親」8月号  
自衛隊

**ペマ・ギャルポ**

「京仏」夏季号  
京都仏教会

**ペマ・ギャルポ**

「海流秋田」夏季号  
海流舎

**ペマ・ギャルポ**

ドライ・ラマ法王実兄 ギャロ・ドンドゥブ閣下対談の通訳記事掲載  
「日本の息吹」12月号 pp.12～13

**ペマ・ギャルポ**

「向上」12月号 連載記事 掲載  
修養団機関誌

**ペマ・ギャルポ**

「APPLE TOWN」元谷外志雄氏との対談記事 掲載  
APA グループ広報誌

**ペマ・ギャルポ**

修養団機関誌 「向上」連載

**ペマ・ギャルポ**

「チベット特別会議について」  
中央公論1月号

**ペマ・ギャルポ**

「2009年 100人の予測」  
アエラ12月号

**ペマ・ギャルポ**

「チベット特別大会議」  
海外事情1月号 P.102

## ペマ・ギャルポ

「同じ穴のムジナ」

月刊 NIPPON 2月号 P.20

## ペマ・ギャルポ

ザ・フナイ1月号 トップ対談

船井総合研究所発行

## ペマ・ギャルポ

修養団機関誌 「向上」連載

## 新聞記事掲載

---

### ペマ・ギャルポ

世界日報コラム 「ビューポイント」

2008年12月25日版

### ペマ・ギャルポ

世界日報コラム 「ビューポイント」

2009年1月30日版

## 海外出張

---

### ペマ・ギャルポ

インド 政治経済調査及び視察、ゴクレ外務省アジア局長、フェルナンデス前国防大臣 会談  
ダライ・ラマ法王謁見、亡命政府首相及び副議長表敬訪問、宗教大臣会見、国会議員数名と懇談会  
2008年8月2日～8日

### ペマ・ギャルポ

モンゴル 政治・経済調査及び視察、エンフバヤル大統領表敬及び会談、外務大臣、モンゴル国立大  
学総長、オットンゲル大学学長・理事長 会談  
2008年8月13日～18日

### ペマ・ギャルポ

フランス チベット寺院落慶式参加及び視察調査  
2008年8月19日～28日

### ペマ・ギャルポ

インド出張 「チベット人会議」に出席、要人多数と面会  
2008年11月15日～23日

### ペマ・ギャルポ

ブータン国海外出張 「新憲法下のブータン情勢研究調査とブータン農林省招聘によるマツタケ、薬  
草、チベット医学などの活用法についての意見交換と現場視察」  
農林省課長クラスから次官までの官僚と会談、及び首相、外務大臣ほか閣僚との意見交換  
2009年2月13日～20日

## その他

---

自然と人間社 インタビュー

2008年4月1日

BS11 テレビ出演  
2008年4月2日

扶桑社 取材、あ・うん 取材  
2008年4月3日

扶桑社 取材  
2008年4月4日

TBS 情報エンターテイメント番組「ピンポン！」収録  
2008年4月7日

オリンピック反対集会 参加  
2008年4月10日 於豊島公会堂

石平氏との対談  
2008年4月11日

大川豊総裁との対談  
文藝春秋「諸君」座談会  
2008年4月14日

千葉ベイエフエム 電話にてラジオ番組生出演  
TBS 情報エンターテイメント番組「ピンポン！」生出演  
2008年4月16日

BOSS 取材、イブニングファイブ取材  
週刊朝日取材 大志塾  
2008年4月17日

あ・うん取材  
2008年4月18日

プレイボーイインタビュー、週刊ポスト取材、  
南アジア研究会出席、あ・うん取材  
2008年4月19日

参議院江藤先生 表敬訪問  
2008年4月21日

NHK 国際番組取材、畑恵議員と懇談  
2008年4月22日

チベットの平和を願う集会にて中沢新一と対談  
2008年4月23日

インド大使との食事会、石平氏出版記念パーティー  
2008年4月25日



EU 大使の会  
2008 年 6 月 3 日

藤田幸久議員再発進の会  
2008 年 6 月 3 日 於ドームホテル

天皇 20 周年出版記念パーティー  
2008 年 6 月 5 日 於ホテルニューオータニ

OISCA 評議会  
2008 年 6 月 13 日

ニューズウィーク取材「チベット仏教今後の見通し」  
2008 年 6 月 14 日

ADP 委員会  
2008 年 6 月 18 日

映画「チベット・チベット」上映前挨拶  
2008 年 6 月 22 日 於横浜シネマ

地政学懇親会 出席  
2008 年 11 月 2 日

ダライ・ラマ法王来日記念講演 出席  
2008 年 11 月 6 日

外務省中川課長 面会  
2008 年 11 月 11 日

タシ塾 出席  
2008 年 11 月 26 日

シンガポール大使、ベトナム大使 表敬訪問、面会  
2008 年 11 月 27 日

モンゴル大使 表敬訪問、面会  
2008 年 11 月 28 日

亜細亜大学芋煮会 出席  
2008 年 11 月 29 日

OISCA 総裁・顧問親睦会 出席  
2008 年 12 月 24 日 於 OISCA 本部

アジア教育福祉財団 40 周年・難民支援事業本部 30 周年パーティー 参加  
2008 年 12 月 24 日 於シェラトンホテル

エルネオス 15 周年記念パーティー キースピーチ  
2009 年 1 月 23 日 於虎ノ門パストラル

仏教婦人会 新年会出席及び挨拶  
2009 年 2 月 5 日

春秋社 インタビュー  
2009 年 2 月 10 日

インド公使 新築祝い懇親会 出席  
2009 年 2 月 11 日

週間新潮 インタビュー  
2009 年 2 月 24 日

ジャパンインターカルチャー主催講演会 出席及び挨拶・コメント  
2009 年 2 月 27 日

元国務相アーミテージ次官、元日本次官マイケル・グリーン氏と  
朝食意見交換  
2009 年 2 月 28 日 於ホテルオークラ

外務省主催 国際情勢講演会 パネルディスカッション 出席  
2009 年 2 月 28 日

---

## 升 信 夫 (ます のぶお) 教授

---



出 生 年 : 1958 年  
在 籍 籍 : 1997 年 4 月～  
最 終 学 歴 : 東京大学大学院法学政治学研究科博士課程  
学 位 位 : 法学博士  
学 位 論 文 : J. S. ミルの自由主義思想  
専 門 分 野 : 欧州政治思想史  
前 職 職 : 立教大学文学部非常勤講師  
留 学 学 : ドイツ・チュービンゲン大学(2000 年 9 月～2001 年 3 月)  
学 会 会 : 日本政治学会

---

## 論文掲載

### 升 信 夫

大学リアリズム  
桐蔭論叢 第 19 号  
2008 年 12 月

## 升 信夫

総力戦論を手がかりに政治的領域について考察する  
桐蔭法学 第15巻第1号  
2008年7月

---

## 村上 淳一 (むらかみ じゅんいち) 終身教授

---



出生年 : 1933年  
在籍 : 1993年4月～  
最終学歴 : 東京大学法学部  
専門分野 : ドイツ法、比較法、法史学  
前職 : 東京大学大学院法学政治学研究科教授  
留学 : ハンブルク大学 (1964～1965)、チュービンゲン大学 (1965～1966)  
学会 : 日独法学会、日本ドイツ学会、ドイツ比較法学会 (外国人特別会員)  
社会的活動 : 日本学士院会員 (2001～)  
受賞・表彰 : チュービンゲン大学名誉法学博士 (1991)、ドイツ連邦共和国大功労十字勲章 (2006)

---

## 村上 秀明 (むらかみ ひであき) 教授

---



出生年 : 1951年  
在籍 : 1993年4月～  
最終学歴 : 筑波大学大学院体育科学研究科運動生化学専攻修了  
学位 : 体育学修士、農学修士  
学位論文 : 運動誘発性喘息(EIA)の成因について  
—chemical mediatorを中心として—(体育学)  
光合成細菌の肥料化について(農学)  
専門分野 : 公衆衛生学、健康科学、生理学、体育学  
前職 : 東京工業大学工学部助手  
国立身体障害者リハビリテーション研究所研究員  
国立小児病院アレルギー科研究員  
学会 : 日本体力医学会、日本学校保健学会、日本体育学会、日本生理学会、日本運動生理学会、日本公衆衛生学会、アジア障害者体育・スポーツ学会、日本陸上競技学会、日本ゴルフ学会、日本発育発達学会

## 山口裕博（やまぐち やすひろ）教授

---



出生年 : 1951 年  
在籍 : 1994 年 4 月～  
最終学歴 : 中央大学大学院法学研究科博士後期課程民事法専攻  
学位 : 法学博士  
学位論文 : 芸術と法－英米法を中心とする学際的研究－  
専門分野 : 英米法、民法  
前職 : 女子美術大学芸術学部助教授  
非常勤講師 : 国立音楽大学音楽学部  
学会 : 比較法学会、日米法学会、信託法学会、日本EU学会、日本私法学会

### 論文掲載

---

#### 山口裕博

「サイバースペースにおける既存の音楽著作物を利用した創作行為に対する著作権法上の制約と表現の自由に関する調査研究」

電気通信普及財団 調査研究報告書 第23号 142頁～161頁

#### 山口裕博

「アメリカの複雑系民事陪審裁判における傍聴人と陪審員のメモの自由」

桐蔭論叢 第19号 89頁～104頁

## 山城崇夫（やましろう たかお）教授

---



出生年 : 1951 年  
在籍 : 1993 年 4 月～  
最終学歴 : 中央大学大学院法学研究科博士課程  
学位 : 法学修士  
学位論文 : アメリカ合衆国の民事訴訟における除斥・忌避制度の展開  
専門分野 : 民事訴訟法、裁判法  
前職 : 山口大学経済学部経済法学科教授  
学会 : 民事訴訟法学会、日本交渉学会、仲裁 ADR 学会、司法アクセス学会 日本法律家協会  
社会的活動 : 日本交渉学会理事、司法アクセス学会理事

## 勝 亦 啓 文 (かつまた ひろふみ) 准教授

---



出生年 : 1973 年  
在籍 : 2005 年 4 月～  
最終学歴 : 中央大学大学院法学研究科民事法専攻博士後期課程単  
位取得退学  
学位 : 法学修士  
学位論文 : フランス労働法上の非典型協定  
専門分野 : 労働法  
前職 : 東京国際大学非常勤講師、青山学院大学非常勤講師  
学会 : 日本労働法学会  
社会的活動 : 元神奈川県横浜労働センター相談員  
元東京都労働情報センター民間相談員

### 学会・研究会発表

---

#### 勝亦啓文

「ホワイトカラーの働き方と労働時間規制」  
日本マクドナルド事件(東京地判平 20.1.28)  
桐蔭法学研究会判例研究会  
2008 年 7 月 17 日 桐蔭横浜大学 J411

### 論文掲載

---

#### 勝亦啓文

「中野区(非常勤保育士)事件・高裁判決の検討」  
労働法律旬報 1670 号 P14  
2008 年 4 月 25 日

### 講演会・研修会講師

---

#### 勝亦啓文

「パート・契約社員・アルバイトの方のための知っておきたい法律・社会保険」  
東京都労働相談情報センター労働講座  
2008 年 9 月 9 日 於東京都労働相談情報センター池袋事務所

#### 勝亦啓文

「休日、休憩、休暇」と次世代育成支援」  
神奈川県西湘地域県政総合センター労働講座  
2008 年 10 月 7 日 於神奈川県小田原合同庁舎

#### 勝亦啓文

「労働者派遣法--日雇派遣指針の内容」  
神奈川県西湘地域県政総合センター労働講座  
2008 年 10 月 10 日 於神奈川県小田原合同庁舎

#### 勝亦啓文

「労働者派遣法の概要」  
神奈川県県央地域県政総合センター労働講座  
2008 年 10 月 21 日 於厚木市勤労福祉センター

## 勝亦啓文

「労働保険、社会保険」

神奈川県県央地域県政総合センター労働講座  
2008年10月22日 於厚木市勤労福祉センター

## 雑誌掲載

### 勝亦啓文

「施行後3ヶ月！労働契約法の疑問点に答える」

人事実務1037号 pp.39～47

2008年6月1日

### 勝亦啓文

「海外判例レポート<フランス> 企業内ネットを用いた組合の情宣活動とその制約」

労働判例961号 p.96

2008年9月15日

## その他

### ○総説・論説

#### 勝亦啓文

「施行後3ヶ月！労働契約法の疑問点に答える」

人事実務1037号 pp.39～47

2008年6月1日

#### 勝亦啓文

「海外判例レポート<フランス>」

企業内ネットを用いた組合の情宣活動とその制約

労働判例961号 p.99

2008年9月15日

#### 勝亦啓文

「就業規則ハンドブック逐条解説」

『改定3版就業規則ハンドブック』(経営書院)

2008年10月25日

## 小島奈津子(こじま なつこ) 准教授



出生年：1970年

在籍：2004年4月～

最終学歴：法政大学大学院社会科学部法律学専攻満期中退

学位：法学修士

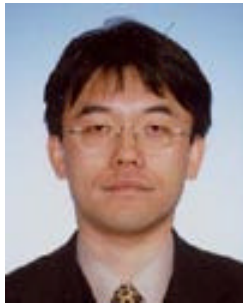
学位論文：債務額に争いがある場合の一部供託の効力(早稲田大学大学院)

専門分野：民法

学会：私法学会

## 小林 学 (こばやし まなぶ) 准教授

---



出生年 : 1969 年  
在籍 : 2002 年 4 月～  
最終学歴 : 中央大学大学院法学研究科博士後期課程  
学位 : 法学修士  
学位論文 : 自律的規範構造モデルの構築による民事訴訟法学の学問的復権—実体法と訴訟法の規範的連関論—  
専門分野 : 民事法学、司法制度論  
学会 : 日本民事訴訟法学会、日本私法学会、情報ネットワーク法学会、仲裁 ADR 法学会、司法アクセス学会

### 著書出版

---

#### 小林学

「対抗的和解申出・預託—自主的合意形成のためのデバイス—」  
小島武司先生古稀祝賀『民事司法の法理と政策【下巻】』  
商事法務  
2008 年

### 学会・研究会発表

---

#### 小林学

「メディアエーターの独立性・公正性—メディアエーション倫理の一局面—」  
桐蔭横浜大学メディアエーション交渉研究所第 1 回公開研究会  
2008 年 7 月

#### 小林学

「紛争解決 (Dispute Resolution) ないし紛争管理 (Conflict Management) の方法」  
東京工業大学大学院 (知能システム科学専攻) 「論争エージェントの開発」  
2008 年 8 月

#### 小林学

「メディアエーションのスキルと可能性」  
東京家政学院大学シンポジウム「消費者と事業者の新しい関係—プロシューマー教育の可能性—」  
2008 年 9 月

### 論文掲載

---

#### 小林学

「メディアエーターの中立性」  
桐蔭法学 15 巻 2 号 1 頁以下  
2009 年 3 月

### 国際学会・シンポジウムでの発表・講演

---

#### 小林学

第 3 回東北アジア民事訴訟法国際シンポジウムにおけるコメント (「国際民事訴訟の立法的課題」)  
2008 年 10 月

## 雑誌掲載

### 小林学

「【判例評釈】前訴において、本訴損害賠償請求権について時効消滅を理由に本訴請求が棄却され、これを自働債権とし反訴貸付金返還請求債権を受働債権とする相殺の抗弁が重複訴訟禁止を理由に却下され反訴請求が認容されたにもかかわらず、後訴において、右損害賠償請求債権を自働債権とし右貸付金返還請求債権を受働債権とする相殺の抗弁が前訴判決の既判力に抵触しないなどとして認められた事例(東京地判平成18年12月4日判時1996号37頁)」

判例評論 597号6頁 [判例時報 2014号168頁]

2008年11月

### 清水 宏 (しみず ひろし) 准教授



出生年 : 1969年  
在籍 : 1999年4月～  
最終学歴 : 中央大学大学院法学研究科博士後期課程  
学位 : 法学修士  
学位論文 : 懲罰的損害賠償を命じる外国判決および外国仲裁裁判の承認・執行  
専門分野 : 民事手続法  
学会 : 日本民事訴訟法学会、日本交渉学会、ADR・仲裁法学会

### 竹内 明世 (たけうち あきよ) 准教授



出生年 : 1969年  
在籍 : 1998年4月～  
最終学歴 : 中央大学大学院法学研究科博士後期課程  
学位 : 法学修士  
学位論文 : 金融機関の決済システムとその法的諸問題  
専門分野 : 商法、銀行取引法、民法  
学会 : 日本私法学会、金融法学会、日本交通法学会、法文化学会、科学技術社会論学会



## 出口雄一（でぐち ゆういち）准教授

---



出生年：1972年  
在籍：2004年4月～  
最終学歴：慶應義塾大学大学院法学研究科公法学専攻後期博士課程単位取得退学  
学位：法学修士  
学位論文：占領期司法改革における法継受とA・C・オプラー  
専門分野：日本法制史、日本近現代史、法文化論  
前職：桐蔭横浜大学法学部非常勤講師  
非常勤講師：慶應義塾大学法学部  
学会：法制史学会、法文化学会  
社会的活動：法文化学会幹事、占領・戦後史研究会事務局

### 学会・研究会発表

---

#### 出口雄一

「「憲法的なもの」をめぐるテキストの重層性——新旧憲法の運用・解釈の歴史」  
2008年度第3回一橋近代法学史研究会  
2009年3月22日 於一橋大学佐野書院

### 論文掲載

---

#### 出口雄一

「裁判員制度の歴史的背景」  
法曹時報 60巻9号 p.21-31  
2008年9月1日

#### 出口雄一

「「亡命ドイツ法律家」アルフレッド・C・オプラー——異文化接触としての占領期法制改革——」  
法学研究82巻1号 p.845-875  
2009年1月28日

### 新聞記事掲載

---

#### 出口雄一

「＜随想＞歴史に学ぶ、歴史を語る」  
人 2515号  
2009年3月1日

### 海外出張

---

#### 出口雄一

資料調査及びヒアリング  
The Institute of Current World Affairs, National Archives II, Washington D.C., Maryland, U.S.A  
2008年9月1日～8日

### その他

---

#### ○助成金・補助金等

「占領期における戦後日本法体制の形成過程に関する人的側面からの再検討」  
文部科学省科学研究費若手研究(B)

## 中野邦保（なかのくにやす）准教授

---



出生年 : 1976年  
在籍 : 2005年4月～  
最終学歴 : 名古屋大学大学院法学研究科博士後期課程  
学位 : 法学修士  
学位論文 : 行為基礎論における等価関係破壊の評価  
専門分野 : 民法  
学会 : 日本私法学会

## 原口伸夫（はらぐちのぶお）准教授

---



出生年 : 1968年  
在籍 : 2002年9月～  
最終学歴 : 中央大学大学院法学研究科博士後期課程  
学位 : 法学修士  
学位論文 : 不能未遂に関する一考察——危険性は未遂犯のメルクマールたり得るのか?——  
専門分野 : 刑法  
前職 : 中央大学法学部兼任講師、駒澤大学法学部非常勤講師  
学会 : 日本刑法学会

## 論文掲載

---

### 原口伸夫

「会社資金による新株の払込みと電磁的公正証書原本不実記録罪の成否」

速報判例解説 Vol.2 175-178 頁

日本評論社

2008年4月

### 原口伸夫

「性嗜好障害を有する者による殺人(3名殺害)等の事案で、完全責任能力を認めて死刑を言い渡した事例」

速報判例解説 Vol.2 199-202 頁

日本評論社

2008年4月

## 森 保 憲（もり やすのり） 准教授

---



出生年 : 1961 年  
在籍 : 2003 年 4 月～  
最終学歴 : 中央大学大学院法学研究科博士後期課程満期退学  
学位 : 法学修士  
学位論文 : フランス第 5 共和制における「違憲審査制」  
専門分野 : 憲法  
前職 : 青森中央学院大学経営法学部専任講師  
留学 : ドイツ チュービンゲン大学(2008 年 9 月～2009 年 3 月)  
学会 : 日本公法学会、全国憲法研究会、法文化学会など

## 山 本 龍 彦（やまもと たつひこ） 准教授

---



出生年 : 1976 年  
在籍 : 2005 年 4 月～  
最終学歴 : 慶應義塾大学大学院法学研究科後期博士課程単位取得退学  
学位 : 法学博士  
学位論文 : 遺伝子プライバシーの憲法学的考察  
専門分野 : 憲法、医事法  
学会 : 日本公法学会、全国憲法研究会、日本医事法学会、他

### 著書出版

#### 山本龍彦

「遺伝情報の法理論」

尚学社

2008 年 5 月

#### 山本龍彦

「子どもの医療と法」

尚学社

2008 年 6 月

### 学会・研究会発表

#### 山本龍彦

「日本における遺伝情報の扱いをめぐるルール作り」

早稲田大学比較法研究所 50 周年記念 医事法国際シンポジウム

2008 年 6 月

### 論文掲載

#### 山本龍彦

「アメリカ連邦議会と『ねじれ』」

別冊 RESEARCH BUREAU 論究』第 10 号

2008 年 9 月

## その他

### 山本龍彦

「判例回顧と展望 憲法」

2007年度の憲法判例を回顧し、今後の展望を示したもの。

2008年6月

## 韓 寧 (かん ねい) 講師



出生年 : 1974年  
在籍 : 2007年4月～  
最終学歴 : 中央大学大学院法学研究科博士後期課程  
学位 : 法学博士  
学位論文 : 中国における調停に関する理論及び実証的な検討一日・米法との比較の視点から  
専門分野 : 紛争処理法、比較法、中国法  
前職 : 北京法務局  
留学 : 群馬大学社会情報学研究科修士課程、中央大学法学研究科博士後期課程  
資格 : 中国弁護士  
学会 : 仲裁ADR法学会

## 著書出版

### 韓 寧

「中国の調停制度—日本・米国との比較」

信山社

2008年6月23日

## 学会・研究会発表

### 韓 寧

「中国調停制度の歴史、現状と未来」

メデイエイション交渉研究所第二回研究会

2009年2月21日 於桐蔭横浜大学

## 雑誌掲載

### 韓 寧

「中華人民共和国労働争議調停仲裁法」<翻訳>

『桐蔭法学』第15巻第1号 83-99頁

## 秋田 知子（あきた ともこ） 助教

---



出生年 : 1973 年  
在籍 : 2005 年 4 月～  
最終学歴 : 桐蔭横浜大学法学研究科博士後期課程  
学位 : 法学修士  
学位論文 : 文書提出命令の改正と文書管理のあり方  
～特に企業法務部門における訴訟管理対策への指針として  
専門分野 : 民事法  
前職 : 桐蔭横浜大学法科大学院教育助手  
学会 : 日本交渉学会、日本民事訴訟法学会

## 浅岡 慶太（あさおか けいた） 助教

---



出生年 : 1974 年  
在籍 : 2001 年 4 月～  
最終学歴 : 桐蔭横浜大学大学院法学研究科博士後期課程満期退学  
学位 : 法学修士  
学位論文 : 若者から少年へドイツ少年刑法の歴史的な前提  
専門分野 : ヨーロッパ近代法史  
留学 : チュービンゲン大学(ドイツ)(2004.7～2005.3)  
学会 : 日独法学会

### 論文掲載

#### 浅岡慶太

論考: 研究ノート『サヴィニーの既判力理論について』  
桐蔭論叢第19号

#### 浅岡慶太

邦訳稿: 裁判理由の拘束力について: ドイツ連邦憲法裁判所を例として  
桐蔭法学第15巻第2号(通巻第30号)

## 麻妻 和人（あさづま かずひと） 助教

---



出生年 : 1969 年  
在籍 : 2005 年 4 月～  
最終学歴 : 中央大学大学院法学研究科博士前期課程  
学位 : 法学修士  
学位論文 : 捜査の規律に関する一考察 ―盗聴―  
専門分野 : 刑事訴訟法  
前職 : 桐蔭横浜大学法科大学院教育助手  
学会 : 日本刑法学会 日本被害者学会、警察政策学会

## 谷 脇 真 渡 (たにわき まさと) 助教

---



出 生 年 : 1974 年  
在 籍 : 2005 年 4 月～  
最 終 学 歴 : 桐蔭横浜大学大学院法学研究科博士後期課程  
学 位 : 法学修士  
学 位 論 文 : 抽象的事実の錯誤における「符合の実質化」とその限界  
専 門 分 野 : 刑法  
前 職 : 桐蔭横浜大学法科大学院教育助手  
学 会 : 日本刑法学会

## 医用工学部 (Faculty of Biomedical Engineering)

### 生命医工学科 (Department of Medical Technology)

#### 後藤 眞 (ごとう まこと) 教授

---



出生年 : 1947 年  
在籍 : 2004 年 10 月～  
最終学歴 : 東京大学医学部  
学位 : 医学博士  
学位論文 : Immunological abnormalities of aging  
専門分野 : 老化学、内科学、リウマチ学、免疫学、遺伝学  
前職 : 東京都立大塚病院リウマチ膠原病科部長  
留学 : 米国カリフォルニア大学(サンディエゴ校) (1981～1984)  
資格 : 医師(日本、アメリカ)  
客員教授 : 聖マリアンナ医大難病治療研究所、金沢医大腎臓内科  
非常勤講師 : 東京女子医大東医療センター整形外科  
学会 : 日本リウマチ学会、日本炎症再生学会、日本老年病学会、  
日本内科学会、米国リウマチ学会  
社会的活動 : Nifty インターネット医科大学リウマチ膠原病科教授、  
リウマチ財団・財団ニュース編集委員長  
受賞・表彰 : 昭和 56 年 日本リウマチ学会フェロシップ賞  
昭和 58 年 アメリカ・リウマチ学会研究員賞  
平成元年 関節疾患基礎研究賞  
平成元年 日本リウマチ学会賞  
平成 16 年 ノバルチス・リウマチ賞  
平成 18 年 イギリス・BBSRC JAPAN PARTNERING 賞

#### 学会・研究会発表

---

##### 後藤眞

「炎症性老化と結合組織」

第 40 回日本結合組織学会／第 55 回マトリックス研究会

2008 年 5 月 31 日 於駒場エミナース(東京)

##### 後藤眞

「痛みを治さなければリウマチは治らない」

第 34 回アルカロイド研究会

2008 年 6 月 21 日 於大阪コスモスクエア国際交流センター

##### 後藤眞

「シンポジウム: Aging の生物学」

第 29 回日本炎症・再生学会

2008 年 7 月 10 日 於都市センターホテル

##### 後藤眞

「関節超音波検査は触診を超えるか？」

第 29 回リウマチセンター間連絡会

2008 年 7 月 18 日 於六甲山ホテル

**後藤眞**

“Genotype-phenotype association in Werner syndrome”  
ヘリケース研究会  
2008年9月6日 癌研究所

**後藤眞**

「DMARD治療による寛解と超音波モニター」  
第7回日本実地医会シンポジウム  
2008年9月14日 於旭川グランドホテル

**後藤眞**

“Aconinsan: an emerging pain killer for rheumatic diseases”  
APLAR2008  
2008年9月25日 於パシフィコ横浜

**後藤眞**

“Introduction&Higher frequency of treatment-related adverse events in the elderly RA patients”  
Asian-Pacific League Against Rheumatology  
2008年9月26日 於パシフィコ横浜

**後藤眞**

“Comparative study of fenofibrate and statin for the treatment of dyslipidaemia in elderly rheumatoid”  
APLAR2008  
2008年9月26日 於パシフィコ横浜

**後藤眞**

「アコニンサン: 繊維筋痛症に対する新しい治療」  
第2回繊維筋痛症研究会  
2008年10月12日 於ホテルグリーンパーク津

**後藤眞**

「関節リウマチにおけるアコニンサンの抗疼痛硬化の解析」  
第2回繊維筋痛症研究会  
2008年10月12日 於ホテルグリーンパーク津

**後藤眞**

“Comparative study of fenofibrate and statin for the treatment of dyslipidaemia in rheumatoid arthritis”  
TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2008  
2008年10月31日 於 TOIN University of Yokohama

**論文掲載****後藤眞**

“Secular trends towards delayed onsets of pathologies and prolonged longevities in Japanese patients with Werner syndrome”  
BioScience Trends 2:81-87, 2008  
Jun 2nd, 2008



### 後藤眞

「痛みを治さなければリウマチは治らない」  
アルカロイド研究会会誌 34号 www.aso-alkaloid.co.jp  
2008年6月21日

### 後藤眞

“Sirtuin-mediated deacetylation pathway stabilizes Werner syndrome protein”  
FEBS Lett 582 pp.2479-2483,2008  
2008年7月24日

### 後藤眞

“Elevation of soluble Fas(APO-1,CD95) ligand in natural aging and Werner syndrome”  
BioScience Trends 2 pp.124-127  
2008年7月25日

### 後藤眞

“Syndrome-causing mutations in Werner syndrome”  
BioScience Trends 2 pp.147-150  
2008年11月6日

### 後藤眞

「エイジング:最近の考え方:炎症性老化」  
Anti-Aging Medicine 5:90-92,2009  
2009年2月1日

### 講演会・研修会講師

---

#### 後藤眞

「関節リウマチとは？」  
(株)クリエイト:薬剤師研修会  
2008年6月4日 於市が尾クリエイト本社講堂

#### 後藤眞

「老化は病気かもしれない:炎症性加齢」  
金沢医大総合医学研究所第16回勉強会  
2008年7月17日 於金沢医大総合医学研究所講堂

#### 後藤眞

「炎症性加齢とは？」  
南房総リウマチセミナー  
2008年8月22日 於鴨川市亀田総合病院研修室

#### 後藤眞

「抗リウマチ薬の使用に関する勧告をどう読むか」  
座談会  
2008年9月30日 於新宿センチュリーハイアットホテル

### 後藤眞

「若い若い楽しく若さの処方箋」

平成20年度金沢医大総合医学研究所市民公開セミナー

2008年10月18日 於金沢市文化ホール

### 後藤眞

「関節リウマチにおけるアコニンサン錠の治療」

第20回中之島リウマチセミナー

2008年12月21日 於大阪国際会議場

### 後藤眞

「誤解していませんか？リウマチのこと」

日本薬剤師研修センター 研修会

2009年1月11日 於新横浜ミネタビル

## 国際学会・シンポジウムでの発表・講演

---

### 後藤眞

“Introduction&Higher frequency of treatment-related adverse events in the elderly RA patients”

Asian-Pacific League Against Rheumatology

2008年9月26日 於パシフィコ横浜

### 後藤眞

“Comparative study of fenofibrate and statin for the treatment of dyslipidaemia in elderly rheumatoid”

APLAR2008

2008年9月26日 於パシフィコ横浜

### 後藤眞

“Comparative study of fenofibrate and statin for the treatment of dyslipidaemia in elderly rheumatoid”

APLAR2008

2008年9月26日 於パシフィコ横浜

## 雑誌掲載

---

### 後藤眞

「手直しされた ACR ガイドライン」

日本リウマチ財団ニュース 第89号 P7

2008年7月29日

### 後藤眞

「呼吸器の専門化からリウマチの臨床家へ:前編」

日本リウマチ財団ニュース 90号 P1～P7

### 後藤眞

「呼吸器の専門家からリウマチの臨床家へ:後編」

日本リウマチ財団ニュース 91号 P5～P6

## 後藤眞

「亀田総合病院のリウマチ治療」

日本リウマチ財団ニュース 92号 P3～P5

## 後藤眞

「リウマチ患者の歯周病を考える」

日本リウマチ財団ニュース93号 P3～P5

## 新聞記事掲載

---

### 後藤眞

「ウエルナー症候群」

フジサンケイ ビジネスアイ

2008年4月10日朝刊

## その他

---

### ○総説・論説

#### 後藤眞

“Role of Werner syndrome gene product helicase in carcinogenesis and in resistance to genotoxins by cancer cells”

Cancer Sci 99:843-848,2008

2008年4月2日

#### 後藤眞

「頭を切り換えよう！:複雑系・スモール・ワールド理論から眺めると」

臨床リウマチ学会誌 20:3-4, 2008

2008年4月5日

#### 後藤眞

「ACR2008/抗リウマチ薬の使用に関する勧告を考慮したRA治療」

参天製薬配付資料 1～5

2008年12月1日

#### 後藤眞

“Inflammageing(inflammation+aging):A driving force for human aging based on an evolutionarily antagonistic pleiotropy theory?”

BioScience Trends 2 2:218-230,2008

2008年12月1日

## 小山行一（こやま こういち）教授

---



出生年 : 1947 年  
在籍 : 2003 年 4 月～  
最終学歴 : 北海道大学大学院薬学研究科  
学位 : 薬学博士  
学位論文 : Photoelectric Studies of Organized Bacteriorhodopsin Films at the Solid/Liquid Interface.  
専門分野 : 生物有機化学、エネルギー変換の化学  
前職 : 富士写真フイルム(株)主任研究員  
北海道大学先端科学技術研究センター客員教授  
学会 : 日本化学会、生物物理学会、光化学協会  
社会的活動 : 「生物物理学会」分野別専門委員 (バイオセンサー)  
受賞・表彰 : 昭和 57 年度有機合成化学協会賞  
昭和 63 年度発明奨励賞

## 西村裕之（にしむら ひろゆき）教授

---



出生年 : 1955 年  
在籍 : 1994 年 4 月～  
最終学歴 : 東京工業大学大学院理工研究科博士後期課程  
学位 : 理学博士  
学位論文 : Chemical Modification of enzymes with polyethylene glycol. A new technique to render exogenous enzymes non-immunoreactive, non-immunogenic and stable in the circulation.  
専門分野 : 分子生物学、免疫工学  
前職 : 順天堂大学医学部助教授  
留学 : Hospital for Joint Diseases. Beth Israel Medical Center New York N.Y., USA 研究員  
非常勤講師 : 順天堂大学  
学会 : 日本免疫学会、日本分子生物学会、日本癌学会、日本生化学会、日本臨床免疫学会、日本リウマチ学会

## 論文掲載

---

Yoshihiro Hada, Masashi Takahashi, **Hiroyuki Nishimura**, Yoh Kodera, **Norimichi Kawashima**  
"Poly(ethylene glycol)-modified Mn-SOD for prolonging its half-life in blood circulation"  
Material technology 26(1) pp.18-21  
2008 年 10 月 11 日

## 萩原 啓実 (はぎわら ひろみ) 教授

---



出生年 : 1957 年  
在籍 : 2004 年 4 月～  
最終学歴 : 東京工業大学大学院理工学研究科博士後期課程  
学位 : 理学博士  
学位論文 : Studies on Endothelial Cells (東京工業大学 1984)  
専門分野 : 生物化学、分子生物学、細胞生理学、骨代謝学  
前職 : 東京工業大学バイオ研究基盤支援総合センター助教授  
留学 : 米国バンダービルト大学医学部  
学会 : 日本生化学会、日本分子生物学会、日本骨代謝学会、米  
国骨代謝学会、日本内分泌学会、日本軟骨代謝学会  
社会的活動 : 日本心血管内分泌代謝学会評議員 (1999～)、日本血管  
生物医学会評議員 (1994～)、文部科学省中国赴日本国  
留学生予備教育 (2001)、日本原子力研究所国際原子力  
総合技術センター非常勤講師 (1991～1999) 東京工業大学  
特任教授 (2004～2006) 筑波大学北アフリカ研究センター  
客員共同研究員 (2005～)

### 学会・研究会発表

---

山崎加奈子、**萩原啓実**

「鉄イオンは骨芽細胞の Type I コラゲン産生を抑制する」

第 26 回日本骨代謝学会学術集会

2008 年 10 月 30 日 於大阪国際会議場

山崎貴司、**萩原啓実**

「Benzo[a]pyrene 及び 1-Nitropyrene の骨芽細胞の増殖・分化・石灰化への影響」

第 26 回日本骨代謝学会学術集会

2008 年 10 月 30 日 於大阪国際会議場

萩原啓太郎、後藤忠、**萩原啓実**

「オリブポリフェノールの骨形成への影響; 破骨細胞の形成抑制と骨芽細胞の分化・石灰化の促進」

第 26 回日本骨代謝学会学術集会

2008 年 10 月 30 日 於大阪国際会議場

関晃子、萩原啓太郎、**萩原啓実**

「ポリフェノールの培養ヒトがん細胞の増殖への影響」

第 31 回日本分子生物学科年会・第 81 回日本生化学会大会合同大会

2008 年 11 月 11 日 於神戸ポートアイランド

山崎加奈子、弓山紘美、**萩原啓実**

「AR コリプレッサー TZF はアンドロゲンによる発現制御を受けずアンドロゲン産生にも影響しない」

第 31 回日本分子生物学会年会・第 81 回日本生化学会大会合同大会

2008 年 12 月 10 日 於神戸ポートアイランド

白井伸明、萩原啓太郎、杉山翔亮、富澤宏樹、**萩原啓実**

「トリクロロエチレン代謝産物 DCVC の骨への作用」

第 31 回日本分子生物学会年会・第 81 回日本生化学会大会合同大会

2008 年 12 月 12 日 於神戸ポートアイランド

### 論文掲載

---

Kozo Takamoto, Shousuke Sugiyama, Hiroki Tomisawa, Hiromi Kikuchi, Kyoko Nakata, **Hiromi Hagiwara**

“Effects of Trichloroethylene Metabolite DCVC against Bone-Related Cell Lines”

Research Bulletin Toin University of Yokohama・18 pp.37-42

2008 年 6 月 1 日

**Hiromi Hagiwara**, Toshinori Sugizaki, Yu Tsukamoto, Emi Seno, Tadashi Goto, Yoko Ishihara

“Effects of alkylphenol on bone metabolism in vivo and in vitro”

Toxicology Letters・181 pp.13-18

2008 年 8 月 30 日

### 国際学会・シンポジウムでの発表・講演

---

Keitaro HAGIWARA, Tadashi GOTO, **Hiromi HAGIWARA**

“Oleuropein from olive stimulates the differentiation and mineralization of cultured osteoblasts and inhibits the formation of osteoclasts in culture”

30th Annual Meeting of the American Society for Bone and Mineral Research

2008 年 9 月 15 日 於 Montreal, Quebec, Canada

**Hiromi Hagiwara**, Tadasi Goto, Keitaro Hagiwara

“Oleuropein Stimulates the Differentiation and Mineralization of Cultured Osteoblasts and”

Kantaoui Forum 9th Ed. TJASSST2008

2008 年 11 月 11 日 於 Sousse, Tunisia

Tadasi Goto, **Hiromi Hagiwara**

“Apigenin Inhibites the Proliferation and Differentiation of Osteoblasts and the Formation of Osteoclasts.”

Kantaoui Forum 9th Ed. TJASSST2008

2008 年 11 月 11 日 於 Sousse, Tunisia

Keitaro Hagiwara, **Hiromi Hagiwara**

“Olive Polyphenol, Oleuropein and Hydroxytyrosol Promote the Differentiation and”

Kantaoui Forum 9th Ed. TJASSST2008

2008 年 11 月 11 日 於 Sousse, Tunisia

### 海外出張

---

September 12-16, 2008, Montreal, Quebec, Canada

November 9-11, 2008, Kantaoui, Tunisia

### 特許申請等

---

**萩原啓実**

「オレウロペイン及び/またはヒドロキシチロソールを有効成分として含有する骨形成促進剤」

出願番号:特願 2008-075967 出願人:学校法人桐蔭学園

日付:2008 年 3 月 24 日

## その他

### ○産学協同研究

#### 萩原啓実

「トリクロロエチレン代謝産物の骨関連細胞に与える影響に関する研究」

株式会社 ネモト・サイエンス

#### 萩原啓実

「食品素材の骨代謝系に及ぼす効果」

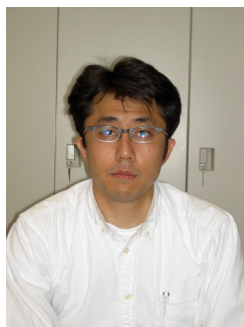
株式会社 テクノスター

#### 萩原啓実

「自動車排気関連物質の骨代謝疾患へのリスク評価法の開発」

(財)日本自動車研究所

## 落合 晃（おちあい あきら） 准教授



出生年 : 1966年

在籍 : 2003年9月～

最終学歴 : 北海道薬科大学大学院生物薬学専攻

学位 : 医学博士

学位論文 : ラット虚血急性腎不全に対するレシチン化 superoxide dismutase(PC-SOD)の抑制効果

専門分野 : 薬理学、再生医療、衛生科学

前職 : 生化学工業株式会社

資格 : 薬剤師

非常勤講師 : 聖マリアンナ医大 非常勤講師

学会 : 日本臨床検査学教育学会、日本リウマチ学会、日本 DDS 学会、日本炎症・再生医学会、日本薬学会、日本臨床薬理学会

社会的活動 : 日本臨床検査学教育学会 評議委員

### 学会・研究会発表

徳岡由一、山口美香、松村由里子、佐藤大輔、**落合晃**、川島徳道、加藤明良

「ALA-PpIX におけるピリミジン含有三方向性六座配位子の添加効果」

第 18 回日本光線力学学会学術講演会

2008年6月14日 於テレビアホール(名古屋市)

二木翔平、**徳岡由一**、村上拓郎、川島徳道、**落合 晃**

アルギン酸ゲルへの作製とスカフォールドへの応用

2008年材料技術研究協会討論会

2008年12月5日 於東京理科大学野田キャンパス

松本朱加、村上拓郎、**徳岡由一**、川島徳道、武永美津子、**落合晃**

オゾン-UV 処理した PET へのヘパリン付加

2008年材料技術研究協会討論会

2008年12月5日 於東京理科大学野田キャンパス

## 論文掲載

---

**Yoshikazu Tokuoka**, Megumi Suzuki, Yumiko Ohsawa, **Akira Ochiai**, Masahiro Ishizuka, **Norimichi Kawashima**

“Enhancement in Skin Permeation of 5-Aminolevulinic Acid Using l-Menthol and its Derivatives”

Drug Development and Industrial Pharmacy, 34

2008年7月1日

**Yoshikazu Tokuoka**, Megumi Suzuki, Yumiko Ohsawa, **Akira Ochiai**, Masahiro Ishizuka, **Norimichi Kawashima**

“Enhancement in Skin Permeation of 5-Aminolevulinic Acid Using l-Menthol and its Derivatives”

Drug Development and Industrial Pharmacy, 34

2008年7月1日

## その他

---

### ○表彰・受賞

渡部直樹、石田有、**落合晃**、**徳岡由一**、**川島徳道**

「11th Journal of Oleo Science Editors' Award」

2008年7月26日 於日本油化学会

## 小寺 洋 (こでら よう) 准教授

---



出生年 : 1962年

在籍 : 1988年4月～

最終学歴 : 東京工業大学理学部

学位 : 理学博士

学位論文 : Chemical modification of proteins and biological substances with polyethylene glycols.

専門分野 : 生物化学、タンパク質工学

学会 : 日本生化学会、日本免疫学会

## 論文掲載

---

Yoshihiro Hada, Masashi Takahashi, **Hiroyuki Nishimura**, **Yoh Koderu**, **Norimichi Kawashima**

“Poly(ethylene glycol)-modified Mn-SOD for prolonging its half-life in blood circulation”

Material technology 26(1) pp.18-21

2008年10月11日





- 出生年 : 1965 年  
在籍 : 2001 年 4 月～  
最終学歴 : 東京理科大学大学院理工学研究科工業化学専攻修士課程  
学位 : 工学博士  
学位論文 : 界面活性剤水溶液による香料の可溶化  
専門分野 : 治療工学、生体材料工学、界面化学  
前職 : エステー化学株式会社 研究開発部主任研究員  
学会 : 日本化学会、日本化学会コロイドおよび界面化学部会、日本油化学会、材料技術研究協会、日本セラミックス協会、日本光線力学学会、日本光医学・光生物学会、日本バイオマテリアル学会、ポルフィリン研究会、日本再生医療学会、日本美容皮膚科学会、色材協会
- 社会的活動 : 日本化学会コロイドおよび界面化学部会企業委員会「ニューズレター」編集委員会委員、「材料技術研究協会討論会」運営委員、材料技術研究協会審議委員、材料技術研究協会「MATERIAL TECHNOLOGY」編集委員会副編集委員長、色材協会編集委員会委員、色材協会関東支部審議委員、平成 21 年度日本化学会関東支部代議員
- 受賞・表彰 : 第 40 回コロイドおよび界面化学討論会ポスター賞「界面活性剤／合成香料／水三成分系相状態図」、1997 年度材料技術研究協会技術賞「ハロゲン捕捉剤の開発」、平成 11 年度日本油化学会進歩賞「界面活性剤水溶液による香料の可溶化と揮発制御に関する研究」、2003 年度材料技術研究協会技術賞「癌の光線力学的療法用新規メタルハライドランプ」、2004 年度材料技術研究協会討論会ゴールドポスター賞「癌の光線力学的療法における 5-Aminolevulinic acid の経皮吸収に及ぼす l-menthol 誘導体の添加効果」、2005 年度材料技術研究協会討論会ゴールドポスター賞「ポリエチレングリコールで改質した金基板表面へのタンパク質の吸着挙動」、2006 年度材料技術研究協会討論会ゴールドポスター賞「発光周波数の異なるキセノンフラッシュ光の PDT 効果」、2007 年度材料技術研究協会討論会ゴールドポスター賞「オゾン-UV 処理により表面改質された各種高分子材料への血漿タンパク質の吸着挙動(II)」、2007 年度材料技術研究協会討論会ゴールドポスター賞「5-アミノレブリン酸による細胞内プロトポルフィリン IX の集積性に及ぼす各種芳香族アミノ酸の添加効果」、第 11 回日本油化学会エディター賞「Oxidation Decomposition of Unsaturated Fatty Acids by Singlet Oxygen in Phospholipid Bilayer Membranes」

#### 学会・研究会発表

徳岡由一、山口美香、松村由里子、佐藤大輔、落合晃、川島徳道、加藤明良  
「ALA-PpIX におけるピリミジン含有三方向性六座配位子の添加効果」  
第 18 回日本光線力学学会学術講演会  
2008 年 6 月 14 日 於テレビアホール(名古屋市)

**徳岡由一**、中村有希、長谷部亜矢、城野哲矢、**村上拓郎**、**川島徳道**

「多孔質ディオプサイト微粒子の調製に及ぼす界面活性剤の濃度」

色材協会

2008年9月11日 於名古屋市工業研究所

渡部直樹、**徳岡由一**、**村上拓郎**、**川島徳道**

「O/W エマルション中における一重項酸素による合成香料の酸化分解反応」

色材協会

2008年9月11日 於名古屋市工業研究所

北原恵一、**徳岡由一**

ナノ構造を有するリン酸カルシウムの合成—ナノ構造に及ぼす水熱処理の影響—

2008年度色材研究発表会

2008年9月11日 於名古屋市工業研究所

北原恵一、**徳岡由一**

水熱処理によるメソポーラス・モネタイト( $\text{CaHPO}_4$ )の形態変化

第30回日本バイオマテリアル学会大会

2008年11月17日 於東京大学本郷キャンパス

石井琢也、小笠原裕一、飯田有美、**古曾部俊之**、**川島徳道**、**徳岡由一**

プロトポルフィリン IX の細胞内集積性に及ぼすフェニルアラニンの添加効果におけるシステム L の寄与について

2008年材料技術研究協会討論会

2008年12月5日 於東京理科大学野田キャンパス

二木翔平、**徳岡由一**、**村上拓郎**、**川島徳道**、**落合 晃**

アルギン酸ゲルへの作製とスカフォールドへの応用

2008年材料技術研究協会討論会

2008年12月5日 於東京理科大学野田キャンパス

児島大我、北原恵一、**川島徳道**、**徳岡由一**

オゾン—UV 処理によるポリスルホンの表面改質

2008年材料技術研究協会討論会

2008年12月5日 於東京理科大学野田キャンパス

松本朱加、**村上拓郎**、**徳岡由一**、**川島徳道**、武永美津子、**落合晃**

オゾン—UV 処理した PET へのへパリン付加

2008年材料技術研究協会討論会

2008年12月5日 於東京理科大学野田キャンパス

北原恵一、座間涼平、**徳岡由一**

ドデシルリン酸ナトリウムを用い調製したラメラ型ナノ構造を持つヒドロキシアパタイトの合成

2008年材料技術研究協会討論会

2008年12月5日 於東京理科大学野田キャンパス

## 論文掲載

---

徳岡由一、坪内利江子、木村誠

「5-アミノレブリン酸外用薬を用いた光線力学的療法における健常皮膚への影響-アミノレブリン酸の濃度と有害事象の発現の関連性について-」

Aesthetic Dermatology, 18 pp.7-16

2008年4月1日

**Yoshikazu Tokuoka**, Naoki Watabe, **Norimichi Kawashima**

“Influence of synthetic perfumes on stability of O/W emulsion in sodium dodecyl sulfate/n-dodecane/water ternary systems”

Colloid and Polymer Science, 286 (6) pp.769-776

**Yoshikazu Tokuoka**, Megumi Suzuki, Yumiko Ohsawa, **Akira Ochiai**, Masahiro Ishizuka, **Norimichi Kawashima**

“Enhancement in Skin Permeation of 5-Aminolevulinic Acid Using l-Menthol and its Derivatives”

Drug Development and Industrial Pharmacy, 34

2008年7月1日

## 国際学会・シンポジウムでの発表・講演

---

Tomomi Iida, Kasumi Kashikura, Yasuhiro Mihara, **Toshiyuki Kosobe**, Takashi Nishino, Masahiro Ishizuka, Eisuke Kaji, **Norimichi Kawashima**, and **Yoshikazu Tokuoka**

“Synthesis of novel ALA glycoside”

The 8th international Porphyrin-Heme Symposium

October 16th, 2008 Shimane Prefectural Assembly Hall

Kazusa Asai, Megumi Suzuki, Masahiro Ishizuka, Makoto Kimura, Sachiko Kosaka, Yukihiro Fukunaga, Norio Miyoshi, **Norimichi Kawashima**, and **Yoshikazu Tokuoka**

“Enhancement in skin absorption of 5-aminolevulinic acid”

The 8th international Porphyrin-Heme Symposium

October 16th, 2008 Shimane Prefectural Assembly Hall

Takuya Ishii, Tomoyasu Kimura, Hiroki Izawa, Yuichi Ogasawara, Tomomi Iida, **Toshiyuki Kosobe**, Masahiro Ishizuka, **Norimichi Kawashima**, and **Yoshikazu Tokuoka**

“Additional effect of phenylalanine on 5-aminolevulinic acid induced- protoporphyrin IX accumulation”

The 8th international Porphyrin-Heme Symposium

October 16th, 2008 Shimane Prefectural Assembly Hall

Kazusa Asai, and **Yoshikazu Tokuoka**

“Enhancement of ALA skin permeation by Iontophoresis”

TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2008

October 31th, 2008 Toin University of Yokohama

Tomomi Iida, Kasumi Kashikura, Yasuhiro Mihara, **Toshiyuki Kosobe**, Takashi Nishino, Masahiro Ishizuka, Eisuke Kaji, **Norimichi Kawashima**, and **Yoshikazu Tokuoka**

“Synthesis of novel ALA glycoside”

TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2008

October 31th, 2008 Toin University of Yokohama

Takuya Ishii, Tomoyasu Kimura, Hiroki Izawa, Tomomi Iida, **Toshiyuki Kosobe**, Masahiro Ishizuka, **Norimichi Kawashima**, and **Yoshikazu Tokuoka**

“Effect of phenylalanine on 5-aminolevulinic acid-induced protoporphyrin IX accumulation in U-937 cell”

TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2008

October 31th, 2008 Toin University of Yokohama

Keiichi Kitahara, and **Yoshikazu Tokuoka**

“Transformation of mesoporous monetite ( $\text{CaHPO}_4$ ) using hydrothermal treatment”

TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2008

October 31th, 2008 Toin University of Yokohama

## 特許申請等

---

**徳岡由一、古曾部俊之、川島徳道**

「5-アミノレブリン酸誘導体及びその塩」

特願 2008-220006 桐蔭学園 北里研究所 コスモ石油

## その他

---

### ○総説・論説

**徳岡由一、木村誠**

「皮膚科領域での光線力学治療における光増感性物質と光源装置」

Visual Dermatology 7 (8) pp.852-857

2008年8月22日

### ○表彰・受賞

渡部直樹、石田有、**落合晃、徳岡由一、川島徳道**

「11th Journal of Oleo Science Editors' Award」

2008年7月26日 於日本油化学会

## 米坂知昭（よねさか ともあき）准教授

---



出生年：1958年

在籍：2009年1月～

最終学歴：東京理科大学 理学Ⅱ部 物理学科

専門分野：臨床検査学、病院概論（建築設計・管理運営）

前職：済生会横浜市東部病院

資格：臨床検査技師

学会：日本臨床衛生検査技師会、神奈川県臨床衛生検査技師会、日本薬理学会、生物試料分析科学会

社会的活動：日本臨床衛生検査技師会常務理事

受賞・表彰：神奈川県公衆衛生表彰

## 大 辻 希 樹 (おおつじ まれき) 講師

---



出 生 年 : 1972 年  
在 籍 : 2009 年 4 月～  
最 終 学 歴 : 放送大学 教養学部  
専 門 分 野 : 病理学、免疫遺伝学、分子生物学  
前 職 : 順天堂大学 医学部 病理・腫瘍学講座 助手  
資 格 : 臨床検査技師  
非 常 勤 講 師 : 順天堂大学 医学部 非常勤助手  
学 会 : 日本免疫学会、日本病理学会、日本リウマチ学会、分子生物学会、超音波検査技師会、日本臨床衛生検査技師会、東京都臨床検査技師会

## 川 田 淳 一 (かわた じゅんいち) 講師

---



出 生 年 : 1946 年  
在 籍 : 1990 年 4 月～  
最 終 学 歴 : 放送大学教養学部人文自然コース  
専 門 分 野 : 分光学、有機薄膜  
前 職 : 桐蔭学園工業高等専門学校講師  
学 会 : 日本化学会、応用物理学会

## 小 林 貴 (こばやし たかし) 講師

---



出 生 年 : 1951 年  
在 籍 : 1989 年 4 月～  
最 終 学 歴 : 東京理科大学大学院博士課程  
学 位 : 理学修士  
学 位 論 文 : 風の乱れの空間構造  
専 門 分 野 : 地球物理、環境物理、計算機物理  
前 職 : 桐蔭学園工業高等専門学校講師  
学 会 : 日本物理学会、日仏海洋学会、ゆらぎ現象研究会

## 論文掲載

---

### 小林貴

「工学ワークショップ小史 –工学ワークショップ盛衰記–」

桐蔭論叢, 18, 45-50

2008 年 6 月

## 臨床工学科 (Department of Clinical Engineering)

### 飯田 行 恭 (いいた ゆきやす) 教授

---



出 生 年 : 1949 年  
在 籍 籍 : 2002 年 4 月～  
最 終 学 歴 : 九州大学工学研究科応用物理課程修了  
学 位 位 : 医学博士  
学 位 論 文 : 一般化回帰分析を用いた検査値予知モデル  
専 門 分 野 : 医療情報学  
前 職 職 : NTTサイバースペース研究所画像情報処理研究グループ  
主幹研究員  
学 会 会 : 電子情報通信学会、医療情報学会、産業衛生学会、公衆  
衛生学会  
受 賞 ・ 表 彰 : 逡信医学優秀論文発表者賞(1995)

#### 学会・研究会発表

---

尾池、望月、菅野、小野寺、**飯田**  
「遺伝統計解析のための連鎖パラメータ入力の検討」  
神奈川県ものづくり技術交流会  
2008 年 10 月

小野寺、望月、尾池、**西村、飯田**  
「遺伝統計ソフトのユーザーインタフェースの研究」  
神奈川県ものづくり技術交流会  
2008 年 10 月

小林、菅野、大島、望月、**飯田**  
「医用工学学習用 e-learning システム」  
神奈川県ものづくり技術交流会  
2008 年 10 月

小林、大島、菅野、望月、**飯田**  
「医用工学学習用 e-learning システムのための問題自動生成」  
神奈川県ものづくり技術交流会  
2008 年 10 月

小林、菅野、大島、**飯田**  
「サーバーサイドプログラミング技術に基づく e-learning システム」  
第28回医療情報学連合大会  
2008 年 11 月

#### 国際学会・シンポジウムでの発表・講演

---

Keisuke Sugano, Mariko Oike, Shuji Mochizuki, **Hiroyuki Nishimura** and **Yukiyasu Iida**  
“Development of integrated Environment for Statistical Genetics Software “Linkage Package””  
The TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2008.  
2008 年 10 月

Yoshiaki Kobayashi, Taturou Ooshima, Naomi kanno and **Yukiyasu Iida**

“E-learning system based on server side programming technology”

The TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2008.

2008年10月

Shuji Mochizuki, Mariko Oike, Tatsuhiro Onodera, Keisuke Sugano and **Yukiyasu Iida**

“Improvement of user interface for pedigree data input program in Linkage package”

The TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2008.

2008年10月

Mariko Oike, Shuji Mochizuki, Keisuke Sugano, Tatsuhiro Onodera and **Yukiyasu Iida**

“Improvement of user interface for genetic parameter input program in Linkage package”

The TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2008.

2008年10月

Tatsuhiro Onodera, Keisuke Sugano, **Yukiyasu Iida** and **Hiroyuki Nishimura**

“A simulation program for the experimental cross breeding of mice”

The TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2008.

2008年10月

## 川 島 徳 道 (かわしま のりみち) 教授

---



出生年 : 1948年  
在籍 : 1995年8月～  
最終学歴 : 東京理科大学大学院理学研究科化学専攻博士課程修了  
学位 : 理学博士  
学位論文 : Studies on Dry Grinding of Pigment Mixture  
専門分野 : コロイド表面化学、精密研磨加工、医用材料  
前職 : 東京理科大学理学部応用化学教室、リーハイ大学表面工学研究所、東京磁気印刷(株)開発技術部  
留学 : 米国リーハイ大学表面工学研究所  
学会 : 日本化学会、日本バイオマテリアル学会、砥粒加工学会、色材学会、材料技術研究協会、次世代センサ協議会、日本機能水学会、日本塗装技術協会、世界医学気功学会、日本老年医学会、日本皮膚科学会、アメリカ化学会  
社会的活動 : 材料技術研究協会副会長・理事、色材協会理事、日本塗装技術協会理事、日本医工学治療学会評議員  
BME株式会社・代表取締役社長、NPO法人健康福祉工学会・会長  
受賞・表彰 : 昭和50年度色材協会論文賞、平成元年度色材協会技術賞、平成9年度材料技術研究協会技術賞、1999年度材料技術討論会ポスター賞(歯科用印象材の殺菌システム)2000年度材料技術討論会ポスター賞(強力超音波を保持したダイヤモンド粉末の表面改質)、2001材料技術研究協会討論会ポスター賞(癌の光線力学的療法に対する鉄キレート剤の添加効果)、2001年度材料技術研究協会討論会技術賞(廃棄物を利用した湖沼・河川におけるリ

ン化合物の除去技術の開発)、2002年度材料技術研究協会討論会ポスター賞(超音波を用いた円筒形透析装置)  
2002年度材料技術研究協会技術賞(活性酸素種を用いた表面改質法)、2003年度材料技術研究協会技術賞「癌の光線力学的療法用新規メタルハライドランプ」、2003年度材料技術研究協会討論会ポスター奨励賞(活性酸素種により表面改質されたポリスチレンへのグルコースオキシターゼの固定化とその酵素活性)、2003年度材料技術研究協会討論会ポスター奨励賞(ディップコーティング処理によるディオプサイド加圧焼結のアパタイト生成能の向上)、2004年度材料技術研究協会論文賞(活性酸素生成に関する基礎研究)、2004年度材料技術研究協会 ゴールドポスター賞(癌の光線力学的療法における5-Aminolevulinic Acidの経皮吸収に及ぼす1-menthol誘導体の添加効果)、第25回超音波エレクトロニクスの基礎と応用に関するシンポジウム(USE2004)超音波シンポジウム奨励賞(超音波により解凝集および表面改質したナノダイヤモンドの経時安定性)、2004年度材料技術研究協会討論会ポスター賞奨励賞およびゴールドポスター賞(水熱合成法におけるTi基板の前処理による圧電特性の改善)、2004年度材料技術研究協会討論会ポスター賞奨励賞(超音波照射による癌細胞の増殖抑制ーヒト白血病細胞株U937とマウスの胸腺リンパ系癌細胞EL-4の比較)、2004年度材料技術研究協会討論会ポスター賞奨励賞(音響化学作用を用いたナノダイヤモンドの解凝集と表面改質ー超音波の照射強度と音響化学作用の効果ー)、2004年度材料技術研究協会討論会ゴールドポスター賞(ポリエチレングリコールで改質された金基板表面へのタンパク質の吸着挙動)、2004年度材料技術研究協会討論会ゴールドポスター賞(ポリエチレングリコールで改質された金基板表面へのタンパク質の吸着挙動)、2005年材料技術研究協会討論会ゴールドポスター賞(光造形実体モデルを用いた硬組織用生体材料の成型法の開発)、2005年材料技術研究協会討論会学生論文賞(An in vitro study on the improvement of protoporphyrin IX accumulation using esterified and amidated 5-aminolevulinic acids)、2005年度材料技術研究協会討論会(ポスター奨励賞水熱合成法を用いた微細カテーテル形超音波トランスデューサ作製の基礎検討ー水熱合成環境下で用いるマスキング材と耐熱導電性接着剤の検討)、2005年度材料技術研究協会討論会ポスター奨励賞(水熱合成法による非鉛系圧電膜の圧電定数 $d_{31}$ の測定)、2005年度材料技術研究協会討論会ポスター奨励賞(超音波照射による超精密研磨用ナノダイヤモンド微粒子の分散に関する検討)、日本音響学会  
2006年春季研究発表会ポスター賞(水熱合成法による圧電多結晶膜を用いた医用アレイ超音波プローブの基礎研究ーハイドロキシアパタイト基板上への1次元アレイPZT振動子の成膜ー)、2006年度材料技術研究



協会討論会ゴールドポスター賞(ポリエチレングリコールで改質した金基板表面への血漿タンパク質の吸着挙動(VII))、2006年度材料技術研究協会討論会ゴールドポスター賞(光造形モデルを用いた骨欠損部の成型法の開発)、2006年度材料技術研究協会討論会ゴールドポスター賞(発光周波数の異なるキセノンフラッシュ光のPDT効果)、2006年度材料技術研究協会討論会ポスター奨励賞(癌の光線力学的療法(PDT)用新規LED光源装置の開発)、2006年度材料技術研究協会討論会ポスター奨励賞受賞(ディオプサイドの合成と物性)、2006年度材料技術研究協会討論会ポスター奨励賞(球状多孔質ディオプサイド粉体の細孔制御)、2006年度材料技術研究協会討論会ポスター奨励賞受賞(リポソーム二分子膜の流動性に及ぼすl-mentholおよびl-menthol誘導体の添加効果)、2006年度材料技術研究協会学生論文賞(水熱合成法によるPZT多結晶膜を用いた超小型二次元アレイ医用超音波プローブの開発)、2007年度材料技術研究協会技術賞(-5.2度階段の開発)、2007年度材料技術研究協会学生論文賞(間伐材の効果的含水管理に関する研究)、2007年度材料技術研究協会討論会ゴールドポスター賞(オゾン-UV処理により表面改質された各種高分子材料への血漿タンパク質の吸着挙動(II))、2007年度材料技術研究協会討論会ゴールドポスター賞(水熱合成法を用いたPZT多結晶膜の成膜に関する基礎研究-合成回数と水熱PZT多結晶径と組成比の関係-)、2007年度材料技術研究協会討論会ゴールドポスター賞(5-アミノレブリン酸による細胞内プロトポルフィリンIXの集積性に及ぼす各種芳香族系アミノ酸の添加効果)、2007年度材料技術研究協会討論会ゴールドポスター賞(整形外科手術用ドリルの加工特性)、2007年度材料技術研究協会討論会ゴールドポスター賞(間伐材を活用した階段の踏み面勾配の歩行解析)、日本油化学会 11th Journal of Oleo Science Editors' Award (Oxidation decomposition of unsaturated fatty acids by singlet oxygen in phospholipids bilayer membranes, Journal of oleo science)、2008年度色材協会討論会優秀ポスター賞(酸化チタン/酸化亜鉛複合電極を用いた色素増感太陽電池の検討)、2008年度色材協会討論会優秀ポスター賞(PDTにおけるヒト白血病細胞のLEDランプの照射に伴うATP産生量の変化)、2008年度材料技術研究協会討論会ゴールドポスター賞(ALA-PDTにおける二波長同時照射型LEDのPDT効果)、2008年度材料技術研究協会討論会ゴールドポスター賞(活性酸素によるNafionフィルムの酸化分解速度の検討)、2008年度材料技術研究協会討論会ゴールドポスター賞(木材打撃音のウェーブレット変換を用いた新しい含水率の推定方法)、2008年度材料技術研究協会討論会ゴールドポスター賞(階段の昇降時に及ぼす踏み面勾配の影響)、2008年度材料技術研究協会討論会ゴールドポスター賞(サージに含まれる

種子および果実フラボノイドのヒト白血病単球細胞 (U937)増殖抑制効果)、2008 年度材料技術研究協会討論会ゴールドポスター賞(プロトポルフィリン IX の細胞内集積性に及ぼすフェニルアラニンの添加効果におけるシステム L の寄与について)、材料技術研究協会論文賞(間伐材の効果的含水管理に関する研究)

## 著書出版

---

### 川島徳道

「OH ラジカル類の生成と応用技術」

共著(第6章 材料)3活性酸素による高分子材料の表面エッチング技術)

NTS 565 (504-510)

2008 年 9 月 5 日

## 学会・研究会発表

---

菅原智子、**村上拓郎**、**川島徳道**

「燃料電池内部を想定した Nafion フィルムの活性酸素種による酸化反応」

日本化学会第 88 春季年会

2008 年 3 月

近藤修、**佐藤敏夫**、辻毅一、**川島徳道**、星野敏久、阿岸鉄三

「血液音響パラメータの測定による血液浄化施行中の回路内凝血監視システム」

日本医工学治療学会第 24 回学術大会

2008 年 4 月 19 日 於幕張メッセ国際会議場

横山ジャンポール、**小田川美伯**、辻毅一、藤倉久男、**川島徳道**

「間伐材を利用した疲れない階段の歩行解析」

日本医工学治療学会第 24 回学術大会

2008 年 4 月 19 日 於幕張メッセ国際会議場

**小田川美伯**、青野賢大、**佐藤敏夫**、辻毅一、**川島徳道**、古賀大介

「手術用ドリルを用いた穴あけ加工特性」

日本医工学治療学会第 24 回学術大会

2008 年 4 月 19 日 於幕張メッセ国際会議場

石田等、**佐藤敏夫**、辻毅一、**川島徳道**、竹村英生、大須賀敏明、阿岸鉄三

「呼吸アンモニア連続測定による血液透析中の小分子除去動態把握」

日本医工学治療学会第 24 回学術大会

2008 年 4 月 19 日 於幕張メッセ国際会議場

新妻可奈子、駒井鑑、**佐藤敏夫**、辻毅一、**川島徳道**、山根明、飯田良平、森戸光彦、小見勝利、阿岸鉄三

「嚙下音と嚙下造影画像の同期記録／再生装置を用いた嚙下音発生メカニズムの検証」

日本医工学治療学会第 24 回学術大会

2008 年 4 月 19 日 於幕張メッセ国際会議場

**川島徳道**、斉藤真樹、新倉嘉浩、**河崎賢三**、重原聡、常国剛史

「光造形法によるエピテーゼの作製」

日本医工学治療学会第 24 回学術大会

2008 年 4 月 20 日 於幕張メッセ国際会議場

村上彩子、**佐藤敏夫**、辻毅一、**川島徳道**、小見勝利、泉ゆかり、星野敏久、赤松眞、阿岸鉄三

「ウェーブレット変換したシャント音画像の相関係数による定量化」

日本医工学治療学会第 24 回学術大会

2008 年 4 月 19 日 於幕張メッセ国際会議場

**徳岡由一**、山口美香、松村由里子、佐藤大輔、**落合晃**、**川島徳道**、加藤明良

「ALA-PpIX におけるピリミジン含有三方向性六座配位子の添加効果」

第 18 回日本光線力学学会学術講演会

2008 年 6 月 14 日 於テレビアホール(名古屋市)

竹井 靖、**古曾部俊之**、**中島伸江**、**村上拓郎**、**川島徳道**

「ALA-PDT における 2 波長同時照射型 LED の PDT 効果」

色材協会

2008 年 9 月 11 日 於名古屋市工業研究所

**中島伸江**、**川島徳道**

「PDT におけるヒト白血病細胞の LED ランプの照射に伴う ATP 産生量の変化」

色材協会

2008 年 9 月 11 日 於名古屋市工業研究所

菅原智子、高根沢聡太、酒井誠弥、**村上拓郎**、**川島徳道**

「燃料電池内部を想定したナフィオンフィルムの活性酸素種による酸化反応」

色材協会

2008 年 9 月 11 日 於名古屋市工業研究所

**徳岡由一**、中村有希、長谷部亜矢、城野哲矢、**村上拓郎**、**川島徳道**

「多孔質ディオプサイト微粒子の調製に及ぼす界面活性剤の濃度」

色材協会

2008 年 9 月 11 日 於名古屋市工業研究所

渡部直樹、**徳岡由一**、**村上拓郎**、**川島徳道**

「O/W エマルション中における一重項酸素による合成香料の酸化分解反応」

色材協会

2008 年 9 月 11 日 於名古屋市工業研究所

酒井誠弥、**村上拓郎**、**川島徳道**

「酸化チタン/酸化亜鉛複合電極を用いた色素増感太陽電池の検討」

色材協会

2008 年 9 月 11 日 於名古屋市工業研究所

桂尚樹、磯野裕佳、**佐藤敏夫**、**川島徳道**、宗像佳克、中根紀章

「ANSYS FLOTTRAN を用いたバスキュラーアクセスのシャント音に関する時刻歴応答解析」

平成 20 年度 神奈川県ものづくり技術交流会

2008 年 10 月 15 日 於神奈川県産業技術センター

**佐藤敏夫**、岩城慎治、**川島徳道**、藤倉久男、小見勝利  
「間伐材打撃音のウェーブレット変換を用いた木材の含水率の新しい推定方法」  
平成 20 年度 神奈川県ものづくり技術交流会  
2008 年 10 月 15 日 於神奈川県産業技術センター

**佐藤敏夫**、高橋亮美、**川島徳道**、近藤修、阿岸鉄三  
「血液透析回路内に発生する凝血の早期監視システム」  
平成 20 年度 神奈川県ものづくり技術交流会  
2008 年 10 月 15 日 於神奈川県産業技術センター

**佐藤敏夫**、新妻可奈子、**川島徳道**、阿岸鉄三、山根明、小見勝利  
「老人介護施設での実施を目的とした嚙下音の時間一周波数分析による嚙下障害のスクリーン検査」  
平成 20 年度 神奈川県ものづくり技術交流会  
2008 年 10 月 15 日 於神奈川県産業技術センター

村上彩子、**佐藤敏夫**、辻毅一、**川島徳道**、澁谷有美、泉ゆかり、星野敏久、赤松眞、阿岸鉄三、小見勝利  
「血液透析におけるシャント機能経時変化の定量化」  
平成 20 年度 神奈川県ものづくり技術交流会  
2008 年 10 月 15 日 於神奈川県産業技術センター

入澤信也、**川島徳道**、**竹内真一**、遠藤聡人、黒沢実  
「水熱合成 PZT を用いた超小型一次元アレイ超音波プローブの研究 -8 素子駆動でのフェイズドアレイ化-」  
平成 20 年度 神奈川県ものづくり技術交流会  
2008 年 10 月 16 日 於神奈川県産業技術センター

瀬戸雄貴、**川島徳道**、**竹内真一**、黒沢実  
「水熱合成 PZT を用いて試作した小型キャパシタセンサの基礎検討」  
平成 20 年度 神奈川県ものづくり技術交流会  
2008 年 10 月 16 日 於神奈川県産業技術センター

赤松正、宮坂宗男、安村佑樹、**小田川美伯**、**川島徳道**、重原聡  
「機能性エピテーゼの開発と将来展望 - 医用工学分野からのアプローチ -」  
第 26 回日本頭蓋顎顔面外科学学術集会  
2008 年 10 月 16 日 於ホテルメトロポリタン盛岡

**川島徳道**、村上拓郎、**中島伸江**  
「光造形を用いた手術シミュレーション」  
平成 20 年度 神奈川県ものづくり技術交流会  
2008 年 10 月 17 日 於神奈川県産業技術センター

**川島徳道**、村上拓郎、**中島伸江**  
「光造形を用いた手術シミュレーション」  
平成 20 年度 神奈川県ものづくり技術交流会  
2008 年 10 月 17 日 於神奈川県産業技術センター

**小田川美伯、安村佑樹、川島徳道、大塚雅人、竹中創、中村光哉、梅田研、官野高明、直江史郎**

「IVUS カテーテル(Atlantis SR Pro2)の使用後ガイドワイヤーポート劣化に関する検討」

第 17 回関東甲信越 IVUS 研究会

2008 年 10 月 31 日 於東京

**高橋三男、北折典之、仁木輝緒、湯浅真、川島徳道**

「マイクロ酸素センサによる灌水条件における根の表面近傍の酸素濃度測定」

2008 年度 材料技術研究協会

2008 年 12 月 5 日 於東京理科大学(野田)

**井上弘誉、中島伸江、村上拓郎、川島徳道**

「U937 における Hypericin-PDT 効果」

2008 年度 材料技術研究協会

2008 年 12 月 5 日 於東京理科大学(野田)

**小笠原裕一、飯田有美、古曾部俊之、川島徳道、徳岡由一**

「プロトポルフィリン IX の細胞内集積性に及ぼすフェニルアラニンの添加効果におけるシステムLの寄与について」

2008 年度 材料技術研究協会

2008 年 12 月 5 日 於東京理科大学(野田)

**竹井靖、古曾部俊之、中島伸江、村上拓郎、川島徳道**

「ALA-PDT における二波長同時照射型 LED の PDT 効果(IV)」

2008 年度 材料技術研究協会

平成 20 年 12 月 5 日 於東京理科大学(野田)

**渡邊晶子、川島徳道、竹内真一**

「医用超音波の安全評価に関する基礎研究・メカニカルインデックス MI 値の妥当性に関する基礎検討」

2008 年度 材料技術研究協会

2008 年 12 月 5 日 於東京理科大学(野田)

**仁木翔平、村上拓郎、徳岡由一、川島徳道、落合晃**

「アルギン酸ゲルの作製とスカフォールドへの応用に関する研究」

2008 年度 材料技術研究協会

平成 20 年 12 月 5 日 於東京理科大学(野田)

**小島大我、北原恵一、川島徳道、徳岡由一**

「オゾンーUV 処理によるポリスルホンの表面改質」

2008 年度 材料技術研究協会

2008 年 12 月 5 日 於東京理科大学(野田)

**松本朱加、村上拓郎、徳岡由一、川島徳道、武永美津子、落合晃**

「オゾンーUV 処理した PET へのへパリン付加」

2008 年度 材料技術研究協会

2008 年 12 月 5 日 於東京理科大学(野田)

高根沢聡太、**村上拓郎**、**川島徳道**

「ポリマー微粒子を用いた活性酸素種の定量法の検討」

2008年度 材料技術研究協会

2008年12月5日 於東京理科大学(野田)

菅原智子、高根沢聡太、酒井誠弥、**村上拓郎**、**川島徳道**

「活性酸素種による Nafion フィルムの酸化分解速度の検討」

2008年度 材料技術研究協会

2008年12月5日 於東京理科大学(野田)

酒井誠弥、**村上拓郎**、**川島徳道**

「酸化チタン/酸化亜鉛を用いた色素増感太陽電池の検討(2)」

2008年度 材料技術研究協会

2008年12月5日 於東京理科大学(野田)

吉村一穂、**川島徳道**、**竹内真一**、黒澤実

「水熱合成 PZT ハイドロホン用ワイアの過酸化水素を用いたテーパー加工とその効果」

2008年度 材料技術研究協会

2008年12月5日 於東京理科大学(野田)

入澤信也、遠藤聡人、黒沢実、**川島徳道**、**竹内真一**、

「水熱合成 PZT 多結晶膜の高感度化に関する基礎研究-分極処理による影響-

2008年度 材料技術研究協会

2008年12月5日 於東京理科大学(野田)

青木貴宏、**川島徳道**、**竹内真一**、内田武吉、菊池恒男

「超音波照射によるダイヤモンド微粒子の分散と表面改質に関する基礎検討-照射時間による影響の検討」

2008年度 材料技術研究協会

2008年12月5日 於東京理科大学(野田)

関口真依、**小田川美伯**、辻毅一、**川島徳道**

「LED を用いた足ツボ刺激効果」

2008年度 材料技術研究協会

2008年12月5日 於東京理科大学(野田)

末吉利佳、**小田川美伯**、辻毅一、**川島徳道**

「整形外科手術用ドリルの穴あけ加工特性」

2008年度 材料技術研究協会

2008年12月5日 於東京理科大学(野田)

岩城慎治、**古曾部俊之**、**本橋由香**、**佐藤敏夫**、**川島徳道**、藤倉久男、小見勝利

「木材打撃音のウェーブレット変換を用いた木材含有率の推定方法」

2008年度 材料技術研究協会

2008年12月5日 於東京理科大学(野田)

麻生瑞歩、**小田川美伯**、辻毅一、**川島徳道**

「可変式椅子を用いた筋電解析」

2008 年度 材料技術研究協会

2008 年 12 月 5 日 於東京理科大学(野田)

横山ジャンポール、**小田川美伯**、辻毅一、**川島徳道**

「階段の昇降時に及ぼす踏み面勾配の影響」

2008 年度 材料技術研究協会

2008 年 12 月 5 日 於東京理科大学(野田)

筒井美帆、**中島伸江**、**川島徳道**

「サジーに含まれる種子および果実フラボノイドのヒト白血病細胞における増殖抑制効果」

2008 年度 材料技術研究協会

2008 年 12 月 5 日 於東京理科大学(野田)

菅原智子、高根沢聡太、**村上拓郎**、**川島徳道**

「PEFC 内 NaFion フィルムの状態予測を目的とした酸化反応」

電気化学会第 76 回大会

2009 年 3 月 29 日～3 月 31 日 於京都大学

酒井誠弥、**村上拓郎**、**川島徳道**

「酸化亜鉛/酸化チタンを用いた色素増感太陽電池の高効率化」

電気化学会第 76 回大会

2009 年 3 月 29 日～3 月 31 日 於京都大学

## 論文掲載

---

(2006 年度未掲載分 1 件)

**Yoshikazu Tokuoka**, Naoki Watabe, Yu Ishida, **Akira Ochiai**, **Norimichi Kawashima**

“Oxidation decomposition of unsaturated fatty acids by singlet oxygen in phospholipid bilayer membranes”

Journal of Oleo Science, 56 (2) pp.73-80

2007 年 2 月 1 日

福田和繁、松浦弘典、大谷若菜、**川島徳道**、**高田朋典**

「赤外分光法を用いた無機-有機複合材料の同時定量分析方法」

J.Soc.Inorganic Materials, Japan 15 pp.14-20

2008

藤倉久男、新倉嘉浩、**川島徳道**

「間伐材の効果的含水管理に関する研究」

材料技術 26(2) pp.98-108

2008

**YOSHIKAZU TOKUOKA**, **NAOKI WATABE**, **NORIMICHI KAWASHIMA**

“Influence of synthetic perfumes on stability of O/W emulsion in sodium dodecyl sulfate/n-dodecane/water ternary systems”

Colloid and Polymer Science, 286 (6) pp.769-776

2008 年 6 月 1 日

Yoshihiro Hada, Masashi Takahashi, **Hiroyuki Nishimura, Yoh Kodera, Norimichi Kawashima**  
"Poly(ethylene glycol)-modified Mn-SOD for prolonging its half-life in blood circulation"  
Material technology 26(1) pp.18-21  
2008年10月11日

Hitoshi Ishida, **Toshio Satou**, Kiichi Tsuji, **Norimichi Kawashima**, Hideo Takemura,  
Yosuiro Kosaki, Seimei Shiratori, Tetsuzo Agishi  
"The breath ammonia measurement of the hemodialysis with a QCM-NH<sub>3</sub> sensor"  
Bio-Medical Materials and Engineering 18 pp.99-106

**Toshiyuki Kosobe**, Xuepeng Qiu, Yuki Ohno, **Nobue Nakajima, Takurou N. Murakami, Norimichi Kawashima**  
"Effect of LED lamp on PDT efficacy"  
Material technology 26(3) pp.176-181  
2008年

**Yoshikazu Tokuoka**, Megumi Suzuki, Yumiko Ohsawa, **Akira Ochiai**, Masahiro Ishizuka, **Norimichi Kawashima**  
"Enhancement in Skin Permeation of 5-Aminolevulinic Acid Using l-Menthol and its Derivatives"  
Drug Development and Industrial Pharmacy, 34(6) pp.595-601  
2008年7月1日

石田等、**佐藤敏夫**、辻毅一、**川島徳道**、竹村英生、小崎康宏、白鳥世明、阿岸鉄三  
「血液透析中における呼気アンモニア連続測定」  
医工学治療 20(1)2008 pp.3-9  
2008年

石田等、**佐藤敏夫**、辻毅一、**川島徳道**、竹村英生、小崎康宏、白鳥世明、阿岸鉄三  
「水晶振動子アンモニアガスセンサの開発」  
材料技術 26(1)pp.32-39  
2008年

Takashi Hasegawa, **Norimichi Kawashima**  
"A new technique to measure the temperature of a rotating motor shaft"  
Advanced Thermal Engineering, 29, 2-3 (February)  
29(2009) 317-323  
2009年2月

#### **国際学会・シンポジウムでの発表・講演**

---

**Norimichi Kawashima, Takurou N. Murakami, Nobue Nakajima**  
"3D plastic replica for surgery planning with stereolithography"  
Hannover Messe, Germany  
2008年5月24日

**Norimichi Kawashima**  
"3D plastic replica for surgery planning with stereolithography"  
Hannover Messe, Germany  
2008年5月24日



Tomoko Sugawara, Naoki Kusumoto, Masaki Saito, **Nobue Nakajima, Takurou N. Murakami**, Satoshi Shigehara, Takeshi Tsunekuni, **Norimichi Kawashima**  
“Preparation of Epithese using stereo-lithography”  
ASIO’s 54th Annual Conference  
2008年6月20日 於 San Francisco, USA

Ayako Murakami, **Toshio Sato, Normichi Kawashima**, Tetsuzo Agishi, Katsutoshi Omi  
“Early deection of vascular access dysfunction based on wavelet transform analysis of shunt murmurs”  
ASIO’s 54th Annual Conference  
2008年6月20日 於 San Francisco, USA

Yuka Isono, Naoki Katsura, **Toshio Sato, Norimichi Kawashima**, Yoshikatsu Munakata, Noriake Nakane  
“Time History Response Analysis about Vascular Access Shunt Murmur Using ANSYS FLOTRAN”  
Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2008 (31 October 2008)

Ayako Murakami, **Toshio Sato, Norimichi Kawashima**, Tetsuzo Agishi, Katstoshi Omi  
“Early detection of vascular access dysfunction based on wavelet transform analysis of shunt murmurs”  
Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2008 (31 October 2008)

Eisaku Imamura, **Norimichi Kawashima**, Yoshihiro Niikura, Takahiro Kamikura, Tomoya Takamatsu, Tomoko Nishikawa  
“Preoperative simulation with three-dimennsional plastic replica in orthognathic surgery”  
TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2008 (31 October 2008)

Hisao Fujikura, **Norimichi Kawashima**  
“Study on the water content measurement of wood lumber using sound wave analysis”  
TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2008 (31 October 2008)

Tomomi Iida, Kasumi Kashikura, **Toshiyuki Kosobe**, Takashi Nishino, Masahiro Ishizuka, Eisuke Kaji, **Norimichi Kawashima, Yoshikazu Tokuoka**  
“Synthesis of nobel ALA glycoside”  
TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2008 (31 October 2008)

Shinnya Irizawa, Minoru Kurosawa, **Norimichi Kawashima, Shinichi Takeuchi**  
“Effect of polling process on hydrothermally synthesized PZT polycrystalline film”  
TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2008 (31 October 2008)

Takuya Ishii, Tomoyasu Kimura, Hiroki Izawa, Tomomi Iida, **Toshiyuki Kosobe**, Masahiro Ishizuka, **Norimichi Kawashima, Yoshikazu Tokuoka**  
“Effect of phenylalanine on 5-aminolevulinic acid-induced protoporphrinIX accumulation in U-937 cell”  
TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2008 (31 October 2008)

Kato Shota, **Norimichi Kawashima**  
“3D plastic model for surgery planning prepared using rapid prototyping”  
TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2008 (31 October 2008)

Naoki Kusumoto, Tatsuya Ide, Takeshi Tsunekuni, Tasuku Osada, Hiroshi Yanagawa, Kiichi Tsuji, **Norimichi Kawashima**

“A study on the development of artificial limbs”

TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2008 (31 October 2008)

Kazuki Matsumoto, **Norimichi Kawashima**

“Determining ideal paracentesis cordis puncture location using a 3D plastic model of inner shunt prepared by rapid prototyping”

TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2008 (31 October 2008)

**Nobue Nakajima** and **Norimichi Kawashima**

“Comparison of ATP level in U937 cells in vitro using two different photosensitizer”

TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2008 (31 October 2008)

Kanako Niizuma, **Toshio Sato**, **Norimichi Kawashima**, Tetsuzo Agishi, Akira Yamane, and Katsutoshi Omi

“Screening of swallowing disorder by time–frequency analysis of swallowing sound at elderly care facilities”

TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2008 (31 October 2008)

Nobuya Sakai, **Takuro Murakami**, **Norimichi Kawashima**

“ZnO/TiO<sub>2</sub> combination photo electrode for dye sensitized solar cell”

TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2008 (31 October 2008)

Yuki Seto, **Norimichi Kawashima**, Minoru Kurosawa, **Shinichi Takeuchi**

“A miniature cavitation sensor with hydrothermally synthesized PZT”

TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2008 (31 October 2008)

Tomoko Sugawara, Sota Takanezawa, Nobuya Sakai, **Takuro N. Murakami**, **Norimichi Kawashima**

“Kinetic study of the degradative oxidation of the Nafion by reactive oxygen species”

TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2008 (31 October 2008)

Sota Takanezawa, Shin-ichi Morita, Hidetoshi Sato, **Takuro N. Murakami**, **Norimichi Kawashima**

“Raman spectroscopy of a single living cell in photodynamic therapy”

TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2008 (31 October 2008)

Yasushi Takei, **Toshiyuki Kosobe**, **Nobue Nakajima**, **Takuro N. Murakami**, **Norimichi Kawashima**

“Photodynamic therapy for cancer cells using mixed wavelength LEDs”

TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2008 (31 October 2008)

Yuki Yasumura, Tasuku Osada, Takeshi Tsunekuni, Tadashi Akamatsu, Satoshi Shigehara, **Norimichi Kawashima**

“A study on the development of a functional facial prosthesis”

TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2008 (31 October 2008)

Kazuho Yoshimura, **Norimichi Kawashima**, **Shinichi Takeuchi**, Minoru Kurosawa

“Fundamental study of needle type hydrophone with taper shaped titanium wire using hydrothermally synthesized lead zirconate titanate”

TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2008 (31 October 2008)

## 海外出張

---

コービィ国際学院・ランゲージ・センター訪問(Novi, USA)2008年3月8日～17日

上海交通大学・中国科学院(中国 上海) 2008年3月20日～31日

Hannover Messe (Hannover Germany) 2008年5月24日

中国福建省成果交易会(中国 福州) 2008年6月13日～21日

コービィ国際学院・ランゲージ・センター訪問(Novi, USA)2008年8月28日～9月6日

広東省深圳市深圳盈機械有限公司・上海第9人民病院・上海交通大学(12月22日～29日)

## 特許申請等

---

### 徳岡由一、古曾部俊之、川島徳道

「5-アミノレブリン酸誘導体及びその塩」

出願番号:2008-220006

出願人:桐蔭学園 北里研究所 コスモ石油

日付:2008年8月28日

### 川島徳道、辻毅一、藤倉久男、伊藤恭二、長田佐

誘導路面用敷設板

出願番号:2009-007025

出願人: BME株式会社

日付:2009年1月15日

### 柳川洋、辻毅一、川島徳道

キャンバー角調整装置および車椅子

出願番号:2009-10285

出願人: BME株式会社

日付:2009年1月20日

## その他

---

### ○表彰・受賞

#### 酒井誠弥、村上拓郎、川島徳道

「色材協会 優秀ポスター賞」

2008年9月11日 於名古屋市工業研究所

#### 中島伸江、川島徳道

「色材協会 優秀ポスター賞」

2008年9月11日 於名古屋市工業研究所

#### 渡部直樹、石田有、落合晃、徳岡由一、川島徳道

「11th Journal of Oleo Science Editors' Award」

2008年7月26日 於日本油化学会

竹井靖、**古曾部俊之**、**中島伸江**、**村上拓郎**、**川島徳道**  
「ALA-PDTにおける二波長同時照射型 LED の PDT 効果」  
2008 年度材料技術研究協会討論会ゴールドポスター賞  
2008 年 12 月 5 日

菅原智子、高根沢総太、酒井誠弥、**村上拓郎**、**川島徳道**  
「活性酸素による Nafion フィルムの酸化分解速度の検討」  
2008 年度材料技術研究協会討論会ゴールドポスター賞  
2008 年 12 月 5 日

岩城慎治、**佐藤敏夫**、**川島徳道**、藤倉久男、小見勝利  
「木材打撃音のウェーブレット変換を用いた新しい含水率の推定方法」  
2008 年度材料技術研究協会討論会ゴールドポスター賞  
2008 年 12 月 5 日

横山 JP 優士、小田川美伯、辻毅一、**川島徳道**  
「階段の昇降時に及ぼす踏み面勾配の影響」  
2008 年度材料技術研究協会討論会ゴールドポスター賞  
2008 年 12 月 5 日

筒井美帆、**中島伸江**、**川島徳道**  
「サージに含まれる種子および果実フラボノイドのヒト白血病単球細胞(U937)増殖抑制効果、2008 年度材料技術研究協会討論会ゴールドポスター賞  
2008 年 12 月 5 日

石井琢也、小笠原裕一、飯田有美、**古曾部俊之**、**川島徳道**、**徳岡由一**  
「プロトポルフィリン IX の細胞内集積性に及ぼすフェニルアラニンの添加効果におけるシステム L の寄与について」  
2008 年度材料技術研究協会討論会ゴールドポスター賞  
2008 年 12 月 5 日

## ○産学協同研究

### 川島徳道

「高磁場通過水の評価と応用」  
株式会社 エッチ アール デイ

### 川島徳道

「使用済み活性炭の有効利用」  
東京都水道局

## ○学位(博士工学)取得者の主査

渡部直樹、活性酸素種による各種有機化合物の酸化分解反応 (2008 年 3 月)

羽田宜弘、バイオハイブリッドマテリアルの医用工学的研究 (2008 年 3 月)

福田和繁、分光学的方法による炭酸カルシウム系無機・有機複合材料の新規分析方法およびその応用に関する研究 (2008 年 3 月)

藤倉久男、間伐材の品質管理 (2009 年 3 月)

## 竹内真一（たけうち しんいち）教授

---



- 出生年 : 1956年  
在籍 : 1994年4月～  
最終学歴 : 武蔵工業大学大学院工学研究科修士課程電気工学専攻  
学位 : 工学博士  
学位論文 : 信号処理による超音波診断装置の分解能改善に関する研究 (修士)  
Study on applicability of microbubbles in harmonic imaging and development of ultrasound transducer for harmonic imaging (博士)  
専門分野 : 超音波工学、音響工学、医用生体工学、電子通信工学  
前職 : (株)トキメック研究開発センター計測電子システム部副主事  
資格 : 第1級陸上無線技術士、第1種電気通信主任技術者(伝送交換)、第2種ME技術実力検定試験合格  
非常勤講師 : 日本工学院専門学校・臨床工学専攻科  
学会 : IEEE、MRS、電子情報通信学会、日本音響学会、日本超音波学会、日本非破壊検査協会、材料技術研究協会  
社会的活動 : 日本超音波医学会・超音波専門医制度委員会委員、超音波検査士制度委員会委員、日本超音波医学会・Scientific Advisory Board 委員、電子情報通信学会・超音波専門委員会委員、電子情報通信学会誌・Fundamental Review 誌・編集委員、日本音響学会・超音波研究会・幹事、日本音響学会編集委員会(論文部会)委員、Applied acoustics 誌(Elsevier)査読委員、超音波シンポジウム運営委員会委員  
受賞・表彰 : 第51回注目発明に選定  
(超音波流量測定方法およびその装置)  
日本超音波医学会・超音波工学フェロー  
電子情報通信学会・シニア会員  
2000年度材料技術研究協会討論会ポスター賞受賞  
2002年度材料技術研究協会技術賞  
2002年度材料技術研究協会討論会ポスター賞  
2005年度材料技術研究協会討論会ポスター奨励賞

### 著書出版

---

森秀明、竹内真一(共著)

「腹部超音波 A side 基礎と臨床のキーポイント 37」

マジカルビュー社

竹内真一(分担執筆)

「超音波利用技術集成・ソノケミストリーの環境・医療応用から最新のセンシング動向まで」

株式会社エヌ・ティー・エス

竹内真一(分担執筆)

「新材料・新素材シリーズ;マイクロバブル・ナノバブルの最新技術」

株式会社シーエムシー出版

**竹内真一**(分担執筆)

「エレクトロニクスシリーズ;圧電材料の基礎と最新応用」

株式会社シーエムシー出版

## 学会・研究会発表

---

(2007 年度未掲載分 8 件)

T. Uchida, T. Kikuchi, **N. Kawashima, S. Takeuchi**

“Effect of ultrasound exposure in standing wave sound field on isoelectric point of nanometer sized diamond particles for abrasive agents”

2007 IEEE Ultrasonic Symposium Proceeding, Vol.1, pp.1862

吉村一穂、**川島徳道**、**竹内真一**、黒澤実

「テーパー状 Ti ワイヤの端面に水熱合成 PZT を成膜したニードル型ハイドロホンの試作」

電子情報通信学会技術報告(超音波研究会)、US2008-05

長谷川智仁、黒澤実、**竹内真一**

「水熱合成法により成膜した PZT 多結晶膜を用いた小型超音波プローブの特性評価」

電子情報通信学会技術報告(超音波研究会)、US2008-88

吉村一穂、**川島徳道**、内田武吉、菊池恒男、黒澤実、**竹内真一**

「チタン箔に水熱合成 PZT を成膜した小型メンブレン型ハイドロホンの試作」

電子情報通信学会技術報告(超音波研究会)、US2009-22

長谷川智仁、黒澤実、石河睦生、**竹内真一**

「水熱合成法により成膜した PZT 多結晶膜を用いた小型超音波プローブの分解能に関する検討」

電子情報通信学会技術報告(超音波研究会)、US2009-23

入澤信哉、遠藤聡人、黒澤実、**川島徳道**、**竹内真一**

「水熱合成 PZT を用いた超小型一次元アレイ超音波プローブの研究 -8 素子駆動によるグループファクターの検討-」

2008 年 日本音響学会春季研究発表会講演論文集 p.1343

2008 年 3 月

伊佐慎太郎、内田武吉、菊池恒男、**川島徳道**、**竹内真一**

「バースト超音波の照射によるナノダイヤモンド微粒子の解凝集及び表面改質の研究-超音波照射条件がナノダイヤモンド微粒子のゼータ電位におよぼす影響-」

2008 年 日本音響学会春季研究発表会講演論文集 p.1371

2008 年 3 月

内田武吉、菊池恒男、伊佐慎太郎、**川島徳道**、**竹内真一**

「4 枚の 150 kHz の PZT 圧電セラミック振動子を用いた超音波照射システムによるナノダイヤモンド微粒子の表面改質」

2008 年 日本音響学会春季研究発表会講演論文集 p.1373

2008 年 3 月

吉村一穂、内田武吉、吉村正裕、菊池恒男、**川島徳道**、黒澤実、大平悦三、**竹内真一**  
「水熱合成 PZT を成膜したテーパ型チタンワイヤを用いたバックエコーを抑制したハイドロホンの基礎検討」

日本超音波医学会第 81 回学術集会プログラム・講演抄録集、vol.35、Supplement S284  
2008 年 5 月 24 日

瀬戸雄貴、**川島徳道**、黒澤実、**竹内真一**

「水熱合成 PZT 膜を用いたキャピテーションセンサの基礎検討」

日本超音波医学会第 81 回学術集会プログラム・講演抄録集、vol.35、Supplement S562  
2008 年 5 月 24 日

Shinya Irisawa, Akito Endo, Minoru Kurosawa, **Norimichi Kawashima** and **Shinichi Takeuchi**

“Effect of poling process on property of hydrothermally synthesized PZT polycrystalline film”

Proceedings of Symposium on Ultrasonic Electronics, vol.29, (2008),pp.203-204

Tomohito Hasegawa, Minoru Kuribayashi Kurosawa and **Shinichi Takeuchi**

“Effect of edge mode resonance on directivity of small ultrasound probe fabricated with Lead Zirconate Titanate polycrystalline film deposited by hydrothermal method”, Proceedings of Symposium on Ultrasonic Electronics, vol.29, (2008),pp.203-204

Takeyoshi Uchida, Tsuneo Kikuchi, Takahiro Aoki, **Norimichi Kawashima** and **Shinichi Takeuchi**

“Effect of ultrasound exposure time on dispersion of nanometer-sized diamond particles”, Proceedings of Symposium on Ultrasonic Electronics, vol.29, (2008),pp.357-358

瀬戸雄貴、**川島徳道**、黒澤実、**竹内真一**

「水熱合成 PZT を用いたキャピテーションセンサの小型化に関する基礎検討」

2008 年 日本音響学会秋季研究発表会講演論文集 p.1399  
2008 年 9 月

内田武吉、菊池恒男、青木貴宏、**川島徳道**、**竹内真一**

「超音波照射によるダイヤモンド微粒子の分散と表面改質に関する基礎検討」

2008 年 日本音響学会秋季研究発表会講演論文集 p. 1421  
2008 年 9 月

入澤信哉、遠藤聡人、黒澤実、**川島徳道**、**竹内真一**

「水熱合成 PZT 多結晶膜の高感度化に関する基礎研究 一分極の効果」

2008 年 日本音響学会秋季研究発表会講演論文集 p. 1429 -  
2008 年 9 月

入澤信也、**川島徳道**、**竹内真一**、遠藤聡人、黒澤実

「水熱合成 PZT を用いた超小型一次元アレイ超音波プローブの研究 -8素子駆動でのフェイズドアレイ化-」

平成 20 年度 神奈川県ものづくり技術交流会  
2008 年 10 月 16 日 於神奈川県産業技術センター

瀬戸雄貴、**川島徳道**、**竹内真一**、黒澤実

「水熱合成 PZT を用いて試作した小型キャピテーションセンサの基礎検討」

平成 20 年度 神奈川県ものづくり技術交流会  
2008 年 10 月 16 日 於神奈川県産業技術センター

渡邊晶子、**川島徳道**、**竹内真一**

「医用超音波の安全性評価に関する基礎研究 -メカニカルインデックス MI 値の妥当性に関する基礎検討」

2008 年度 材料技術研究協会討論会講演要旨集、pp.71-72

2008 年 12 月 6 日、於東京理科大学野田キャンパス特別教室

吉村一穂、**川島徳道**、**竹内真一**、黒澤実

「水熱合成 PZT ハイドロホン用チタンワイヤの過酸化水素を用いたテーパー加工とその効果」

2008 年度 材料技術研究協会討論会講演要旨集、pp.177-178

2008 年 12 月 6 日、於東京理科大学野田キャンパス特別教室

入澤信哉、遠藤聡人、黒澤実、**川島徳道**、**竹内真一**

「水熱合成 PZT 多結晶膜の高感度化に関する基礎研究 -分極処理による影響-」

2008 年度 材料技術研究協会討論会講演要旨集、pp.181-182

2008 年 12 月 6 日、於東京理科大学野田キャンパス特別教室

青木貴宏、**川島徳道**、**竹内真一**、菊池恒男

「超音波照射によるダイヤモンド微粒子の分散と表面改質に関する基礎研究 -照射時間による影響の検討-」

2008 年度 材料技術研究協会討論会講演要旨集、pp.197-198

2008 年 12 月 6 日、於東京理科大学野田キャンパス特別教室

青木貴宏、**川島徳道**、**竹内真一**、内田武吉、菊池恒男

「超音波照射方式がナノダイヤモンド微粒子の粒度分布および平均粒子径に与える影響」

日本音響学会講演論文集 p.1193

2009 年 3 月

渡邊晶子、**川島徳道**、**竹内真一**

「医用超音波の安全性評価に関する基礎研究 -超音波パルス波形、周波数スペクトル、音場と安全指標の関係-」

2009 年 日本音響学会春季研究発表会講演論文集 p. 1273

2009 年 3 月

吉村一穂、**川島徳道**、**竹内真一**、黒澤実

「水熱合成 PZT を用いた耐高音圧小型メンブレン型ハイドロホンの提案」

2009 年 日本音響学会春季研究発表会講演論文集 p. 1273

2009 年 3 月

長谷川智仁、黒澤実、石河睦生、舟窪浩、**竹内真一**、西條芳文

「水熱合成 PZT 多結晶膜による超小型超音波プローブの開発 -超音波イメージングと分解能の検討-」

2009 年 日本音響学会春季研究発表会講演論文集 p. 1241

2009 年 3 月

## 論文掲載

Yuki Seto, **Norimichi Kawashima**, Minoru Kuribayashi Kurosawa and **Shinichi Takeuchi**

“Fundamental study of cavitation sensors fabricated with lead zirconate titanate film deposited by hydrothermal method : Analysis and consideration of output signal from the sensor”, Japanese Journal of Applied Physics, 47 (5B), 3871-3873 (2008)



Kazuho Yoshimura, **Norimichi Kawashima**, **Shinichi Takeuchi**, Takeyoshi Uchida, Masahiro Yoshioka, Tsuneo Kikuchi and Minoru Kuribayashi Kurosawa  
“Trial fabrication of needle-type hydrophone with taper-type structure using hydrothermally synthesized lead zirconate titanate”, Japanese Journal of Applied Physics, 47 (5B), 4215-4219 (2008)

T. Uchida, T. Kikuchi, S. Isa, **S. Takeuchi**, **N. Kawashima**  
“Development of Ultrasound Exposure System of Four Piezoelectric Ceramic Vibrators with Operating Frequency of 150 kHz for Dispersion of Nanometer-Sized Diamond Particles”, Jpn.J.Appl.Phys. Vol.47, No.5, pp.4115-4118,(2008)

B. P. Zhu, Q. F. Zhou, J. Shi, K. K. Shung, S. Irisawa, and **S. Takeuchi**  
“Self-separated hydrothermal lead zirconate titanate thick films for high frequency transducer applications”, APPLIED PHYSICS LETTERS, 94, 102901, 2009

### 講演会・研修会講師

---

#### 竹内真一

日本超音波医学会教育委員会主催第7回教育セッション「超音波検査士、超音波専門医受験のための医用超音波の基礎」、日本超音波医学会第81回学術集会  
2008年5月23日

#### 竹内真一

日本超音波医学会関東甲信越地方会 特別企画・講習会・基礎「知っておきたい超音波の基礎」、日本超音波医学会関東甲信越地方会第20回学術集会  
2008年10月25日

### 国際学会・シンポジウムでの発表・講演

---

(2007年度未掲載分 2件)

**Shinichi Takeuchi**, Yasuhiro Ishii, **Norimichi Kawashima** and Minoru Kurosawa

“Fundamental Investigation on lead zirconate titanate (PZT) polycrystalline film for medical ultrasound transducer by a hydrothermal method ; Relationship between repetition of synthesis and properties of synthesized PZT film”, 2008 AIUM (American Institute of Ultrasound in Medicine) Annual Convention, at San Diego, CA, U.S.A 2008.3.14

**Shinichi Takeuchi**, Akito Endo, Shinya Irisawa, Minoru Kurosawa and **Norimichi Kawashima**

“Trial fabrication and performance estimation of an ultrasound miniature 1-Dimensional array ultrasound probe with hydrothermally synthesized lead zirconate titanate film transducers”, 2008 AIUM (American Institute of Ultrasound in Medicine) Annual Convention at San Diego, CA, U.S.A, 2008.3.15

**Shinichi Takeuchi**, Shintaro Isa, **Norimichi Kawashima**, Takeyoshi Uchida and Tsuneo Kikuchi

“Disaggregation and Surface modification of nanometer-sized diamond particles as abrasive agents by ultrasound exposure for polishing and texturing hard disk with high recording density”, 37th UIA (Ultrasonic Industry Association) Annual Symposium at Sheraton Suite in Alexandria VA, USA,2008.4.

**Shinichi Takeuchi**, Yuki Seto, **Norimichi Kawashima** and Minoru K. Kurosawa

“Trial fabrication and estimation of cavitation sensor with hydrothermally synthesized PZT”, 37th UIA (Ultrasonic Industry Association) Annual Symposium at Sheraton Suite in Alexandria VA, USA,2008.4.

Invited Lecture (招待講演)

**Shinichi Takeuchi**, Akito Endo, Hiroshi Kitsunai, Shinya Irisawa, Mutsuo Ishikawa and Minoru K. Kurosawa

“Hydrothermally synthesized PZT poly-crystalline film and their application for miniature ultrasound sensors”, 2008 UBM (Ultrasound Biomedical Microscanning) at Pepperdine University in Malibu, Los Angeles, CA U.S.A.2008. 9. 25

#### **Shinichi Takeuchi**

“Development of miniature medical ultrasound probe with hydrothermally synthesized PZT polycrystalline film”, Japan-Taiwan Workshop on Advanced Materials and Devices for Future Medical Engineering Applications”, 2008.9.4. in Tokyo

Shinya Irisawa, Akito Endo, Minoru Kurosawa, **Norimichi Kawashima** and **Shinichi Takeuchi**

“Effect of polling process on hydrothermally synthesized PZT polycrystalline film”, Abstract book of Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2008, 2008.10.31,p.48

Kazuho Yoshimura, **Norimichi Kawashima**, **Shinichi Takeuchi** and Minoru Kurosawa

“Fundamental study of needle type hydrophone with taper shaped titanium wire using hydrothermally synthesized lead zirconate titanate”

Abstract book of Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2008, 2008.10.31,p.70

Yuki Seto, **Norimichi Kawashima**, Minoru Kurosawa and **Shinichi Takeuchi**

“A miniature cavitation sensor with hydrothermally synthesized PZT”

Abstract book of Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2008, 2008.10.31,p.65

#### **雑誌掲載**

---

**竹内真一**、内田武吉

特集 マイクロバブルとそのプロセス 「音響整合層付き4分割150 kHz PZT 圧電セラミック振動子を用いた超音波照射システムによるナノダイヤモンド微粒子の分散性改善に関する研究」、マテリアルインテグレーション、vol. 22, no.06, (2009)

#### **海外出張**

---

(2007年度未掲載分 1件)

2008 AIUM (American Institute of Ultrasound in Medicine) Annual Convention, at San Diego, CA, U.S.A  
2008.3.14-15

37th UIA (Ultrasonic Industry Association) Annual Symposium at Sheraton Suite in Alexandria VA, USA,  
2008.4

2008 UBM (Ultrasound Biomedical Microscanning) at Pepperdine University in Malibu, Los Angeles, CA  
U.S.A.2008. 9. 25

#### **特許申請等**

---

**竹内真一**、瀬戸雄貴、黒沢実、**川島徳道**

「筒型キャビテーションセンサ及びその製造方法」

出願番号：2008-054127 出願人：桐蔭学園 日付:2008年3月4日

## その他

### ○産学協同研究

#### 竹内真一

「水熱合成 PZT を用いた眼科領域用高分解能超音波プローブの研究」

株式会社 トーマコーポレーション

「低強度超音波照射の細胞挙動への影響の研究」

日本シグマックス株式会社

「高出力超音波音場計測とその応用に関する研究」

独立行政法人産業技術総合研究所

## 早川吉則（はやかわ よしのり）教授



出生年 : 1943 年  
在籍 : 1999 年 4 月～  
最終学歴 : 東京工業大学理工学研究科大学院博士課程修了  
学位 : 工学博士  
学位論文 : 放射線励起による LiF のエキソ電子放出に関する研究  
専門分野 : 放射線の医学利用、放射線治療、新型 X 線 CT の開発、癌温熱療法、初等教育の効率化、ラジオ波による温熱療法の改良、水圧圧迫法による超音波乳癌検診法の基礎研究  
前職 : 帝京大学医学部講師 (1976)、筑波大学基礎医学系講師 (陽子線医学利用研究センター研究専従) (1981)  
資格 : 第一種放射線取扱主任者 (国家資格)  
エックス線作業主任者 (国家資格)、  
ガンマ線透過写真撮影作業主任者 (国家資格)、  
医学物理士 (学会資格)  
第2種 M 技術検定試験合格 (学会資格)  
学会 : 日本医学放射線学会、日本医学物理学会、日本超音波医学会、日本生体医工学会、日本数学教育学会、日本エスペラント学会、International Phonetic Association  
社会的活動 : 日本フォスタープラン協会会員として 1988 年以来開発途上国の児童の援助を続けている。1989 年以来世界共通文字と算盤数字を研究開発し、外国語教育と算数教育の効率化と、開発途上国の識字教育効率化のための普及活動を続けている。

## 阿部 憲二 (あべ けんじ) 准教授

---



出生年 : 1964 年  
在籍 : 2002 年 9 月～  
最終学歴 : サンフランシスコ大学教育学部博士課程修了  
学位 : 教育学博士  
学位論文 : Achieving High Oral Proficiency Levels  
専門分野 : 教育問題、環境と教育、教育と政策、第二言語習得論  
前職 : 予備校講師

## 佐藤 敏夫 (さとう としお) 准教授

---



出生年 : 1961 年  
在籍 : 1997 年 12 月～  
最終学歴 : 慶應義塾大学工学部計測工学科  
桐蔭横浜大学大学院工学研究科博士課程制御システム工学専攻  
東京女子医科大学医学部研究生  
学位 : 医学博士、工学博士  
学位論文 : Evaluation of blood access dysfunction based on a wavelet transform analysis of shunt murmurs (医学博士)  
非線形破壊力学に基づいた歯科用低溶陶材の信頼性評価に関する研究 (工学博士)  
専門分野 : 医用生体工学、破壊力学、音響工学、臨床工学  
前職 : ㈱トキメック (現 東京計器) MRD センター 副主事  
資格 : 第2種 ME 技術実力検定試験合格、第1種 ME 技術実力検定試験合格、臨床工学技士免許  
非常勤講師 : 読売理工医療福祉専門学校臨床工学専攻科  
学会 : 日本医工学治療学会 (評議員、編集委員)、日本透析医学会、日本医療機器学会、日本臨床工学技士会、材料技術研究協会  
受賞・表彰 : 科学技術庁から第 51 回注目発明選定証を受賞 (1992)  
2002 年度材料技術研究協会討論会技術賞  
2003 年度材料技術研究協会討論会ゴールドポスター賞  
2008 年度材料技術研究協会討論会ゴールドポスター賞

## 学会・研究会発表

---

近藤修、佐藤敏夫、辻毅一、川島徳道、星野敏久、阿岸鉄三  
「血液音響パラメータの測定による血液浄化施行中の回路内凝血監視システム」  
日本医工学治療学会第 24 回学術大会  
2008 年 4 月 19 日 於幕張メッセ国際会議場

小田川美伯、青野賢大、**佐藤敏夫**、辻毅一、**川島徳道**、古賀大介  
「手術用ドリルを用いた穴あけ加工特性」  
日本医工学治療学会第 24 回学術大会  
2008 年 4 月 19 日 於幕張メッセ国際会議場

石田等、**佐藤敏夫**、辻毅一、**川島徳道**、竹村英生、大須賀敏明、阿岸鉄三  
「呼吸アンモニア連続測定による血液透析中の小分子除去動態把握」  
日本医工学治療学会第 24 回学術大会  
2008 年 4 月 19 日 於幕張メッセ国際会議場

新妻可奈子、駒井鑑、**佐藤敏夫**、辻毅一、**川島徳道**、山根明、飯田良平、森戸光彦、小見勝利、阿岸鉄三  
「嚙下音と嚙下造影画像の同期記録／再生装置を用いた嚙下音発生メカニズムの検証」  
日本医工学治療学会第 24 回学術大会  
2008 年 4 月 19 日 於幕張メッセ国際会議場

村上彩子、**佐藤敏夫**、辻毅一、**川島徳道**、小見勝利、泉ゆかり、星野敏久、赤松眞、阿岸鉄三  
「ウェーブレット変換したシャント音画像の相関係数による定量化」  
日本医工学治療学会第 24 回学術大会  
2008 年 4 月 20 日 於幕張メッセ国際会議場

**佐藤敏夫**、新妻加奈子、駒居鑑、**川島徳道**、山根明、小林馨、小見勝利、阿岸鉄三  
「嚙下造影画像と嚙下音の同期記録再生装置を用いた嚙下障害のスクリーニング検査」  
第 83 回日本医療機器学会大会学術集会  
2008 年 5 月 30 日 於東京国際フォーラム

**佐藤敏夫**、村上彩子、**川島徳道**、泉ゆかり、星野敏久、赤松眞、阿岸鉄三  
「シャント音のウェーブレット変換画像の相関係数を用いたシャント機能経時変化の数値化の試み」  
第 53 回(社)日本透析医学会学術集会  
2008 年 6 月 20 日 於神戸国際会議場

澁谷有美、高木絵美子、泉ゆかり、星野敏久、赤松眞、阿岸鉄三、村上彩子、**佐藤敏夫**  
「バスキュラアクセス血管音の音響学的解析結果と血管造影所見との関連」  
第 53 回(社)日本透析医学会学術集会  
2008 年 6 月 20 日 於神戸国際会議場

**佐藤敏夫**、近藤修、**川島徳道**、星野敏久、阿岸鉄三  
「超音波及び光センサを利用した血液透析中の回路内凝血の早期検出に関する検討」  
第 53 回(社)日本透析医学会学術集会  
2008 年 6 月 20 日 於神戸国際会議場

桂尚樹、磯野裕佳、**佐藤敏夫**、**川島徳道**、宗像佳克、中根紀章  
「ANSYS FLOTRAN を用いたバスキュラアクセスのシャント音に関する時刻歴応答解析」  
平成 20 年度 神奈川県ものづくり技術交流会  
2008 年 10 月 15 日 於神奈川県産業技術センター

**佐藤敏夫**、岩城慎治、**川島徳道**、藤倉久男、小見勝利  
「間伐材打撃音のウェーブレット変換を用いた木材の含水率の新しい推定方法」  
平成 20 年度 神奈川県ものづくり技術交流会  
2008 年 10 月 15 日 於神奈川県産業技術センター

**佐藤敏夫**、高橋亮美、**川島徳道**、近藤修、阿岸鉄三  
「血液透析回路内に発生する凝血の早期監視システム」  
平成 20 年度 神奈川県ものづくり技術交流会  
2008 年 10 月 15 日 於神奈川県産業技術センター

**佐藤敏夫**、新妻可奈子、**川島徳道**、阿岸鉄三、山根明、小見勝利  
「老人介護施設での実施を目的とした嚙下音の時間一周波数分析による嚙下障害のスクリーン検査」  
平成 20 年度 神奈川県ものづくり技術交流会  
2008 年 10 月 15 日 於神奈川県産業技術センター

村上彩子、**佐藤敏夫**、辻毅一、**川島徳道**、澁谷有美、泉ゆかり、星野敏久、赤松眞、阿岸鉄三、小見勝利  
「血液透析におけるシャント機能経時変化の定量化」  
平成 20 年度 神奈川県ものづくり技術交流会  
2008 年 10 月 15 日 於神奈川県産業技術センター

加藤正太、**川島徳道**、**佐藤敏夫**、河野康治、張東鎮、里野剛之、先崎元也、村上敬  
「光造形技術による立体モデルのシュミレーション」  
第 46 回日本人工臓器学会大会  
2008 年 11 月 28 日 於六本木アカデミーヒルズ

高橋亮美、**佐藤敏夫**、**川島徳道**、近藤修、赤松眞、星野敏久、阿岸鉄三  
「超音波を用いた血液回路内凝血の非侵襲的早期検出システムの検討」  
第 46 回日本人工臓器学会大会  
2008 年 11 月 28 日 於六本木アカデミーヒルズ

村上彩子、**佐藤敏夫**、**川島徳道**、澁谷有美、泉ゆかり、星野敏久、赤松眞、阿岸鉄三、  
小見勝利  
「シャント音のウェーブレット変換後の画像比較による経時的なバスキュラーアクセス機能変化の定量化」  
第 46 回日本人工臓器学会大会  
2008 年 11 月 28 日 於六本木アカデミーヒルズ

磯野裕佳、桂尚樹、**佐藤敏夫**、**川島徳道**、阿岸鉄三、宗像佳克、中根紀章  
「擬似血管狭窄モデルを用いたバスキュラーアクセスの血管振動に関する有限要素法解析」  
第 46 回日本人工臓器学会大会  
2008 年 11 月 28 日 於六本木アカデミーヒルズ

新妻加奈子、**佐藤敏夫**、**川島徳道**、山根明、飯田良平、高橋浩二、宇山理紗、小見勝利、  
葛西 昇、阿岸鉄三  
「空嚙下で採取した嚙下音及び嚙下前後の呼吸音の時間一周波数解析による嚙下障害の判定」  
第 46 回日本人工臓器学会大会  
2008 年 11 月 28 日 於六本木アカデミーヒルズ

岩城慎治、古曾部俊之、本橋由香、佐藤敏夫、川島徳道、藤倉久男、小見勝利  
「木材打撃音のウェーブレット変換を用いた新しい木材含水率の推定方法」  
2008年材料技術研究協会討論会 於東京理科大学野田校舎セミナーハウス

## 論文掲載

---

Hitoshi Ishida, **Toshio Satou**, Kiichi Tsuji, **Norimichi Kawashima**, Hideo Takemura, Yosuihiro Kosaki, Seimei Shiratori, Tetsuzo Agishi

“The breath ammonia measurement of the hemodialysis with a QCM-NH<sub>3</sub> sensor”

Bio-Medical Materials and Engineering 18 pp.99-106

2008年

石田等、**佐藤敏夫**、辻毅一、**川島徳道**、竹村英生、小崎康宏、白鳥世明、阿岸鉄三  
「血液透析中における呼気アンモニア連続測定」

医工学治療 20 (1) pp.3-9

2008年

石田等、**佐藤敏夫**、辻毅一、**川島徳道**、竹村英生、小崎康宏、白鳥世明、阿岸鉄三  
「水晶振動子アンモニアガスセンサの開発」

材料技術 26 (1) pp.32-39

2008年

Hitoshi Ishida, **Toshio Sato**, Kiichi Tsuji, **Norimichi Kawashima**, Hideo Takemura  
Yosuihiro Kosaki, Seimei Shiratori, Tetsuzo Agishi

「Measurement of the hemodialysis quantity using a QCM ammonia gas sensor」

桐蔭論叢 第18号 pp.5-14

2008年6月

阿岸鉄三、**佐藤敏夫**

「わが国の慢性透析療法の実況」

日本透析医会雑誌・23号 pp.477-481

2008年9月16日

## 国際学会・シンポジウムでの発表・講演

---

Ayako Murakami, **Toshio Sato**, **Norimichi Kawashima**, Tetsuzo Agishi,

“Early Detection of Vascular Access Dysfunction Based on Wavelet Transform Analysis of Shunt Murmurs”

ASAIO(American Society for Artificial Organs) 54th Annual Conference

2008年6月 於米国サンフランシスコ

Kanako Niizuma, **Toshio Sato**, **Norimichi Kawashima**, Tetsuzo Agishi, Akira Yamane, Katsutoshi Omi

“Screening of Swallowing Disorder by Time-Frequency Analysis of Swallowing Sound at Elderly Care Facilities”

Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2008

2008年10月31日 於桐蔭横浜大学

Yuka Isono, Naoki Katsura, **Toshio Sato**, **Norimichi Kawashima**, Yoshikatsu Munakata, Noriaki Nakane

“Time History Response Analysis about Vascular Access Shunt Murmur Using ANSYS FLOTRAN”

Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2008

2008年10月31日 於桐蔭横浜大学

Ayako Murakami, **Toshio Sato**, **Norimichi Kawashima**, Tetsuzo Agishi, Katstoshi Omi  
“Early detection of vascular access dysfunction based on wavelet transform analysis of shunt murmurs”  
Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2008  
2008年10月31日 於桐蔭横浜大学

Hitoshi Ishida, **Toshio Sato**, Kiichi Tsuji, **Norimichi Kawashima**, Hideo Takemura, Yasuhiro Kosaki  
Seimei Shiratori, Tetsuzo Agishi  
“Examination of hemodialytic treatment efficiency by the expiration ammonia concentration measurement”  
Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2008  
2008年10月31日 於桐蔭横浜大学

### 特許申請等

小見勝利、高崎真二郎、**川島徳道**、**佐藤敏夫**、阿岸鉄三、赤松真  
「シャント状態検知装置」  
出願番号:2008-109035  
出願人:桐蔭学園 中央電子株式会社  
日付:2008年4月18日

### 平井紀光（ひらい としみつ）准教授



出生年 : 1942年  
在籍 : 2002年3月～  
最終学歴 : 東京電機大学工学部  
東京大学大学院医学系研究科医用生体工学講座  
生体機能制御学分野研究生(1991～1999)  
学位 : 工学士  
専門分野 : 医用レーザー、臨床工学、医用安全工学  
(低エネルギーレーザーの臨床的生体作用機序に関する基礎的研究)  
前職 : 片柳学園日本工学院専門学校臨床工学科学科長  
資格 : 第2種電気工事士免許(国家資格)  
第1種・第2種ME技術者(学会資格)  
非常勤講師 : 社会保険横浜看護専門学校看護学科(医療工学)  
東海大学開発工学部医用生体工学学科(医用機器安全管理学)  
東京大学大学院医学系研究科生体工学講座生体機能制御学分野客員研究員  
学会 : 日本生体医工学会、日本公衆衛生学会、日本医療器械学会、日本レーザー医学会、医療マネジメント学会  
社会的活動 : 日本臨床工学技士教育施設協議会会長(1988～1997)  
日本臨床工学技士教育施設協議会教育課程等検討委員  
臨床工学技士国家試験委員(1994～1998)  
(社)東京女子医科大学未来医学研究会理事(1989～2006)、同研究会会員運営委員(2007～)  
日本生体医工学会 CE 教育委員会委員  
第1種・第2種 ME 技術実力検定試験委員



## 学会・研究会発表

---

藤井奈緒子、松本朱加、**平井紀光**

「生体の電氣的能動特性測定法による経穴特定法の開発」

第47回日本生体医工学会大会

2008年5月8日－10日 神戸国際会議場

末吉利佳、**小田川美伯**、辻毅一、**平井紀光**、古賀大介

「整形外科手術用ドリルを用いた加工特性」

第37回日本医療福祉設備学会

2008年11月12日 於東京ビックサイト国際会議場

麻生瑞穂、**竹内真一**、**小田川美伯**、辻毅一、**平井紀光**

「可変式椅子を用いた立ち上がり動作」

第37回日本医療福祉設備学会

2008年11月12日 於東京ビックサイト国際会議場

関口真衣、**小田川美伯**、辻毅一、**平井紀光**、**川島道徳**

「LEDを用いた足ツボ光健康器の効用」

第37回日本医療福祉設備学会

2008年11月12日 於東京ビックサイト国際会議場

横山JP優士、**小田川美伯**、辻毅一、**平井紀光**、**川島道徳**

「階段の歩行時に及ぼす踏み面勾配の影響」

第37回日本医療福祉設備学会

2008年11月12日 於東京ビックサイト国際会議場

**平井紀光**、藤井奈緒子、福長一義、大竹隆、日景清治

「経穴への半導体レーザー照射が経穴と経絡の電気インピーダンス特性に与える影響について」

第29回日本レーザー医学会総会

2008年11月15日、16日 於東京工科大学八王子キャンパス

## その他

---

### ○産学協同研究

川崎市産学共同研究開発プロジェクト補助金による研究

(株)日本システム研究所、日本医科大学武蔵小杉病院、平井紀光(桐蔭横浜大学)

「ケロイド治療評価システムの開発」 2008年7月1日から継続共同研究



出生年 : 1977 年  
在籍 : 2007 年 4 月～  
最終学歴 : 桐蔭横浜大学大学院 工学研究科 材料工学専攻 博士課程修了  
学位 : 博士(工学)  
Ph.D. in Material Science and Engineering  
学位論文 : Application of Active Oxygen Species to Surface Modification of Polymer and Low-temperature Fabrication of Dye-sensitized Solar Cells  
専門分野 : 光化学、電気化学、光電気化学、材料工学、医用材料、多孔質半導体を用いた新規分子認識素子および光電変換素子等の開発  
前職 : Ecole Polytechnique Federale de Lausanne (EPFL, スイス連邦工科大学ローザンヌ) 博士研究員  
留学 : 北カリフォルニア大学(夏季研修奨学生)2001 年  
サンフランシスコ大学(夏季研修奨学生)2002 年  
スイス連邦工科大学 2005 年-2007 年  
学会 : Electrochemical Society、Material Reserch Society、日本電気化学会、日本化学会、色材協会  
受賞・表彰 : 1993 神奈川青少年科学作文コンクール、神奈川県知事賞、2001-2003 材料技術研究協会 技術賞(2001, 2002) ポスター奨励賞(2003)、2005 Scientific American 50 Award、2006 2nd Honda-Fujishima Prize、2006 EPFL Award for excellence

#### 学会・研究会発表

---

竹井靖、古曾部俊之、中島伸江、村上拓郎、川島徳道

「ALA-PDT における2波長同時照射型 LED の PDT 効果」

色材協会

2008 年 9 月 11 日 於名古屋市工業研究所

菅原智子、高根沢聡太、酒井誠弥、村上拓郎、川島徳道

「燃料電池内部を想定したナフィオンフィルムの活性酸素種による酸化反応」

色材協会

2008 年 9 月 11 日 於名古屋市工業研究所

徳岡由一、中村有希、長谷部亜矢、城野哲矢、村上拓郎、川島徳道

「多孔質ディオプサイト微粒子の調製に及ぼす界面活性剤の濃度」

色材協会

2008 年 9 月 11 日 於名古屋市工業研究所

渡部直樹、徳岡由一、村上拓郎、川島徳道

「O/W エマルション中における一重項酸素による合成香料の酸化分解反応」

色材協会

2008 年 9 月 11 日 於名古屋市工業研究所

酒井誠弥、**村上拓郎**、**川島徳道**

「酸化チタン/酸化亜鉛複合電極を用いた色素増感太陽電池の検討」  
色材協会

2008年9月11日 於名古屋市工業研究所

**川島徳道**、**村上拓郎**、**中島伸江**

「光造形を用いた手術シミュレーション」

平成20年度 神奈川県ものづくり技術交流会

2008年10月17日 於神奈川県産業技術センター

酒井誠弥、**村上拓郎**、**川島徳道**

「ZnO/TiO<sub>2</sub> 複合電極を用いた色素増感型太陽電池の高効率化」

電気化学会 76 回大会

2009年3月29 - 31日 於京都大学吉田キャンパス

菅原智子、高根沢聡太、**村上拓郎**、**川島徳道**

「PEFC 内 Nafion® フィルムの状態予測を目的とした酸化反応」

電気化学会 76 回大会

2009年3月29 - 31日 於京都大学吉田キャンパス

## 論文掲載

---

**Toshiyuki Kosobe**, Xuepeng Qiu, Yuki Ohno, **Nobue Nakajima**, **Takurou N. Murakami**,

**Norimichi Kawashima**

"Effect of LED lamp on PDT efficacy"

Material technology 26(3) pp.176-181

2008年

Seigo Ito, **Takurou N. Murakami**, Pascal Comte, Paul Liska, Carole Grätzel, Md. Khaja Nazeeruddin, and Michael Grätzel

Fabrication of thin film dye sensitized solar cells with solar to electric power conversion efficiency over 10%

Thin Solid Films, 516, 4613-4619

2008年

**Takurou N. Murakami**, Michael Grätzel

Counter Electrodes for DSC: Application of Functional Materials as Catalysts

Inorganica Chimica Acta, 361, 572-580

2008年

Z. Zhang, P. Chen, **T. N. Murakami**, S. M. Zakeeruddin, M. Grätzel

The 2,2,6,6-Tetramethyl-1-piperidinyloxy Radical: An Efficient, Iodine-Free Redox Mediator for Dye-Sensitized Solar Cells

Advanced Functional Materials, 18, 341-346

2008年

## 講演会・研修会講師

---

### 村上拓郎

「生命と環境の研究に取り組んで」

神奈川県立津久井高校講演会，神奈川県（依頼講演）

2008年

### 村上拓郎

「医療材料の表面制御」

(財)木原記念横浜生命科学振興財団主催 第二回バイオビジネス・パートナーリング，サンエールさがみはら（基調講演）

2008年

### 村上拓郎

「カーボン材料を対極に用いる高効率色素増感型太陽電池」

群馬大学 桐生キャンパス（依頼講演）

2008年

## 国際学会・シンポジウムでの発表・講演

---

### Norimichi Kawashima, Takuro N. Murakami, Nobue Nakajima

“3D plastic replica for surgery planning with stereolithography”

Hannover Messe, Germany

2008年5月24日

Tomoko Sugawara, Naoki Kusumoto, Masaki Saito, **Nobue Nakajima, Takuro N. Murakami**, Satoshi Shigehara, Takeshi Tsunekuni, **Norimichi Kawashima**

“Preparation of Epithese using stereo-lithography”

ASIO's 54th Annual Conference

2008年6月20日 於 San Francisco, USA

### Takuro N. Murakami, Kenjiro Teshima, Tsutomu Miyasaka, Norimichi Kawashima

Charg-discharge Characteristics of Dye-sensitized Photocapacitor Based on Two- and Three-electrodes Systems

Japan-Taiwan Work shop on Advanced Materials and Devices for Future Medical Engineering

Tokyo, Japan,

2008年

## その他

---

### ○表彰・受賞

酒井誠弥、**村上拓郎**、川島徳道

「優秀ポスター賞」

色材協会

2008年9月11日 於名古屋市工業研究所

## 本橋由香（もとはし ゆか）助手

---



出生年 : 1982 年  
在籍 : 2009 年 4 月～  
最終学歴 : 桐蔭横浜大学大学院工学研究科医用工学専攻修士課程  
修了  
学位 : 工学修士  
学位論文 : 血液透析患者におけるシャント音の時間-周波数解析に  
よるバスキュラーアクセスの機能評価  
専門分野 : 生体計測、医用統計学、臨床工学  
前職 : 桐蔭横浜大学職員  
資格 : 第 2 種 ME 技術実力検定試験合格 (2002)  
学会 : 日本透析医学会

### 学会・研究会発表

---

岩城慎治、古曾部俊之、本橋由香、佐藤敏夫、川島徳道、藤倉久男、小見勝利  
「木材打撃音のウェーブレット変換を用いた新しい木材含水率の推定方法」  
2008 年材料技術研究協会討論会  
2008 年

## 工学部 (Faculty of Engineering)

### 電子情報工学科 (Department of Electronics and Information Engineering)

#### 倉持内武 (くらもち ないむ) 教授

---



出生年 : 1941 年  
在籍 : 1992 年 4 月～  
最終学歴 : 東京工業大学大学院理工学研究科修士課程  
学位 : 工学博士  
学位論文 : Rb 原子発振器用ポンピング光源の分光的特性に関する研究  
専門分野 : 精密周波数制御、電磁波計測  
前職 : 東京工業大学精密工学研究所助手  
非常勤講師 : 東京工業大学(1993～1995)  
学会 : 電気学会、電子情報通信学会、応用物理学会、日本時計学会、日本工学教育協会、IEEE  
社会的活動 : 日本学術会議URSI分科会電磁波計測小委員会委員、電気学会 精密周波数発生回路の新技术調査専門委員会委員

#### 著書出版

---

安居院猛、吉村和昭、倉持内武  
エッセンシャル電気回路(第2刷)  
森北出版(株) 全169頁  
2009年3月10日

#### 論文掲載

---

大沼靖治、吉村和昭、倉持内武  
「電波時計を用いた長波標準電波JJYのタイムコードの遅延時間に関する検討」  
桐蔭論叢第18号 pp.85-91  
2008年6月15日

#### 杉本恒美 (すぎもと つねよし) 教授

---



出生年 : 1964 年  
在籍 : 1993 年 4 月～  
最終学歴 : 東京工業大学大学院博士課程  
学位 : 工学博士  
学位論文 : 放射圧を用いた生体組織の硬さ計測に関する基礎的研究  
専門分野 : 超音波工学、音響工学、生体医用工学  
資格 : 第一種情報処理技術者  
学会 : 日本音響学会、日本超音波医学会、日本ME学会、日本文化財調査学会、IEEE  
受賞・表彰 : 日本超音波医学会「超音波工学 Fellow」  
(1999-2004,2005-2009,2009-2013)

## 学会・研究会発表

---

阿部冬真、**杉本恒美**

「SLDV を用いた極浅層地中探査法の研究」  
日本文化財探査学会第 11 回大会発表要旨集, PP5-6  
2008 年 6 月

瀬尾邦彦、白川貴志、**杉本恒美**

「超音波を使用した冠水土壤中での極浅層地中探査」  
日本文化財探査学会第 11 回大会発表要旨集, PP3-4  
2008 年 6 月

川崎拓、**杉本恒美**

「遺跡・遺構の音波探査のための地中ソーナの研究 -パルス圧縮を用いた映像分解能の改善-」  
日本文化財探査学会第 11 回大会発表要旨集, PP1-2  
2008 年 6 月

川崎拓、**杉本恒美**

「遺跡・遺構のための SH 波を用いた地中映像化の研究 -パルス圧縮における瞬時周波数の減衰を考慮した検討-」  
アコースティック・イメージング研究会, 信学技報 Vol.108, No436, PP7-12  
2009 年 2 月

阿部冬真、**杉本恒美**

「SLDV を用いた極浅層地中映像化に関する研究 -空中放射音波と弾性波振動を用いた場合の検討-」  
アコースティック・イメージング研究会, 信学技報 Vol.108, No436, PP13-16  
2009 年 2 月

瀬尾邦彦、白川貴志、**杉本恒美**

「音波を用いた極浅層地中探査 -超音波を用いた冠水土壤中の映像化の検討-」  
日本音響学会春季研究発表会講演論文集 1-1-7, p2, pp1361-1362  
2009 年 3 月

川崎拓、**杉本恒美**

「遺跡・遺構のための横波を用いた超浅層地中映像化の研究 -チャープ波における瞬時周波数の減衰を考慮した検討-」  
日本音響学会春季研究発表会講演論文集,1-1-8, p2,pp1363-1366  
2009 年 3 月

阿部冬真、片桐由太郎、**杉本恒美**

「SLDV を用いた極浅層地中映像化に関する研究(II)」  
日本音響学会春季研究発表会講演論文集,1-1-9, p2, pp1367-1368  
2009 年 3 月

小川和樹、外園良輔、**片山富美代**、**杉本恒美**

「コトコフ音解析における循環機能検査、-疲労によるコトコフ音波形の変化と脈圧値の検討-」  
日本音響学会春季研究発表会  
2009 年 3 月 19 日 於東京工業大学

## 論文掲載

---

Kentaro Nakamura, Hiroyasu Ogura and **Tsuneyoshi Sugimoto**,  
"Direct Visualization of High Intensity Focused Ultrasonic Field Using LEDs and PZT Elements",  
Acoustical Imaging Vol.29, PP309-316, (2008.10)

Hiraku Kawasaki, **Tsuneyoshi Sugimoto**  
"UNDERGROUND IMAGING USING SHEAR WAVES Resolution improvement using pulse-compression processing", Acoustical Imaging Vol.29 pp.339-345, (2008.10)

川崎拓、**杉本恒美**

「遺跡・遺構のための音波探査のための地中ソナーの研究 -超磁歪振動子を用いた映像分解能の改善-」

文化財と探査 Vol.10, No.1 PP33-39

2009年1月

## 講演会・研修会講師

---

**杉本恒美**

「音波による超浅層地中映像化技術-遺跡探査と地雷探査への応用-」

日本超音波医学会第81回学術集会 特別講演

2008年5月23日 於神戸国際展示場

**Tsuneyoshi Sugimoto**

"Shallow Underground Imaging Using Shear Waves"

DARPA Underground Technologies Workshop

2008年9月9日 Washington DC

## 国際学会・シンポジウムでの発表・講演

---

Hiraku Kawasaki, **Tsuneyoshi Sugimoto**

"Underground imaging using shear waves & Resolution improvement using pulse compression and dynamic focus"

Acoustics'08 Paris

2008年7月1日 Palais des Congres in Paris

Kunihiko Seo, Takashi Shirakawa, **Tsuneyoshi Sugimoto**

"Ultrasonic exploration at extreme shallow underground in submerged soil"

Acoustics'08 Paris

2008年7月4日 Palais des Congres in Paris

Toma Abe, **Tsuneyoshi Sugimoto**

"Study on the extreme shallow underground imaging using SLDV"

Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2008(TUBME)

2008年10月31日 於桐蔭横浜大学交流会館

Hiraku Kawasaki, **Tsuneyoshi Sugimoto**

"Underground sonar using shear waves -Resolution improvement using pulse compression"

Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2008(TUBME)

2008年10月31日 於桐蔭横浜大学交流会館



Kunihiko Seo, Takashi Shirakawa, **Tsuneyoshi Sugimoto**

“Study on the ultrasonic imaging at the extreme shallow underground in submerged soil”

Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2008(TUBME)

2008年10月31日 於桐蔭横浜大学交流会館

**Tsuneyoshi Sugimoto**, Hiraku Kawasaki

“Resolution Improvement of Shallow Underground Imaging using Super -Magnetstricton Vibrator and Pulse Compression Method-”

IEEE2008 International Ultrasonic Symposium

2008年11月4日 Beijing International Conference Center

Toma Abe, **Tsuneyoshi Sugimoto**

“Study on the extreme shallow underground imaging using SLDV”

The 29th symposium on ultrasonic electronics(USE2008)

2008年11月12日 於仙台市シルバーセンター

Hiraku Kawasaki, **Tsuneyoshi Sugimoto**

“Resolution improvement of underground image using pulse compression”

The 29th symposium on ultrasonic electronics(USE2008)

2008年11月12日 於仙台市シルバーセンター

Kunihiko Seo, Takashi Shirakawa, **Tsuneyoshi Sugimoto**

“Study on the ultrasonic imaging at the extreme shallow underground in submerged soil”

The 29th symposium on ultrasonic electronics(USE2008)

2008年11月12日 於仙台市シルバーセンター

## 新聞記事掲載

---

検査機器ニュース (2009年2月20日) 5面

展示会だより(テクニカルショウ ヨコハマ)

テクニカルショウ ヨコハマ 2009 における本学工学部電子情報工学科杉本研究室の展示内容の紹介  
(地中探査の映像化研究)

## 海外出張

---

2008年6月28日—7月10日

Acoustics 08 Paris, PMMH lab(France), Southampton Univ. ISVR(UK)

2008年9月8日—13日

Underground Technologies Workshop (DARPA, Washington DC)

2008年11月1日—5日

IEEE UFFC2008 (Beijing International Conference Center, Beijing)

## その他

---

### ○助成金・補助金等

平成20年度 科学研究費基盤研究B

「超磁歪振動子を用いた浅層地中探査映像の分解能改善」(代表研究者)

平成20年度 科学研究費基盤研究C

「コトコフ音の波形分析による新たな健康管理指標の検討」(分担研究者)

## ○その他

「春季音響学会 座長(アコースティックイメージング)」

2009年3月17日

## 須藤 昭一 (すどう しょういち) 教授

---



出生年 : 1952年  
在籍 : 2005年9月～  
最終学歴 : 金沢大学工学部電子工学科  
学位 : 工学博士  
学位論文 : Studies on the Vapor-Phase Axial Deposition Method for Optical Fiber Fabrication (東京大学 1982年)  
専門分野 : 光ファイバ、IT、医用センサ、脳科学  
前職 : NTT マイクロシステムインテグレーション研究所 所長、NTT エレクトロニクス株式会社技師長  
留学 : Stanford University (米国; 1986～1987)  
学会 : IEEE、電子情報通信学会、日本医療情報学会  
社会的活動 : 通商産業省企画室調査委員会委員(1989)  
IPR'90 Program Committee(1990)  
OEC'92 Program Committee(1992)  
CLEO'94-'96 Program Committee(1994～1996)  
IOOC'95 Program Committee(1995)  
CLEO/PR'95 Program Committee(1995)  
電子情報通信学会英文論文誌編集委員長(1997～1998)  
CLEO'98 Program Committee(1998)  
電子情報通信学会東京支部評議委員(1999～2001)  
IEEE/LEOS Vice President(1999～2002)  
放送大学講師(1999～2002)  
横浜市立大学医学部客員教授(2003～)  
文部科学省革新技术活性化委員会委員(2003)  
電子情報通信学会編集理事(2003～2005)  
受賞・表彰 : (社)電子通信学会学術奨励賞(1979)  
(社)電子情報通信学会 論文賞(1981)  
(社)電子情報通信学会 論文賞(1995)  
(財)光産業技術振興協会 第13回桜井健二郎氏記念賞(1997)  
米国 IEEE フェロー賞(1999)  
(社)電子情報通信学会業績賞(2001)  
文部科学大臣賞(2002)

## 著書出版

---

須藤昭一、横浜至、山田誠

「光ファイバ・光ファイバ増幅器」

須藤の分担執筆:序、第1章、第2章、第6章

共立出版

2008年7月

**S.Sudo** (編著)

New Photonic Technology for Information Age : The Dream of Ubiquitous Services

Artech House

2008.10

## その他

### ○産学協同研究

須藤昭一

「脳血流とストレスとの関係についての調査・研究」

NTT マイクロシステムインテグレーション

## 高橋宗雄 (たかはし むねお) 教授



出生年 : 1944年

在籍 : 1991年10月～

最終学歴 : 千葉大学工学部電気工学科

学位 : 工学博士

学位論文 : ソフトウェアの信頼性評価法に関する研究

専門分野 : ソフトウェア工学、情報システム学、コンピュータ科学

前職 : 日本電信電話(株)ソフトウェア研究所主幹研究員

非常勤講師 : 鳥取大学工学部 (1995)、徳島大学工学部 (1997)

学会 : 電子情報通信学会、情報処理学会、プロジェクトマネジメント学会、日本品質管理学会、電子情報通信学会ソサイエティ論文誌査読委員 (1998～)、日本品質管理学会評議員 (1996～1998)、プロジェクトマネジメント学会理事 (2003～2007)

社会的活動 : ISO / IEC JTC1 / SC7 専門委員会委員及びWG23 小委員会主査 (2003～)、(独) 情報処理推進機構ソフトウェアエンジニアリングセンター見積り手法部会委員 (2004～)

受賞・表彰 : 情報処理学会論文賞 (1984)、日経品質管理文献賞 (1991)、精密測定技術振興財団品質工学賞 (論文賞) (1997)、ISO / IEC JTC1 / SC7 Achievement Award (1999)、情報処理学会標準化貢献賞 (2000)、プロジェクトマネジメント学会論文賞 (2006)

## 学会・研究会発表

柳下慶輔、山口大輔、片山富美代、高橋宗雄

「授業支援システムのリッチクライアント化と評価」

2008年度人工知能学会全国大会(第22回)

2008年6月11日 於ときわ市民ホール／勤労者福祉総合センター

山口大輔、大塚恭平、片山富美代、高橋宗雄

「マルチエージェント技術を用いたPSP演習支援システム」

第24回ファジィシステムシンポジウム

2008年9月4日 於阪南大学 本キャンパス

**Daisuke Yamaguchi, Fumiyo Katayama, Muneo Takahashi**, Masataka Arai, Kenneth James Mackin  
“The medical diagnostic support system using extended Neural Network and Multiagent”  
The 4th International Workshop on Computational Intelligence and Applications 2008  
December 11, 2008, Hiroshima University, Hiroshima JAPAN

**Daisuke Yamaguchi**, Kyouhei Otsuka, **Fumiyo Katayama, Muneo Takahashi**  
“The PSP Practice Support System Using Multiagent Techniques and Manipulation Analysis Data”  
14th International Conference on Artificial Life and Robotics  
February 5, 2009, B-Con Plaza, Beppu, Oita, JAPAN

Takao Shimomura, Kenji Ikeda, **Muneo Takahashi**  
“Software Visualization with Attachable Display Class” , Proc. of the IASTED international conference  
on Software Engineering(SE2009), pp.37-42, February 17, 2009, Innsbruck, AUSTRIA

### 論文掲載

---

**山口大輔、佐野元昭、片山富美代、高橋宗雄**

「インド IT によるソフトウェア開発教育の意義と課題」

桐蔭論叢 第 18 号 pp.111-117

2008 年 6 月 15 日

**Daisuke Yamaguchi, Fumiyo Katayama, Muneo Takahashi**, Masataka Arai, Kenneth James Mackin  
“The medical diagnostic support system using extended Rough Neural Network and Multiagent”  
Artificial Life and Robotics, Volume13, Number 1, 2008 pp.184-187  
December 15, 2008

### その他

---

#### ○表彰・受賞

**Daisuke Yamaguchi, Fumiyo Katayama, Muneo Takahashi**, Masataka Arai, Kenneth James Mackin  
Incentive Award

IEEE SMC HIROSHIMA CHAPTER

December 11, 2008, Library Hall, Central Library, Hiroshima University, Higashi-Hiroshima Campus



出生年 : 1969 年  
在籍 : 2002 年 4 月～  
最終学歴 : 東京農業大学大学院農学研究科農学専攻博士後期課程  
修了  
学位 : 農学博士、造園学修士  
学位論文 : 緑化用植物としての *Sedum* の生育特性の解明に関する研究  
専門分野 : 造園学、都市緑化、環境植栽学  
前職 : 東京農業大学地域環境科学部造園科学科助手  
学会 : 日本造園学会、日本緑化工学会、日本芝草学会、日本生理人類学会、人間植物関係学会  
社会的活動 : 国際多肉植物協会日本支部(ISIJ)総合学術委員、NPO 法人日本多肉植物の会顧問、道路緑化保全協会編集委員会幹事、農林水産省種苗特性分類調査委託事業(クラスラ)作成委員会委員、(財)日本公園緑地協会緑・花文化の知識認定試験問題作成委員、愛知万博における壁面緑化実験計画・調査に関する検討委員会委員、薄層緑化技術向上協会技術顧問、日本造園学会代議員、同論文集委員会委員、同ランドスケープ技術研究委員会幹事、同造園 CPD 推進委員会委員・同プログラム認定委員会副幹事、日本芝草学会学術担当理事、同編集委員会委員、(社)日本インドア・グリーン協会活性化検討委員会委員  
受賞・表彰 : 大日本農会賞(1992 年 3 月)  
日本造園学会賞・研究奨励賞(2003 年 5 月)  
道路緑化保全協会菊池奨励賞(2008 年 5 月)

---

## 学会・研究会発表

### 飯島健太郎

公園緑地内における園芸作業活動がもたらす高齢者の身体機能の維持向上の可能性  
公園緑地管理財団、第 13 回技術研究発表会 pp.1-4  
2008 年

### 飯島健太郎

セダムの生理生態に基づく都市構造物への緑化技術  
道路緑化保全協会/第 28 回道路緑化技術発表会 pp.4-5  
2008 年

---

## 論文掲載

Momoko YOSHIZAWA, **Shiro WAKUI, Kentaro IJIMA**

Study on the Rehabilitation Effects of Horticultural Therapy on Finger Motion in Elderly Clients  
桐蔭論叢 18 号、pp.19-25  
2008

Sawako UMEHARA, **Shiro WAKUI, Kentaro IJIMA**

Research on Fertilization Effects on *Sedum mexicanum*  
桐蔭論叢 18 号、pp.27-31  
2008

## 講演会・研修会講師

---

### 飯島健太郎

拡大するグラウンドカバープランツの緑化用途

日本芝草学会 2008 年度春季大会グラウンドカバープランツ緑化部会研究集会

### 飯島健太郎

園芸療法の理論と演習

雇用能力開発機構、資格講座講義／訪問介護員要請講座(委託・緑成会緑の郷)

## 雑誌掲載

---

### 飯島健太郎

「緑と健康」に関する研究とその動向

日本緑化工学会誌 33(3)、pp.441-444

2008 年

高橋輝昌、飯島健太郎、内田均

ランドスケープ研究の動向

造園材料・施工および管理ランドスケープ研究 72(1)、pp.21-34

2008 年

### 飯島健太郎

グラウンドカバープランツ緑化研究の動向と展望

芝草研究 36(2)、pp.83-88

2008 年

### 飯島健太郎

環境改善型予防医学にアプローチする桐蔭横浜大学・環境デザイン系研究室

公園緑地 69(3)、pp.46-47

2008 年

### 飯島健太郎

薄層屋上緑化にみるグラウンドカバープランツ

芝草研究 37(1)、pp.1-6

2008 年

### 飯島健太郎

拡大するグラウンドカバープランツの緑化用途

芝草研究 37(1)、pp.49-52

2008 年

### 飯島健太郎

公園緑地内における園芸作業活動がもたらす高齢者の身体機能の維持向上の可能性

公園管理研究 No.2、pp.89-96

2008 年

### 飯島健太郎

屋上緑地にみるグラウンドカバープランツ

芝草研究 37(2)、pp.83-90

2008 年

## 飯島健太郎

薄層基盤緑化をめぐる課題と展望

芝草研究 37(2)、pp.134-138

2008 年

## 海外出張

### 飯島健太郎

ドイツ南西部の環境緑化視察

カールスルーエ、シュツットガルト、ミュンヘンの環境緑化視察、シュツットガルト造園墳墓森林局長へのヒアリング

2009 年 3 月

## その他

### ○表彰・受賞

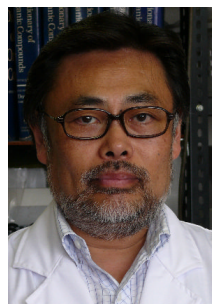
#### 飯島健太郎

道路緑化保全協会 第 6 回菊池奨励賞

受賞業績名:「多肉植物セダムを活用した都市構造物への緑化」

2008 年 5 月 29 日

## 齋藤 潔 (さいとう きよし) 准教授



- 出生年 : 1956 年  
在籍 : 1990 年 3 月～  
最終学歴 : 筑波大学大学院博士課程  
学位 : 理学博士、学術修士(環境)  
学位論文 : Synthesis and Applications of Hemin Copolymer as Polymer Reagents  
専門分野 : 有機化学、高分子化学、機能性高分子化学、環境科学  
前職 : 通産省工業技術院製品科学研究所博士研究員(非常勤)  
資格 : (社)ネイチャーゲーム協会初級指導員  
学会 : 日本化学会、日本化学会生体機能関連化学部会、有機合成化学協会、高分子学会、民族自然史研究会、日本内分泌攪乱化学物質学会、日本環境教育学会、植物化学調節学会、こども環境学会  
社会的活動 : 文部科学省専門教育課サイエンス・ボランティア登録、(社)ネイチャーゲーム協会初級指導員、日本化学会化学教育協議会化学普及小委員会委員、日本化学会夢・わくわく化学展 2001 実行委員、日本化学会化学教育協議会 DVD 作成・メディア対応委員会委員、日本化学会化学教育協議会夢化学委員会委員、普及交流委員会委員、実験体験 TG 主査  
受賞・表彰 : 松籟科学技術振興財団研究助成(1996)、日本環境教育学会浦野環境教育奨励金(2000)、第9回コカ・コーラ環境教育賞奨励賞(2002)

## 学会・研究会発表

---

朝比奈健太、齋藤潔

「ポリアニリン / 酸素 / 水系における活性酸素種とシクロヘキサノンの酸化反応挙動」

日本化学会第 88 春季年会、1327

2008年 於東京

赤池直樹、高尾和法、堀川慶次郎、石田崇、齋藤潔

「活性酸素の連続発生とその効率化 I」

日本化学会第 88 春季年会

2008年 於東京

赤池直樹、辰巳成文、富田洋介、松澤耕平、山田優樹、齋藤潔

「有機分子の環境動態に着目した新しい環境保全技術の開発」

神奈川県ものづくり技術交流会

2008年 於神奈川

手塚朋洋、飯島健太郎、齋藤潔

「メキシコマンネングサ中のカルボン酸産生量の定量による生育状態の診断 2」

日本化学会第 88 春季年会

2008年 於東京

手塚朋洋、富田洋介、飯島健太郎、齋藤潔

「メキシコマンネングサ中のカルボン酸産生量の定量による生育状態の診断3」

植物化学調節学会第 43 回大会研究発表記録集、57

2008年 於筑波

赤池直樹、堀川慶次郎、齋藤潔

「活性酸素の連続発生とその効率化 II」

第 17 回ポリマー材料フォーラム、89

2008年 於広島

## 講演会・研修会講師

---

### ○新技術関連

「フェノール系地中残留有害物質の分解処理」

静岡県工業技術研究所食品環境科、技術指導

### ○化学普及活動

「わくわくじっけんきょうしつ / かみオムツでエネルギー」

支援外

2008年7月1日 於町田市、南成瀬小学校、子供134人、電気化学工業の見学も行った。

「わくわくじっけんきょうしつ / 冷却パック」

科学技術振興機構 平成20年度 地域科学技術理解増進活動推進事業「地域活動支援」

2008年8月18日 於杉並区、上水保育園、保育士5人

「カレーのこなや、ムラサキのやさいジュースでいろのかわるかみ？—みぢかなみずのチェックにつかおう—」

夢化学21！委員会、夏休みこども化学実験ショー

2008年8月22、23、24日 於日本科学未来館、子供695人



「わくわくじっけんきょうしつ / 冷却パック」

科学技術振興機構 平成 20 年度 地域科学技術理解増進活動推進事業「地域活動支援」  
2008 年 8 月 25 日 於杉並区、上水保育園、子供 38 人

「子供達と楽しむための理科実験」、「わくわくじっけんきょうしつ / かみオムツでエネルギー」

科学技術振興機構 平成 20 年度 地域科学技術理解増進活動推進事業「地域活動支援」  
2008 年 8 月 26 日 於町田市 南第三小学校、学童保育指導員、青少年委員 8 人

「わくわくじっけんきょうしつ / かみオムツでエネルギー」

科学技術振興機構 平成 20 年度 地域科学技術理解増進活動推進事業「地域活動支援」  
2008 年 8 月 26 日 於町田市 南第三小学校、子供 15 人

「子供達と楽しむための理科実験」、「わくわくじっけんきょうしつ / かみオムツでエネルギー」

科学技術振興機構 平成 20 年度 地域科学技術理解増進活動推進事業「地域活動支援」  
2008 年 8 月 27 日 於西日暮里ふれあい館(午前)、東日暮里ふれあい館(午後)、学童保育指導員、保  
育士専門学校学生 計 10 人

「わくわくじっけんきょうしつ / かみオムツでエネルギー」

科学技術振興機構 平成 20 年度 地域科学技術理解増進活動推進事業「地域活動支援」  
2008 年 8 月 27 日 於西日暮里ふれあい館(午前)、東日暮里ふれあい館(午後)、子供 89 人

「子供達と楽しむための理科実験」、「わくわくじっけんきょうしつ / かみオムツでエネルギー」、「マロー  
ブルーカップケーキ」

科学技術振興機構 平成 20 年度 地域科学技術理解増進活動推進事業「地域活動支援」  
2008 年 9 月 11 日 於町田市学童保育指導員、31 人

「子供達と楽しむための理科実験」、「塩とスライムの実験」

科学技術振興機構 平成 20 年度 地域科学技術理解増進活動推進事業「地域活動支援」  
2008 年 10 月 18 日 於荒川区 道灌山学園、保育士、保育士専門学校生、5,6 人

「塩とスライムの実験」

科学技術振興機構 平成 20 年度 地域科学技術理解増進活動推進事業「地域活動支援」  
2008 年 10 月 18 日 於荒川区 道灌山学園、子供 60 人

「子供達と楽しむための理科実験」、「塩とスライムの実験」

科学技術振興機構 平成 20 年度 地域科学技術理解増進活動推進事業「地域活動支援」  
2008 年 12 月 22 日 於横浜市京急幼稚園、保育士、父母、5,6 人

「塩とスライムの実験」

科学技術振興機構 平成 20 年度 地域科学技術理解増進活動推進事業「地域活動支援」  
2008 年 12 月 22 日 於横浜市京急幼稚園、園児 50 人

「わくわくじっけんきょうしつ / かみオムツでエネルギー」

科学技術振興機構 平成 20 年度 地域科学技術理解増進活動推進事業「地域活動支援」  
2008 年 12 月 25 日 於町田市子どもセンター つるっこ、子供 50 人

## 国際学会・シンポジウムでの発表・講演

---

Kenta Asahina, Naoki Akaike, Tomohiro Teduka, and **Kiyoshi Saito**

“Highly efficient generation of superoxide and application to sterilization using polyaniline / oxygen system”

Toin international Symposium on Biomedical Engineering 2008, 90, Kanagawa, Japan.

## その他

---

### ○助成金・補助金等

三菱電機(株)、委任経理金「活性酸素発生システムの実用、応用化研究」

科学技術振興機構 平成 20 年度 地域科学技術理解増進活動推進事業「地域活動支援」

## 佐野元昭(さのもとあき) 准教授

---



出生年 : 1959 年  
在籍 : 1999 年 4 月～  
最終学歴 : 東京工業大学大学院理工学研究科物理学専攻博士後期課程  
学位 : 理学博士  
学位論文 : 光複屈折による六方晶 ABX<sub>3</sub>型反強磁性体の相転移の研究  
専門分野 : 信号処理、画像処理、コンピュータグラフィックス  
前職 : 東京工業大学大学院総合理工学研究科助手  
学会 : 日本物理学会、応用物理学会、電気学会  
受賞・表彰 : 電気学会論文発表賞(1992)

## 論文掲載

---

### 山口大輔、佐野元昭、片山富美代、高橋宗雄

「インド IT によるソフトウェア開発教育の意義と課題」

桐蔭論叢 第 18 号 pp.111-117

2008 年 6 月 15 日

## その他

---

### ○助成金・補助金等

独立行政法人 科学技術振興機構(JST)

地域イノベーション創出総合支援事業 平成 21 年度シーズ発掘試験研究補助金

04-185 「植物の形状から健康状態を診るカメラの開発」

## 森 永 茂 生 (もりなが しげお) 准教授

---



出生年 : 1956 年  
在籍 : 1989 年 4 月～  
最終学歴 : 東京都立大学大学院博士課程  
学位 : 理学博士  
学位論文 : A Study of Insoluble Organic Matter (Kerogen) in Recent Sediments by Chemical Degradation - Gas Chromatography/Mass Spectrometry  
専門分野 : 環境化学、有機地球化学、分析化学  
前職 : 桐蔭学園工業高等専門学校講師  
学会 : 日本化学会、日本地球化学会、日本有機地球化学会、日本陸水学会、日本腐植物質学会、日本環境化学会、日本水環境学会  
受賞・表彰 : とうきゅう環境浄化財団 研究助成 A 類 No.177 (1994-1996)

### 学会・研究会発表

---

羽田健一郎、岸田剛、西村誠司、齋藤善嵩、奥野英一、**森永茂生**  
金属酸化物を触媒とした過酸化水素と有機物との反応挙動  
神奈川県ものづくり技術交流会  
2008 年 10 月

羽田健一郎、岸田剛、西村誠司、**森永茂生**  
金属酸化物を用いた超音波照射による過酸化水素と有機物の反応挙動  
日本化学会第 89 春季年会  
2009 年 3 月

## 吉 田 清 範 (よしだ きよのり) 准教授

---



出生年 : 1949 年  
在籍 : 1989 年 4 月～  
最終学歴 : 東京大学大学院修士課程  
学位 : 工学博士  
学位論文 : 初等的図形の交差判定法—計算量及び計算精度の立場から—  
専門分野 : 量子光エレクトロニクス  
前職 : 山梨大学助手  
学会 : 応用物理学会

## 吉村和昭(よしむら かずあき) 准教授

---



出生年 : 1947年  
在籍 : 1988年4月～  
最終学歴 : 上越教育大学大学院学校教育研究科修士課程教科・領域教育専攻修了  
東京商船大学大学院商船学研究科博士後期課程海洋情報システム工学専攻修了  
学位 : 教育学修士、博士(工学)  
学位論文 : 工業高等専門学校へのリモートセンシング入門実験の導入に関する研究(修士)  
長波電波時計の特性解析に関する研究(博士)  
専門分野 : 無線通信工学、海上無線工学、電子航法工学、衛星測位工学、電波通信法規  
前職 : 桐蔭学園工業高等専門学校電気工学科助教授  
資格 : 第1級陸上無線技術士、第1級総合無線通信士、第1級海上無線通信士、航空無線通信士、第1級陸上特殊無線技士、第1級海上特殊無線技士、第1級アマチュア無線技士、船舶局無線従事者証明書  
非常勤講師 : 国土舘大学理工学部電子情報学系(通信工学)  
学会 : 電気学会、日本航海学会、応用物理学会、日本産業技術教育学会、日本大気電気学会、映像情報メディア学会、日本教育工学協会  
社会的活動 : モールス電信技能認定試験員、桐蔭工学会幹事、横浜市アマチュア無線非常通信協力会青葉支部会員、総務省認定無線従事者養成課程講師(無線工学、電波法規)

### 著書出版

---

安居院猛、**吉村和昭**、倉持内武  
エッセンシャル電気回路(第2刷)  
森北出版(株) 全169頁  
2009年3月10日

### 学会・研究会発表

---

#### 吉村和昭

「電波時計で復調したタイムコード信号の遅延時間の検討」  
日本産業技術教育学会第51回全国大会講演要旨集、2Ca1、p.86  
2008年8月24日 於:宮城教育大学

### 論文掲載

---

#### 大沼靖治、**吉村和昭**、倉持内武

「電波時計を用いた長波標準電波JJYのタイムコードの遅延時間に関する検討」  
桐蔭論叢第18号、p.85-91  
2008年6月15日

## 講演会・研修会講師

---

### 吉村和昭

総務省認定無線従事者養成課程講師(講習会番号 A20633)、受講者 59 名  
2008 年 6 月 8 日、15 日(日曜日実施)於: 桐蔭横浜大学

## その他

---

### 吉村和昭

「無線資格は人生の友」

CHOFU Network、Vol.21-1、p.54-55、電気通信大学目黒会

2008 年 4 月 21 日

### 吉村和昭

「社会人学生顛末記」

短信第 22 号、p.79-93、短信の会

2008 年 10 月 1 日

## 山口大輔 (やまぐち だいすけ) 助教

---



出生年 : 1975 年

在籍 : 2007 年 4 月～

最終学歴 : 桐蔭横浜大学大学院工学研究科博士後期課程制御システム工学専攻修了

学位 : 博士(工学)

学位論文 : Study on Autonomous Learning System Based on Intelligent Multiagent Techniques and its Applications

専門分野 : 知能情報学、ソフトウェア工学

資格 : 高等学校教諭一種免許状(数学)、中学校教諭一種免許状(数学)、中学校教諭一種免許状(技術)  
高等学校教諭専種免許状(数学)、中学校教諭専種免許状(数学)

学会 : IEEE、IEEE SMC、日本知能情報ファジィ学会、人工知能学会、ソフトコンピューティング研究会

社会的活動 : ソフトコンピューティング研究会 SENSE 勉強会東京版 幹事

受賞・表彰 : IEEE SMC HIROSHIMA CHAPTER Incentive Award

## 学会・研究会発表

---

### 柳下慶輔、山口大輔、片山富美代、高橋宗雄

「授業支援システムのリッチクライアント化と評価」

2008 年度人工知能学会全国大会(第 22 回) 1C1-1, pp.1-4

### 大塚恭平、山口大輔、片山富美代、高橋宗雄

「マルチエージェント技術を用いた PSP 演習支援システム」

日本知能情報ファジィ学会第 24 回ファジィシステムシンポジウム, pp.526-529

### 山口大輔

「エージェント技術を用いた PSP 演習支援システムへの教師データの検討」

第2回ソフトコンピューティング研究会(SENSE 勉強会東京版)

## 論文掲載

---

**山口大輔、佐野元昭、片山富美代、高橋宗雄**

「インド IT によるソフトウェア開発教育の意義と課題」

桐蔭論叢 第 18 号 pp.111-117

2008 年 6 月 15 日

**Daisuke Yamaguchi, Fumiyo Katayama, Muneo Takahashi, Masataka Arai, Kenneth James Mackin**

“The medical diagnostic support system using extended Rough Neural Network and Multiagent”

Artificial Life and Robotics, Volume13, Number 1, 2008 pp.184-187

2008 年 12 月 15 日

## 講演会・研修会講師

---

**山口大輔**

「Web アプリケーションを支える言語と関連ツール」

九州工業大学機械情報工学科 3 年次講義「情報通信ネットワーク」

2008 年 7 月 11 日 於九州工業大学飯塚キャンパス

## 国際学会・シンポジウムでの発表・講演

---

**Daisuke Yamaguchi, Fumiyo Katayama, Muneo Takahashi, Masataka Arai, Kenneth James Mackin**

“The medical diagnostic support system using extended Rough Neural Network and Multiagent”

International Symposium on Artificial Life and Robotics (AROB 13th '08)

Feb 1st, 2008, B-Con Plaza, Beppu, Oita, JAPAN

**Daisuke Yamaguchi, Fumiyo Katayama, Muneo Takahashi, Masataka Arai, Kenneth James Mackin**

“The medical diagnostic support system using extended Neural Network and Multiagent”

The 4th International Workshop on Computational Intelligence and Applications 2008

2008 年 12 月 11 日 於 Library Hall, Central Library, Hiroshima University, Higashi-Hiroshima Campus

**Daisuke Yamaguchi, Kyouhei Otsuka, Fumiyo Katayama, Muneo Takahashi**

“The PSP Practice Support System Using Multiagent Techniques and Manipulation Analysis Data”

14th International Conference on Artificial Life and Robotics

Feb 5, 2009, B-Con Plaza, Beppu, Oita, JAPAN

## 雑誌掲載

---

**山口大輔**

「インテリジェント・マルチエージェント技術に基づく自律学習システムとその応用に関する研究」

人工知能学会誌 23 巻, 1 号, pp.135

## その他

---

### ○表彰・受賞

**Daisuke Yamaguchi, Fumiyo Katayama, Muneo Takahashi, Masataka Arai, Kenneth James Mackin**

Incentive Award

IEEE SMC HIROSHIMA CHAPTER

2008 年 12 月 11 日 於 Library Hall, Central Library, Hiroshima University, Higashi-Hiroshima Campus

## ロボット工学科 (Department of Robotics and Bio-mechatronics)

### Alberto Palacios Pawlovsky (アルベルト・パラスィオス・パウロフスキ) 教授

---



出生年 : 1955 年  
在籍 : 1994 年 4 月～  
最終学歴 : 長岡技術科学大学大学院情報制御工学専攻博士後期課程修了  
学位 : 工学博士  
学位論文 : レジスタ転送レベルのハードウェア設計における機能検証  
専門分野 : デジタル回路の耐故障化・高速化設計、最適化用(ヒューリスティックな)アルゴリズムの研究・開発  
前職 : 株式会社日立製作所中央研究所客員研究員  
留学 : ブラジル国 Universidade Federal do Rio Grande do Norte(UFRN)州立大学客員教員、客員研究員(1997.3～8)  
資格 : アマチュア無線技士(電話級)  
学会 : ペルー工学会、IEEE(Senior Member)、電子情報通信学会(IEICE)、および ACM の各会員  
社会的活動 : NPOの日本・ペルー共生協会の会長

### 学会・研究会発表

---

Akiko Miyashita, **Alberto Palacios Pawlovsky** and Ichiro Ruiz Obregon,  
“A Comparative Study of Two Hybrid Heuristic Methods for Searching for the Input Pair that Cause the Maximum Number of Switching Gates in a Combinational Circuit,” Proceedings of the XV Iberchip Workshop 2009, Vol. 1, pp.83-86, Buenos Aires, Argentina, March 2009.

Akira Yaguchi, **Alberto Palacios Pawlovsky** and Akihiro Nikaido,  
“A Study of the Influence of Increasing the Number of Crossover Points in a Genetic Algorithm that Searches for an Input Pair that Cause the Maximum Number of Switching Gates in a Combinational Circuit,” Proceedings of the XV Iberchip Workshop 2009, Vol. 1, pp.107-110, Buenos Aires, Argentina, March 2009.

### 論文掲載

---

Ichiro Ruiz Obregon, **Alberto Palacios Pawlovsky**  
“A Hybrid SA-GA Method for Finding the Maximum Number of Switching Gates”  
Proceedings of ITC-CSCC 2008 pp.1085-1088  
2008 年 7 月 15 日

Ichiro Ruiz Obregon, **Alberto Palacios Pawlovsky**  
“A hybrid SA-EA method for finding the maximum number of switching gates in a combinational circuit”  
IEICE Electronics Express, Vol. 5, No. 18, pp. 756-761  
2008 年 9 月 25 日

## 岡田 俊 恵（おかだ としえ）教授

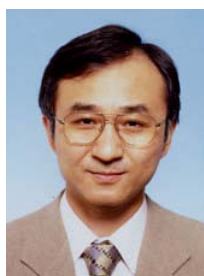
---



出生年 : 1954 年  
在籍 : 1989 年 4 月～  
最終学歴 : 津田塾大学大学院修士課程  
学位 : 文学修士  
学位論文 : A Study of Macbeth  
専門分野 : 英文学  
前職 : 静岡大学助教授  
学会 : 日本英文学会、日本シェイクスピア協会  
受賞・表彰 : 市川三喜賞（津田塾大学 1977 年）

## 工藤 成 史（くどう せいし）教授

---



出生年 : 1951 年  
在籍 : 1997 年 4 月～  
最終学歴 : 東北大学工学研究科博士後期課程  
学位 : 工学博士  
学位論文 :  $K_2SeO_4$ の構造相転移に関する研究  
専門分野 : 応用物理学、生物物理学  
前職 : (株)豊田中央研究所(新技術実業団宝谷超分子柔構造プロジェクト研究員)、(株)安川電機つくば研究所課長(新技術授業団さきがけ研究21「細胞と情報」領域研究者)  
学会 : 日本物理学会、Biophysical Society、文理シナジー学会、応用物理学会(有機分子バイオ分科常任幹事、講演会企画運営委員、講演奨励賞委員、論文賞委員、1991-1999)、日本生物物理学会(学会誌編集委員、1997-1998)、可視化情報学会  
社会的活動 : 新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)委託調査「バイオニックデザイン」調査委員(1992～1993)、科学技術振興調整費「極限環境下におけるマイクロライボロジーに関する基盤的研究」研究推進委員会第2分科会委員(1996～2001)、科学技術振興事業団・創造科学技術推進事業・難波プロトニックナノマシンプロジェクト研究推進委員(1998～2002)、NEDO テーマ公募型事業ピアレビュー(2004～)  
受賞・表彰 : IEEE 論文賞(James Melcher Prize Paper Award)(1994)、第2回ニューテクノロジー振興財団懸賞論文「文化としての遊びと科学技術」入賞(1997)、可視化情報学会 第19期学会賞(論文賞)(2008)

## 学会・研究会発表

---

### 工藤成史、竹内正顕

「工学部が若者から敬遠される背景を考える」

文理シナジー学会平成20年度春の大会、要旨集 p.3

2008年5月



佐々木敏樹、御手洗伸之、**森下武志**、**工藤成史**

「単毛性細菌のモデルによる運動解析」

第 22 回エアロ・アクアバイオメカニズム研究会、講演会資料集 pp.29-30

2008 年 9 月

中村修一、南野徹、上池伸徳、**工藤成史**、難波啓一

「サルモネラ菌のプロトン駆動型べん毛モータ回転における細胞内 pH の影響」

第 46 回日本生物物理学会年会、生物物理 48, S49

2008 年 12 月

**工藤成史**、御手洗伸之、佐々木敏樹、**森下武志**

「単毛性細菌の遊泳模型」

第 46 回日本生物物理学会年会、生物物理 48, S109

2008 年 12 月

鳥谷部祥一、中山隆宏、岡本哲明、竹谷寛司、**工藤成史**、杉山滋、宗行英朗

「F1-ATPase1 分子の陽動散逸定理の破れの測定」

第 46 回日本生物物理学会年会、生物物理 48, S122

2008 年 12 月

## 論文掲載

---

Watanabe-Nakayama T, Toyabe S, **Kudo S**, Sugiyama S, Yoshida M, Muneyuki E.

“Effect of external torque on the ATP-driven rotation of F1-ATPase”

Biochem Biophys Res Commun., 366, 951-957

2008

## その他

---

### ○表彰・受賞

西鳥羽恵美、曲山幸生、高野泰斉、飯野正昭、**工藤成史**

可視化情報学会 第 19 期 学会賞(論文賞)

「レーザー暗視野顕微鏡を用いたサルモネラ菌べん毛のらせんパラメータ観測」

可視化情報学会論文集、Vol. 27, pp. 15-21

2008 年

## 若山 信行 (わかやま のぶゆき) 教授

---



出生年 : 1942 年  
在籍 : 1988 年 4 月～  
最終学歴 : 東京大学大学院博士課程  
学位 : 理学博士  
学位論文 : 有機半導体の触媒作用  
専門分野 : 物理化学、生物物理化学  
前職 : 三菱化成生命科学研究所主任研究員  
留学 : カナダ国立研究機構 (1969～1972)  
学会 : 日本化学会、日本生物物理学会、高分子学会

## 片山 富美代 (かたやま ふみよ) 准教授

---



出生年 : 1960 年  
在籍 : 2004 年 7 月～  
最終学歴 : 桜美林大学大学院国際学研究科環太平洋地域文化専攻  
博士後期課程修了  
学位 : 博士(学術)、修士(看護学)  
学位論文 : 人工血液透析患者の病気認知と病気適応に関する健康心理学的研究  
専門分野 : 基礎看護学、健康心理学  
前職 : 広島国際大学看護学部看護学科講師  
資格 : 看護師免許  
学会 : 日本看護研究学会、日本カウンセリング学会、日本健康心理学会、日本教育工学会、日本ヒューマン・ケア心理学会  
社会的活動 : 日本健康心理学会広報・ニューズレター編集委員

### 学会・研究会発表

---

柳下慶輔、山口大輔、片山富美代、高橋宗雄

「授業支援システムのリッチクライアント化と評価」

2008 年度人工知能学会全国大会(第 22 回)

2008 年 6 月 11 日 於ときわ市民ホール／勤労者福祉総合センター

山口大輔、大塚恭平、片山富美代、高橋宗雄

「マルチエージェント技術を用いた PSP 演習支援システム」

第 24 回ファジィシステムシンポジウム

2008 年 9 月 4 日 於阪南大学 本キャンパス

片山富美代、小玉正博

「血液透析患者の病気対処に関する質的検討 - 糖尿病患者の病気対処との比較 -」

日本ヒューマン・ケア心理学会第 10 回大会

2008 年 9 月 14 日 於京都

片山富美代、小玉正博、長田久雄

「血液透析患者の病気適応に関する検討 - 病者としての病気適応と QOL の関係 -」

日本健康心理学会第 21 回大会

2008 年 9 月 12 日 於東京

Daisuke Yamaguchi, Fumiyo Katayama, Muneo Takahashi, Masataka Arai, Kenneth James Mackin

“The medical diagnostic support system using extended Neural Network and Multiagent”

The 4th International Workshop on Computational Intelligence and Applications 2008

2008 年 12 月 11 日 於 Library Hall, Central Library, Hiroshima University, Higashi-Hiroshima Campus

Daisuke Yamaguchi, Kyouhei Otsuka, Fumiyo Katayama, Muneo Takahashi

“The PSP Practice Support System Using Multiagent Techniques and Manipulation Analysis Data”

14th International Conference on Artificial Life and Robotics

Feb 5, 2009 B-Con Plaza, Beppu, Oita, JAPAN

小川和樹、外園良輔、**片山富美代**、**杉本恒美**

「コトコフ音解析における循環機能検査、一疲労によるコトコフ音波形の変化と脈圧値の検討」  
日本音響学会春季研究発表会  
2009年3月19日 於東京工業大学

---

## 論文掲載

**山口大輔**、**佐野元昭**、**片山富美代**、**高橋宗雄**

「インド IT によるソフトウェア開発教育の意義と課題」  
桐蔭論叢 第18号 pp.111-117  
2008年6月15日

**片山富美代**

「慢性呼吸器疾患患者の感情表象と病気適応および QOL の関係」  
桐蔭論叢 第18号 pp.93-100  
2008年6月15日

**片山富美代**、小玉正博、長田久雄

「語り分析による血液透析患者の病気認知の検討 — 自己調節モデルの視点から —」  
ヒューマン・ケア研究 第9号 pp.4-17  
2008年9月13日

**Daisuke Yamaguchi, Fumiyo Katayama, Muneo Takahashi, Masataka Arai, Kenneth James Mackin**

“The medical diagnostic support system using extended Rough Neural Network and Multiagent”  
Artificial Life and Robotics, Volume13, Number 1, 2008 pp.184-187  
2008年12月15日

---

## その他

### ○表彰・受賞

**Daisuke Yamaguchi, Fumiyo Katayama, Muneo Takahashi, Masataka Arai, Kenneth James Mackin**  
Incentive Award

IEEE SMC HIROSHIMA CHAPTER

2008年12月11日 於 Library Hall, Central Library, Hiroshima University, Higashi-Hiroshima Campus

---

## 土屋 信 雄 (つちや のぶお) 准教授



出生年 : 1950年  
在籍 : 1990年4月～  
最終学歴 : 東京大学大学院博士課程  
学位 : 理学博士  
学位論文 : Growth and Depth of Leaves  
専門分野 : 位相幾何学  
前職 : 東京工業大学理学部助手  
学会 : 日本数学会

## 中丸久一（なかまる ひさかず）講師

---



出生年：1947年  
在籍：1990年4月～  
最終学歴：東京理科大学理学部応用物理学科  
専門分野：物性物理、物理教育  
前職：桐蔭学園工業高等専門学校講師  
学会：応用物理学会、日本物理教育学会、日本語教育学会、日本教育メディア学会

### 学会・研究会発表

---

#### 中丸久一

「在留外国人子女のためのアイデンティティを考慮したデジタルコンテンツ理科教材の開発Ⅱ研究」  
第69回応用物理学会学術講演会 No1.376  
2008年9月

#### 中丸久一

「在留外国人子女のためのアイデンティティを考慮したデジタルコンテンツ理科教材の研究」  
第15回日本教育メディア学会年次大会 31-32  
2008年10月

### 論文掲載

---

#### 中丸久一

「在留外国人子女のためのアイデンティティを考慮したデジタルコンテンツ理科教材の研究」  
桐蔭論素 No19 67-72  
2008年12月

### その他

---

#### ○助成金・補助金等

平成19年度～平成20年度科学研究補助金研究基盤研究(C)課題番号 19500824  
「在留外国人子女のためのアイデンティティを考慮した理科教育の実践的研究」

## 森下武志 (もりした たけし) 講師

---



出生年 : 1967 年  
在籍 : 2008 年 4 月～  
最終学歴 : 横浜国立大学大学院工学府博士後期課程修了  
学位 : 博士(工学)  
学位論文 : 小型両眼視覚ロボットと教育への展開  
専門分野 : ロボット工学, 教育工学  
前職 : 神奈川県教育委員会職員 教諭  
留学 : 東京大学大学院知能機械情報学系研究科情報システム工学研究室(井上・稲葉研究室)内地留学(2003)  
学会 : 日本ロボット学会、日本機械学会、日本教育工学会  
社会的活動 : 日本ロボット学会 学術講演会実行委員(2009)  
日本ロボット学会 会員 5000 名拡大計画委員会 若年層啓蒙活動 WG 委員 (2009)  
全国産業教育フェア神奈川大会 高校生ロボットコンテスト審査委員 (2009)  
文部科学省:「科学技術・理科大好きプラン」サイエンスパートナーシッププログラム 宇宙航空研究開発機構 JAXA と共同教育活動(2004)  
特許庁:工業高校における「産業財産権標準テキスト活用に関する実験協力校」教育プログラム代表者(2003-2006)  
受賞・表彰 : 3rd International Micro-Mechanism Contest Excellent Award (2009)  
第26回全国高等学校総合文化祭 ロボットコンテスト(相撲ロボット自立型部門)優勝(2002)  
第12回全日本ロボット相撲 in USA 国際大会 自立型 サンフランシスコ場所 準優勝(2000)  
神奈川県知事賞受賞(1995,1996,1997,1998,2002)

### 著書出版

---

Takeshi Morishita, Tetsuro Yabuta

“Stereo Vision”, Hard cover Book, ISBN 978-953-7619-22-0, Chapter 13, pp.221-234, In-Tech Education and Publishing, November 2008

### 学会・研究会発表

---

佐々木敏樹、御手洗伸之、**森下武志**、**工藤成史**

「単毛性細菌のモデルによる運動解析」

第22回エアロ・アクアバイオメカニズム研究会 講演会資料集 pp.29-30

2008年9月

佐々木敏樹、御手洗伸之、**森下武志**、**工藤成史**

「ビブリオ菌モデルによる走化性の再現」

第26回日本ロボット学会学術講演会 講演予稿集 CD 1D1-05

2008年9月

原田博規、小櫛拓人、**森下武志**、伊藤高廣、林輝  
「消化管内多方向推進型カプセルの開発」  
第 26 回日本ロボット学会学術講演会 講演予稿集 CD 1K1-01  
2008 年 9 月

**工藤成史**、御手洗伸之、佐々木敏樹、**森下武志**  
「単毛性細菌の遊泳模型」  
日本生物物理学会第 46 回年会、講演予稿集 2P-221  
2008 年 12 月

佐々木敏樹、御手洗伸之、**森下武志**、**工藤成史**  
「単毛性細菌の遊泳模型」  
第 15 回べん毛研究交流会講演  
2009 年 3 月

#### **国際学会・シンポジウムでの発表・講演**

---

Takuto Ogushi, **Takeshi Morishita**, Takahiro Ito and Teru Hayashi  
"Impulse-driven Capsule by Wireless Implementation"  
Proceedings of the 24th ISPE International Conference on CAD/CAM, Robotics & Factories of the Future(CARS&FOF08), do-107, 2008.6

Takuto Ogushi, **Takeshi Morishita**, Takahiro Ito and Teru Hayashi  
"Development and Evaluation of DC-Driven Traveling Capsule"  
Proceedings of the Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2008, p123, 2008.10

#### **その他**

---

##### **○表彰・受賞**

2009.3 3rd International Micro-Mechanism Contest Excellent Award (優秀賞)

## 工学系

### 赤堀正宜（あかほり まさよし）特任教授

---



出生年：1931年  
在籍：1992年4月～  
最終学歴：東京教育大学大学院博士課程  
学位：博士(教育学)  
学位論文：階層移動における教育の役割－研究方法論を中心に－  
専門分野：教育工学  
前職：放送教育開発センター助教授、国際武道大学教授  
留学：文部省在外研究員  
(ペンシルバニア州立大学)(1985.3～4)  
学会：日本教育学会、日本教育社会学会、日本教育工学会、  
日本教育メディア学会  
社会的活動：日本メディア教育学会理事、日本メディア教育学会、  
「教育メディア研究」編集委員

### 涌井史郎（わくい しろう）特任教授

---



出生年：1945年  
在籍：2000年4月～  
最終学歴：東京農業大学農学部造園学科中退  
専門分野：造園学  
前職：(株)石勝エクステリア代表取締役社長  
現職：(株)石勝エクステリア取締役相談役  
客員教授：中部大学客員教授、東京農業大学客員教授  
東京都市大学客員教授  
学会：日本造園学会、日本レジャー・レクリエーション学会  
日本緑化工学会  
社会的活動：とうきゅう環境浄化財団助成金選考委員、山口県21世紀未来博覧会チーフプロデューサー、国土庁水資源対策アドバイザー、NTV「知ってるつもり?!」、TBS「サンデーモーニング」等レギュラー出演、2005年日本国際万博博覧会(愛知 EXPO)ランドスケープコーディネーター(2002.2～2002.12)、青少年公園緑化修景計画検討委員会、道路緑化保全協会菊池奨励賞選考委員会委員(2002.9～2004.5)、道路緑化保全協会社会情勢の変化に応じた緑化事業推進研究会座長、国営沖縄記念公園長期計画策定委員会委員(2002.11～2003.3)、国土交通省造園工事等の実施に関する諸問題への対応検討委員会委員(2002.11～

2003.3)、2005年日本国際博覧会(愛知 EXPO)会場総合プロデューサー、みちのく杜の湖畔公園整備計画検討委員会委員長(2003.3～2004.3)、国土交通省キャッチボールのできる公園づくり懇話会座長(2003.6～2004.3)、青葉山公園整備基本計画検討委員会委員(2004.6～)、北ぐんま地域交流連携検討会委員、日本農学会評議員、みちのく公園自然共生園整備基本計画検討委員会委員長、財団法人公園緑地管理財団 研究顧問、タイ・ラーチャブルック国際園芸博覧会屋外出典委員会委員、多摩・三浦丘陵自治体広域連携会議 座長、沖縄記念公園基本計画更新委員会委員(平成19年3月31日)、(財)都市緑化基金 調査研究協力委員、(社)日本インドア・グリーン協会活性化検討特別委員会委員、フラワーリズム推進協議会理事、全国産業観光推進協議会理事

受賞・表彰 : 東京農業大学「造園大賞」受賞(1974.5)、日本造園学会「日本造園学会賞」受賞(1993.5)、(財)日本造修景学会「下山奨励賞」受賞(1993.5)、国土交通大臣表彰(2001.7)、2000年度材料技術研究協会討論会ポスター賞受賞、黄綬褒章受賞(2005.5)

## 著書出版

---

**涌井史郎** ほか

「イベント学のすすめ」

(株)ぎょうせい 環境／イベントと環境、担当部分:pp.138-147

2008年9月1日

**涌井史郎**

「わたしの藤沢周平」

(株)宝島社 これぞ東北の原風景。日本人の独特の空間感覚を描き尽くす。担当ページ:pp.27-32

2009年1月9日

## 講演会・研修会講師

---

**涌井史郎**

「緑の地球をまもるために／活動報告総括」

(財)緑の地球防衛基金、緑の地球をまもるために／明日のために何ができるか

2008年4月12日

**涌井史郎**

造園家がになう緑の最前線

東京農業大学緑のフォーラム 特別講演会

2008年5月31日

**涌井史郎**

人間・環境・未来／つながりのある社会を目指して

野村不動産(株)、第2回ホテルを通して環境を考える展 2008／自然から学ぶ、人と環境と未来と

2008年6月3日



**涌井史郎**

愛知万博から COP10 へ

名古屋市、生物多様性条約第 10 回締結国会議・誘致記念、モノづくり文化交流シンポジウム、特別講演  
2008 年 7 月 21 日

**涌井史郎**

景観から見る日本のこころ

(社)岐阜県山林協会設立 60 周年記念講演会  
2008 年 8 月 25 日

**涌井史郎**

みどりは繋ぎ手

世田谷にみどりいっぱい実行委員会 基調講演  
2008 年 11 月 8 日

**涌井史郎**

生態環境都市づくり／欠かせない自然への配慮

TOKYO URBAN LIFE2008、フォーラム  
2008 年 11 月 14 日

**涌井史郎**

景観 10 年・風景 100 年・風土千年～みどりを繋ぎてにしたまちづくり

(財)川崎市公園緑地協会・川崎市環境局主催、かわさき花と緑の活動団体交流会 基調講演  
2008 年 11 月 14 日

**涌井史郎**

現場を支える技能労働者

(社)建設産業専門団体連合会主催、平成 20 年度(社)建設産業専門団体連合会  
大会、基調講演  
2008 年 11 月 17 日

**涌井史郎**

地域遺伝子としての景観形成～環境革命の時代に

日本造園学会九州支部平成 20 年度沖縄大会基調講演  
2008 年 11 月 22 日

**涌井史郎**

景観から見た日本の心

成道会特別講演会、佛教大学宗教教育センター  
2008 年 12 月 8 日

**涌井史郎**

生物多様性と農林業

生物多様性シンポジウム、東三河における生物多様性と農林業、基調講演  
2008 年 12 月 23 日

## 雑誌掲載

---

### 「六義園」

ANA 2008年6月号 囲われたエデン第15回 pp.126-129  
2008年6月

### 「景観」と「風土」／未来への宝

文藝春秋 2008、No.5 pp.130-132  
2008年7月

### 「モエレ沼公園」

ANA 2008年7月号 囲われたエデン第16回 pp.134-137  
2008年7月

### 「持続・再生可能な社会構築には感性価値への転換・浸透が必要」

週刊エコノミスト 080708号 pp.55-57  
2008年7月

### 「縮景園」

ANA 2008年8月号 囲われたエデン第17回 pp.150-153  
2008年8月

### 「水前寺成趣園」

ANA 2008年9月号 囲われたエデン第18回 pp.134-137  
2008年9月

### 「環境革命」により新しい都市が生まれる

REAL 2008 vol.3 P36  
2008年10月

### 「無鄰庵」

ANA 2008年11月号 囲われたエデン第20回 pp.134-137  
2008年11月

### 「緑化の将来を考える 2008」

新・緑の仕事Ⅱ 東邦レオ、pp.6-9  
2008年11月

### 「地域遺伝子としての景観形成～環境革命の時代に」

(社)日本造園学会九州支部平成20年度沖縄大会報告書 pp.7-19  
2008年11月

### 「旧亀石坊庭園」

ANA 2008年12月号 囲われたエデン第21回 pp.134-137  
2008年12月

### 「生物多様性の時代」

多摩川120号 (財)とうきゅう環境浄化財団、pp.1  
2008年12月

日本人の自然観が詰まった「日本庭園」の魅力  
日経 23PLUS 2009年3月3日号  
2009年2月

「景観から見た日本の心」  
宗教教育センター選書、法輪第16号成道会特別講演記録、pp.9-42  
2009年3月27日号、P6

「新宿御苑」  
ANA 2008年3月号 囲われたエデン第24回 pp.126-129  
2009年3月

「日本水景協会 30周年に寄せて」  
Jour.of AQUA LANDSCAPE No.25 日本水景協会、P.3  
2009年3月

### **新聞記事掲載**

---

(財)緑の地球防衛基金 25周年に当たって  
緑の地球新聞第100号 (財)緑の地球防衛基金、pp.3-4  
2008年4月

「日本人の知恵取り戻せ／里山行動・市民の参画不可欠」  
中日新聞  
2008年7月

「人と環境と未来と／大切なのは、自然から学び、次の時代を考えること」  
毎日新聞 2009年1月23日号  
2009年1月

「生物多様性/COP10、数値目標、世界が注目」  
日刊工業新聞 2009年2月27日号、P23  
2009年2月

「緑化の重要性語る」  
十勝新聞 pp.1-3  
2009年2月

「生き物に学ぶ科学技術の開発が課題」  
朝日新聞 2009年2月28日号  
2009年3月

「緑を通して環境保全を」  
北海道建設新聞  
2009年3月

## その他

---

### ○総説・論説

#### 涌井史郎

「環境革命の時代を予見し大規模講演の機能を考える」

公園緑地 69(4) pp.26-29

2008 年

#### 涌井史郎

「多様な主体多様な参画で、環境革命時代の公園緑地を創造・発展させる」

都市公園 184 pp.2-4

2009 年 3 月 19 日

## スポーツ健康政策学部 (Faculty of Culture and Sport Policy)

### スポーツ教育学科 (Department of Sport Education)

#### 井筒次郎 (いづつ じろう) 教授

---



出生年 : 1949 年  
在籍 : 2008 年 4 月～  
最終学歴 : 日本体育大学大学院体育研究科修了  
学位 : 修士(体育学)  
専門分野 : スポーツ教育学、保健体育科教育学、安全教育学  
前職 : 流通経済大学スポーツ健康科学部教授  
学会 : 日本体育学会、日本学校保健学会、日本教師教育学会、  
日本安全教育学会  
社会的活動 : 日本安全教育学会監事、(財)日本学校保健会健康教育  
推進学校表彰審査委員会委員、品川区立学校校区外部  
評価委員長

#### 雑誌掲載

---

##### 井筒次郎

小学校「体育」の改訂のポイント  
教育開発研究所 教職研修 7月号 pp.38-39  
2008年7月

##### 井筒次郎

新学習指導要領を受けて③「健康の概念について」  
光文書院 こどもと保健 No.65 pp.4-6  
2008年9月

#### 河部裕子 (かわべ ひろこ) 教授

---



出生年 : 1947 年  
在籍 : 1988 年 4 月～  
最終学歴 : 東京大学理学系大学院修士課程  
学位 : 理学博士(理学)  
学位論文 : On the Conjugation of Local Diffeomorphisms Infinitely  
Tangent to the Identity  
専門分野 : 微分位相幾何学  
前職 : 東京工業大学理学部数学科助手  
フーリエ研究所(グルノーブル)客員教授(1985.1～6)  
留学 : M.S.R.I.(カリフォルニア・バークレー・数理科学研究所)  
(1988.8～9)  
学会 : 日本数学会・日本数学教育学会

## 相 良 憲 昭 (さがら のりあき) 教授

---



出 生 年 : 1943 年  
在 籍 : 2009 年 4 月～  
最 終 学 歴 : 東京大学文学部仏語仏文学科卒業  
専 門 分 野 : 国際理解教育、文化論  
前 職 : 京都ノートルダム女子大学学長  
留 学 : フランス国パリ大学文学部(1967.9～1968.6)  
資 格 : 国家公務員試験上級職(行政職)合格  
非 常 勤 講 師 : 京都ノートルダム女子大学大学院人間文化研究科  
常葉学園大学大学院言語文化研究科  
学 会 : 日本国際理解教育学会、日本比較教育学会、日本フランス  
教育学会、世界法学会、日本平和学会  
社会的活動 : (社)日本ユネスコ協会連盟中央委員、ユネスコ・アジア太平  
洋地域国際理解教育センター理事、(財)国立京都国際会  
館評議員、(財)ユネスコ・アジア文化センター評議員、(財)  
国際連合大学協力会評議員等

## 杉 山 重 利 (すぎやま しげとし) 教授

---



出 生 年 : 1939 年  
在 籍 : 2006 年 9 月～  
最 終 学 歴 : 東京教育大学体育学部体育学科  
学 位 : 体育学士  
専 門 分 野 : 武道教育論、スポーツ教育学  
前 職 : 桐蔭横浜大学文化政策研究所  
学 会 : 日本体育学会、日本スポーツ教育学会、日本武道学会

### 著書出版

---

#### 杉山重利

『最新学校運営ハンドブック』

教育開発研究所

2009 年

### 論文掲載

---

#### 杉山重利

「中学校「保健体育」の改訂のポイント」

教職研究・7月号

2008 年

#### 杉山重利

「健やかな体を育成する教育活動」

体育科教育・12月号

2008 年

## 園山和夫（そのやま かずお）教授

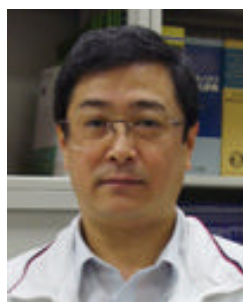
---



出生年 : 1945 年  
在籍 : 2007 年 4 月～  
最終学歴 : 島根大学教育学部教育専攻科教育学専攻修了  
学位 : 学士(教育学)  
専門分野 : 保健体育科教育学、健康教育学  
前職 : びわこ成蹊スポーツ大学教授  
非常勤講師 : 川村学園女子大学  
学会 : 日本体育学会、日本学校保健学会、日本スポーツ教育学会、日本安全教育学会  
社会的活動 : 文部科学省学習指導要領改訂調査研究協力者  
(財)日本体育協会評議員  
(社)日本グラウンド・ゴルフ協会常務理事  
(社)全国体育指導委員連合専務理事  
(財)日本スポーツクラブ協会理事  
(財)スポーツ安全協会理事  
(財)コカ・コーラ教育・環境財団理事  
受賞・表彰 : 日本スポーツ教育学会功労賞

## 星秋夫（ほし あきお）教授

---



出生年 : 1954 年  
在籍 : 2008 年 4 月～  
最終学歴 : 日本体育大学大学院体育学研究科体育学専攻 修了  
学位 : 体育学修士(日本体育大学)、博士(医学)(順天堂大学)  
専門分野 : 環境衛生学、生気象学、健康・スポーツ科学  
前職 : 日本歯科大学生命歯学部共同利用研究センター准教授  
学会 : 日本衛生学会、日本生気象学会、日本体力医学会、日本体育学会、日本運動生理学会、バイオクリマ研究会

## 松原 静郎 (まつばら しずお) 教授

---



出生年 : 1951 年  
在籍 : 2009 年 4 月～  
最終学歴 : 東京都立大学大学院理学研究科修士課程(化学専攻)修了  
学位 : 理学修士  
専門分野 : 科学教育、教育工学、教育学  
前職 : 国立教育政策研究所教育課程研究センター基礎研究部総括研究官  
学会 : 日本化学会、日本科学教育学会、日本理科教育学会  
社会的活動 : 日本化学会化学教育協議会役員、日本科学教育学会監事、日本理科教育学会評議員  
受賞・表彰 : 日本科学教育学会「科学教育研究奨励賞」受賞  
(1988 年 7 月)  
日本科学教育学会「年会発表賞」受賞  
(2007 年 8 月)

## 松本 格之祐 (まつもと かくのすけ) 教授

---



出生年 : 1952 年  
在籍 : 2008 年 4 月～  
最終学歴 : 筑波大学大学院修士課程研究科修了  
学位 : 修士(体育学)  
学位論文 : 小学校体育授業における仲間づくりの可能性の検討  
ーチャレンジ運動とボール運動の授業実践を通してー  
専門分野 : 体育科教育法  
前職 : びわこ成蹊スポーツ大学教授  
資格 : 保健体育教諭専修免許(中学、高校)  
非常勤講師 : 桜美林大学  
学会 : 初等教育研究会、筑波学校体育研究会、日本スポーツ教育学会、体育授業研究会、日本体育学会、日本体育科教育学会  
社会的活動 : 研筑波学校体育研究会会長、体育授業研究会理事長

### 講演会・研修会講師

---

文部科学省主催や各県の体育連盟主催の講習会講師など、年間十数回の講師

### 海外出張

---

JICA 関連でカンボジアでの教育支援(2008年、2009年)



## 谷田部 玲生 (やたべ れいお) 教授



出生年 : 1956 年  
在籍 : 2009 年 4 月～  
最終学歴 : 筑波大学大学院修士課程教育研究科教育専攻社会科コース修了  
学位 : 教育学修士(筑波大学)  
専門分野 : 教科教育学(社会科教育・公民教育)  
前職 : 国立教育政策研究所教育課程研究センター基礎研究部総括研究官  
資格 : 中学校教諭一級普通免許状(社会)、高等学校教諭一級普通免許状(社会)  
非常勤講師 : 東京学芸大学、静岡大学  
学会 : 日本社会科教育学会、全国社会科教育学会、日本公民教育学会、日本国際理解教育学会、日本生活科総合的学習教育学会、日本 NIE 学会、中等社会科教育学会  
社会的活動 : 日本社会科教育学会評議員・幹事、全国社会科教育学会理事、日本公民教育学会常任理事・事務局、全国高等学校 NIE 研究会顧問、日本 NIE 学会理事・常任理事・企画委員長、中等社会科教育学会副会長、日本私学教育研究所社会科系研修会専門委員、品川区立学校外部評価委員会委員、世田谷区学校評価検討委員

## 角 替 弘 規 (つのがえ ひろき) 准教授



出生年 : 1969 年  
在籍 : 1997 年 4 月～  
最終学歴 : 筑波大学大学院博士課程教育学研究科  
学位 : 修士(教育学)  
学位論文 : イギリスの大学における学術研究体制に関する研究  
—教育改革以降の財源配分方法を中心に—  
専門分野 : 教育社会学  
前職 : 桐蔭横浜大学工学部准教授  
資格 : 高等学校教諭一種免許状(英語)  
中学校教諭一種免許状(英語)  
非常勤講師 : 金沢大学(2000)  
国立音楽大学(2002～2008)  
学会 : 日本教育社会学会、日本高等教育学会、日本比較教育学会、日本教育制度学会、筑波大学教育学会、日英教育学会、全国海外子女教育国際理解教育研究協議会  
社会的活動 : NPO 法人日本ペルー共生協会(AJAPE)会員  
独立行政法人日本学生支援機構「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」ペーパーレフリー(2007～2008)

## 学会・研究会発表

---

家上幸子・角替弘規・児島明・清水睦美

「ニューカマー児童生徒の就学を支える要因—国際教室をめぐる資源の編み直しに注目して—」

日本教育社会学会第60回大会

2008年9月19日 於上越教育大学

## 論文掲載

---

角替弘規

「NPOによる外国につながりを持つ生徒の学習支援の課題—NPO AJAPEの事例から—」

『桐蔭論叢』、第18号、2008年、101-110

## その他

---

### ○助成金・補助金等

「外国人生徒の教科学習支援の研究—中学校の学習内容理解と学習意欲の向上を促す支援—」2007～2008年度 科学研究費補助金 若手研究(B) 課題番号 19730545、研究代表者

「ニューカマーの子どもの不就学に関する研究—義務教育段階のシステム改善に向けて—」2007～2008年度 科学研究費補助金 基盤研究(C) (研究代表者:東京理科大学 清水睦美) 研究分担者

「在留外国人子女のためのアイデンティティを考慮した理科教育の実践的研究」2007～2008年度 科学研究費補助金 基盤研究(C) (研究代表者:桐蔭横浜大学 中丸久一) 研究分担者

## 徳田英次(とくだ ひでじ) 准教授

---



出生年 : 1969年

在籍 : 2004年4月～

最終学歴 : 筑波大学大学院博士課程心理学研究科心理学専攻中退

学位 : 修士(心理学)

学位論文 : 覚醒度変化が注意機能に及ぼす影響  
—主観的覚醒度2因子モデルからの検討(未公刊)

専門分野 : 臨床心理学

前職 : 東京成徳大学文学部講師

学会 : 日本心理学会、日本カウンセリング学会、日本催眠医学心理学会、日本心理臨床学会、Society for Clinical and Experimental Hypnosis

社会的活動 : 日本催眠医学心理学会広報委員、臨床心理士

## 宮 津 大 蔵 (みやづ だいぞう) 准教授

---



出 生 年 : 1959 年  
在 籍 : 2009 年 4 月～  
最 終 学 歴 : 東京学芸大学教育学部卒業  
学 位 : 教育学士  
専 門 分 野 : 国語科教育学  
前 職 : 東京都新宿区立余丁町小学校教諭

## 木 村 和 宏 (きむら かずひろ) 講師

---



出 生 年 : 1964 年  
在 籍 : 2008 年 4 月～  
最 終 学 歴 : 日本体育大学大学院体育科学研究科博士前期課程修了  
学 位 : 修士(体育科学)  
学 位 論 文 : バasketボール競技のチーム戦術に関する一考察  
ー世界トップレベルのセット・オフENSEの傾向ー  
専 門 分 野 : コーチング科学、スポーツ方法学(バASKETボール)  
前 職 : 日本体育大学運動処方研究室研究員  
非 常 勤 講 師 : 早稲田大学オープン教育センター  
学 会 : 日本体育学会、スポーツ方法学会  
社 会 的 活 動 : 公認バASKETボール上級コーチ

## 谷 本 直 美 (たにもと なおみ) 講師

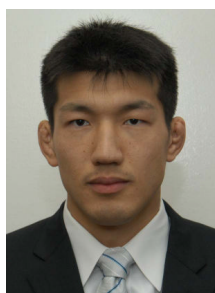
---



出 生 年 : 1960 年  
在 籍 : 2009 年 4 月～  
最 終 学 歴 : 東京学芸大学大学院教育学研究科音楽教育専攻音楽科  
教育講座修了  
学 位 : 教育学修士(東京学芸大学)  
学 位 論 文 : シュタイナー学校における音楽教育  
専 門 分 野 : 教育学  
前 職 : 東京学芸大学附属竹早小学校教諭  
資 格 : 小学校教諭1種  
中学校教諭1種・高等学校教諭2種(音楽) 司書教諭  
非 常 勤 講 師 : 東京学芸大学附属竹早小学校(音楽)  
学 会 : 日本学校音楽教育実践学会、日本教師教育学会

## 廣川 充志 (ひろかわ みつし) 講師

---



出生年 : 1977 年  
在籍 : 2006 年 4 月～  
最終学歴 : 筑波大学大学院修士課程  
学位 : 体育学修士  
学位論文 : 中高年齢者の糖・脂質代謝および酸化 LDL におよぼす  
複合運動トレーニングの影響  
専門分野 : 体育科学  
前職 : 学校法人了徳寺学園職員  
資格 : 講道館柔道五段  
学会 : 日本体力医学会、日本運動生理学会、日本武道学会

## 福井 元 (ふくい げん) 講師

---



出生年 : 1975 年  
在籍 : 2006 年 4 月～  
最終学歴 : 日本体育大学大学院体育科学研究科博士前期課程修了  
学位 : 修士(体育科学)  
学位論文 : 金属バットの導入が高校野球の技術・戦術に及ぼした影響  
ー野球の技術史に関する研究の一環としてー  
専門分野 : スポーツ史  
前職 : 日本体育大学 助手  
          国土舘大学大学院 助手  
学会 : 日本体育学会、スポーツ史学会、日本スポーツ運動学会

## 木原 洋一 (きはら よういち) 助教

---

出生年 : 1976 年  
在籍 : 2008 年 4 月～  
最終学歴 : 筑波大学大学院修士課程体育研究科  
学位 : 修士(体育学)(教育学)  
学位論文 : 演劇における「からだ」のレッスンの理論と実践(体育学)  
心身論を基盤とした体育の理念形成の検討  
ー1931-45年の日本における体育的身体論を射程としてー(教育学)  
専門分野 : スポーツ教育学  
学会 : 日本体育学会、日本スポーツ学会

## スポーツテクノロジー学科 (Department of Sport Technology)

### 加藤 知生 (かとう ともお) 教授

---



出生年 : 1961 年  
在籍 : 2009 年 4 月～  
最終学歴 : 日本体育大学体育学部健康学科卒業  
社会医学技術学院理学療法科卒業  
日本柔道整復専門学校卒業  
学位 : 体育学士  
専門分野 : アスレティック・リハビリテーション、スポーツ理学療法  
前職 : 日立戸塚総合病院リハビリ室勤務  
資格 : 日本体育協会公認アスレティックトレーナー  
理学療法士、柔道整復師  
学会 : 日本理学療法士協会  
社会的活動 : JOC オリンピック強化スタッフ  
日本水泳連盟医・科学委員  
日本体育協会公認アスレティックトレーナー検定委員

### 杉本 英夫 (すぎもと ひでお) 教授

---



出生年 : 1941 年  
在籍 : 2009 年 4 月～  
最終学歴 : 順天堂大学体育学部体育学科卒業  
学位 : 医学博士 (新潟大学)  
学位論文 : 「走運動による尿蛋白の電気泳動パターンの変化」  
専門分野 : 健康・スポーツ科学、ウエルネス・ヘルスプロモーション論、人間医工学  
前職 : 名桜大学人間健康学部スポーツ健康学科教授  
現職 : 新潟大学名誉教授 (平成 19 年 4 月授与)  
名桜大学名誉教授 (平成 21 年 4 月授与)  
留学 : 1996 年 10 月～1997 年 3 月文部省在外研究員として University of Wisconsin-Stevens Point(UWSP)に留学  
研修テーマ「ウエルネスおよびアスリートに対するスポーツ医学の支援システムに関する調査・研究」(特にヘルスプロモーション/ウエルネス論について研修した)  
非常勤講師 : 新潟大学大学院現代社会文化研究科 (前期) 現代文化論  
専攻生活健康行動科学講義および演習を担当 (担当科目  
ヘルスプロモーション特論、同演習)  
学会 : 日本体育学会、日本運動生理学会、日本バイオメカニクス学会、日本ウエルネス学会、全米ウエルネス学会  
社会的活動 : 新潟スポーツ医学研究会理事、財団法人日本体育協会公認スポーツ指導者 (B 級、C 級コーチ) 養成講習会講師、日本サウンド・バイブレーション協会アドバイザー・ブレン (資格認定委員)、日本ウエルネス学会副理事長

## 竹内正顯（たけうち まさあき）教授

---



出生年 : 1944 年  
在籍 : 1988 年 4 月～  
最終学歴 : 東京工業大学大学院修士課程  
学位 : 工学博士  
学位論文 : 有風時の着衣の伝熱に関する基礎研究  
専門分野 : 熱工学  
前職 : 東海大学工学部助教授  
学会 : 日本機械学会、日本熱物性学会、繊維学会、日本伝熱学会、日本フルードパワーシステム学会、日本家政学会  
社会的活動 : 横浜地方裁判所委員 (H17 年 8 月 1 日から H21 年 7 月 31 日)

### 著書出版

---

(2007 年度未掲載分 1 件)

#### 竹内正顯(分担)

「新編熱物性ハンドブック」

養賢堂

2008 年 3 月 25 日

### 学会・研究会発表

---

#### 竹内正顯

「夏季における敷き寝具のムレ感について」

第 17 回睡眠環境学会学術大会

2008 年 12 月 17 日

### 講演会・研修会講師

---

「防寒と熱放射」

第 5 回生活環境懇話会

2008 年 9 月 27 日

### 国際学会・シンポジウムでの発表・講演

---

“A Study on Effects of Mixing Different Gases in Pipes”

7<sup>th</sup> Intl.Conf. on Sys. Simulation and Scientific Computing, 2008

### その他

---

#### ○産学協同研究

##### 竹内正顯

「配管内の付臭剤拡散挙動の研究」

東京瓦斯エネルギー生産部

「配管内の圧力流量変動を考慮したガス拡散挙動の研究」

東京瓦斯エネルギー生産部

「紙おむつ着用時の熱的快適性の検討」

ユニ・チャーム

## 河崎賢三（かわさき けんぞう）准教授

---



出生年 : 1966年  
在籍 : 2004年4月～  
最終学歴 : 島根医科大学大学院医学研究科博士課程 修了  
学位 : 医学博士  
専門分野 : 整形外科、スポーツ医学、関節外科、再生医療  
前職 : 島根医科大学文部教官助手  
学会 : 日本整形外科学会、日本関節鏡学会、日本膝関節学会、  
日本整形外科スポーツ医学会 など

## 澤井睦美（さわい むつみ）准教授

---



出生年 : 1961年  
在籍 : 2008年4月～  
最終学歴 : 日本体育大学大学院体育学研究科  
学位 : 体育学修士  
学位論文 : 静的筋労作の影響と回復に関する研究  
—血行動態の観察から—  
専門分野 : 体操（からだづくり・動きづくり）、身体教育、健康科学  
前職 : 流通経済大学社会学部非常勤講師  
淑徳大学国際コミュニケーション学部非常勤講師  
学会 : 日本体育学会、日本運動・スポーツ科学学会、日本発育  
発達学会、日本幼少児健康教育学会  
社会的活動 : 千葉県主催「健康教室」健康生活コーディネーター

## 箱木北斗（はこぎ ほと）准教授

---



出生年 : 1949年  
在籍 : 1990年4月～  
最終学歴 : 桐蔭横浜大学大学院制御システム工学専攻博士後期課程  
修了  
学位 : 工学博士  
学位論文 : 関節拘縮治療支援装置の開発及びその評価に関する研究  
専門分野 : 制御工学、ロボット工学  
前職 : 桐蔭学園工業高等専門学校講師  
学会 : 計測自動制御学会、日本ロボット学会、バイオメカニズム学  
会、電気学会、ライフサポート学会

## 吉 鷹 幸 春 (よしたか ゆきはる) 准教授

---



出生年 : 1964 年  
在籍 : 1995 年 4 月～  
最終学歴 : 筑波大学大学院修士課程体育研究科修了  
学位 : 体育学修士  
学位論文 : 柔道の「背負投」におけるバイオメカニクス的研究  
専門分野 : 運動方法論、コーチ学、スポーツ心理学  
前職 : 山形県教育庁  
資格 : 専修免許状(保健体育)  
学会 : 日本武道学会、日本体育学会、日本スポーツ心理学会、日本応用心理学会、日本教育医学会  
社会的活動 : 全日本柔道連盟ナショナルチームジュニアヘッドコーチ  
受賞・表彰 : 文部科学省 国際競技大会優秀者(指導者)表彰(1999 年)

## 岡 本 大 (おかもと だい) 講師

---



出生年 : 1973 年  
在籍 : 2008 年 4 月～  
最終学歴 : 国際武道大学大学院 武道・スポーツ研究科 武道・スポーツ専攻修士課程 修了  
学位 : 修士(武道・スポーツ)  
学位論文 : 異なる床面性状が跳躍成績に与える影響  
専門分野 : ハンドボール、コーチング論、ゲーム分析、バイオメカニクス  
前職 : 国土舘大学大学院スポーツ・システム研究科助手  
タイナショナルチームヘッドコーチ、JOC ジュニア強化コーチ  
学会 : 日本体育学会、日本体力医学会、日本バイオメカニクス学会  
社会的活動 : 日本体育協会公認ハンドボールコーチ



## 栗山 裕 (くりやま ゆたか) 講師

---



出生年 : 1957 年  
在籍 : 1991 年 4 月～  
最終学歴 : 東京都立科学技術大学(現・首都大学東京)大学院工学研究科博士後期課程  
学位 : 学術博士  
学位論文 : 大学における情報教育の支援に関する研究  
専門分野 : 知能情報処理、感性情報処理  
前職 : 桐蔭学園工業高等専門学校助手  
学会 : 電子情報通信学会、人工知能学会、日本ファジィ学会、日本教育工学会、日本人間工学会  
社会的活動 : 東京地域アカデミックネットワーク協会運営委員(2000.4～2002.3)

## その他

---

「体力検定制度の創設に向けた調査研究事業報告書」

編集・発行:(社)全国体育指導委員連合 担当:データの集計分析 36～72 頁

2009 年 2 月 27 日

## 廣瀬 立朗 (ひろせ たつろう) 助教

---



出生年 : 1973 年 8 月 24 日  
在籍 : 2009 年 4 月～  
最終学歴 : 東京大学大学院  
学位 : 博士(学術)  
学位論文 : 力学的除負荷が筋内コラーゲン代謝に与える影響  
専門分野 : 運動生理学、運動生化学  
前職 : 日本体育大学 助教  
非常勤講師 : 上智大学  
学会 : 日本体力医学会

## スポーツ健康政策学科 (Department of Culture and Sport Policy)

### 岡本 真佐子 (おかもと まさこ) 教授

---



出生年 : 1961 年  
在籍 : 2007 年 4 月～  
最終学歴 : 大阪大学人間科学研究科博士後期課程単位取得退学  
学位 : 修士(人間科学)  
専門分野 : 文化人類学、文化政策、国際文化交流  
前職 : 国士舘大学 21 世紀アジア学部 教授  
留学 : トルコ・ボアヂチ大学歴史学部 客員研究員  
英・オックスフォード大学東洋研究所 客員研究員  
学会 : 日本社会学会  
社会的活動 : (独)国際交流基金客員研究員  
(独)国際交流基金「日本における国際美術展」懇談会委員  
国土交通省 交通政策審議会委員

### 学会・研究会発表

---

#### 岡本真佐子

法政大学国際日本学研究中心 東アジア文化研究会 報告

### 論文掲載

---

#### 岡本真佐子(共著)

「ドイツにおける国際交流基金の事業評価調査の分析」  
関西学院大学社会学部紀要 106 号

#### 岡本真佐子(共著)

「国際文化交流機関の評価に関する研究」  
青山総合文化政策学 第1巻

### 清水 麗 (しみず うらら) 教授

---



出生年 : 1967 年  
在籍 : 2008 年 4 月～  
最終学歴 : 筑波大学大学院博士課程国際政治経済学研究科 単位取得満期退学  
学位 : 修士(地域研究)、修士(学術)博士(国際政治経済学)  
学位論文 : 戦後日中台関係とその政治力学-台湾をめぐる国際関係-  
専門分野 : 東アジアの国際関係論、地域研究、日中台関係  
前職 : 国士舘大学 21 世紀アジア学部教授  
非常勤講師 : 愛知大学大学院  
学会 : アジア政経学会、日本国際政治学会、日本台湾学会

## 著書出版

---

### 清水麗(共著)

「日台関係史 1945-2008」

東京大学出版会

2009年3月

## 雑誌掲載

---

いまどきの学生ルポ(5)「メモをとれない学生」

『人事労務』2008年3月1日号

「台湾の新総統就任と日中台関係」

『改革者』2008年9月号

## 海外出張

---

2008年10月28日-11月1日 台湾

2009年3月25日-29日 台湾

## 田村和寿(たむら かずひさ) 教授

---



出生年 : 1941年

在籍 : 2008年4月～

最終学歴 : 早稲田大学第一政治経済学部経済学科

学位 : 経済学士

学位論文 : 消費高次化社会における消費函数の研究

専門分野 : 都市・地域研究、まちづくり論、経済学、文化政策論

前職 : (株)都市計画連合アトリエ代表取締役

亜細亜大学地域産学公連携推進室コーディネーター

早稲田大学芸術学校都市デザインコース講師

学会 : 早稲田大学都市計画フォーラム

社会的活動 : 武蔵野市行政功労者

## 時本識資(ときもと つねつぐ) 教授

---



出生年 : 1959年

在籍 : 2006年4月～

最終学歴 : 日本体育大学大学院体育学研究科 修了

学位 : 修士(体育学)、博士(政治学)

学位論文 : 戦後日本におけるスポーツ行政構造と政策に関する研究

専門分野 : スポーツ政策論

資格 : 国会議員政策秘書資格

学会 : 日本体育学会、日本体育・スポーツ政策学会

社会的活動 : 大学評価・学位授与機構学位審査会専門委員 等

## 中 林 伸 浩 (なかばやし のぶひろ) 教授

---



出 生 年 : 1941 年  
在 籍 : 2007 年 4 月～  
最 終 学 歴 : 東京大学大学院社会学研究科文化人類学専攻博士課程  
単位修得退学  
学 位 : 博士(人間科学)(大阪大学)  
学 位 論 文 : 「国家を生きる社会・・・西ケニア・イスハの氏族」  
専 門 分 野 : 文化人類学  
前 職 : 金沢大学文学部人間学科教授  
留 学 : 英国ケンブリッジ大学(1969.9～1971.3)  
学 会 : 日本アフリカ学会、比較家族史学会

## 今 泉 隆 裕 (いまいずみ たかひろ) 講師

---



出 生 年 : 1975 年  
在 籍 : 2008 年 4 月～  
最 終 学 歴 : 法政大学大学院人文科学研究科修士課程 日本文学専攻 修了  
学 位 : 修士(文学)  
専 門 分 野 : 日本文学、宗教学  
前 職 : 法政大学国際日本学研究所学術研究員  
学 会 : 日本宗教学会、能楽学会、楽劇学会、漢文教育学会

## Utiraruto Otehode (ウチラルト) 講師

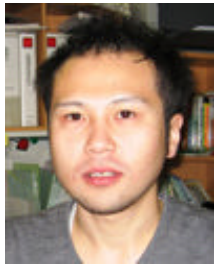
---



出 生 年 : 1974 年  
在 籍 : 2009 年 4 月～  
最 終 学 歴 : 一橋大学大学院社会学研究科地球社会研究専攻博士課程  
学 位 : 修士(文化人類学)  
学 位 論 文 : 中国における気功の社会史 一近代、科学、宗教  
専 門 分 野 : 文化人類学  
留 学 : 東京外国語大学  
The Institute Hampstead Garden Suburb, London  
北京第二外国語学院  
学 会 : 日本文化人類学会、日本現代中国学会、「宗教と社会」学会、中国社会文化学会

## 田中宏和（たなか ひろかず）講師

---



出生年 : 1977 年  
在籍 : 2008 年 4 月～  
最終学歴 : 国士舘大学大学院スポーツ・システム研究科博士後期課程  
単位取得後退学  
学位 : 修士(体育科学)  
学位論文 : 戦後日本におけるスポーツ政策の展開に関する研究  
—「体育政策」から「スポーツ政策」への転換—  
専門分野 : スポーツ行政学、スポーツ政策学、スポーツマーケティング  
前職 : 国士舘大学大学院スポーツ・システム研究科 助手  
学会 : 日本体育学会、日本体育・スポーツ政策学会、  
日本 NPO 学会、日本体育・スポーツ経営学会、  
日本スポーツマネジメント学会

## 松谷満（まつたに みつる）講師

---



出生年 : 1974 年  
在籍 : 2008 年 4 月～  
最終学歴 : 大阪大学大学院人間科学研究科(人間科学専攻) 博士後  
期課程 単位取得後退学  
学位 : 博士(人間科学)  
学位論文 : 脱政党政治と価値意識—政治文化論の再構築に向けて  
専門分野 : 社会学、社会調査法  
前職 : 徳島大学全学共通教育センター講師  
資格 : 専門社会調査士  
学会 : 日本社会学会、関西社会学会、「宗教と社会」学会  
受賞・表彰 : Japan General Social Surveys 優秀論文 受賞(2003.5)

### 学会・研究会発表

---

#### 松谷満

「若者におけるポピュリズムの支持基盤——ミリュー・アプローチによる実証的検討」

日本社会学会

2008 年 11 月 24 日 於東北大学

#### 松谷満

「若者におけるポピュリズムの支持基盤——ミリュー・アプローチによる実証的検討」

茨城大学地域総合研究所研究会

2009 年 1 月 28 日 於茨城大学

#### 松谷満

「価値変容と政党選好」

2008 年度二次分析研究会

2009 年 1 月 30 日 於東京大学

## 松谷満

「ポスト 55 年体制期における公明党の支持層」  
「宗教と社会」学会関西地区大会  
2009 年 3 月 28 日 於関西学院大学

## 論文掲載

樋口直人、伊藤美登里、田辺俊介、**松谷満**

「アクティビズムの遺産はなぜ相続されないのか——日本における新しい社会運動の担い手をめぐって」  
『アジア太平洋レビュー』5: 53-67  
2008 年

## 松谷満

「価値変容と政党選好」  
『World Values Survey (世界価値観調査) を用いた実証研究: 政治・家族 (SSJ Data Archive Research Paper Series 41)』5-24  
2009 年

## 松谷満

「若者におけるポピュリズムの支持基盤——ミリュー・アプローチによる実証的検討」  
『茨城大学地域総合研究所年報』42: 41-59  
2009 年

## その他

### ○助成金・補助金等

**松谷満** (研究代表者)

財団法人カシオ科学振興財団平成 20 年度研究助成

「ローカルパーティーの現代社会論——個人化社会における政治の再構築をめぐる困難」

## 青山鉄兵 (あおやま てっぺい) 助教



出生年 : 1980 年  
在籍 : 2008 年 4 月～  
最終学歴 : 東京大学大学院教育学研究科総合教育科学専攻生涯学習基盤経営コース博士課程 単位取得満期退学  
学位 : 修士(教育学)  
専門分野 : 社会教育、青少年教育  
学会 : 日本生涯教育学会、教育史学会、日本教育社会学会、日本デュイ学会、日本ボランティア学習協会  
社会的活動 : 独立行政法人国立青少年教育振興機構客員研究員  
日本ボランティア学習協会幹事  
生涯学習・社会教育研究促進機構事務局長補佐兼「生涯学習・社会教育研究ジャーナル」編集委員会幹事  
(財)東京 YMCA 野尻学荘スタッフ

## 著書出版

---

青山鉄兵(共著)森井利夫監修・秋山胖編著  
『統合キャンプハンドブック』久美出版

## 学会・研究会発表

---

青山鉄兵(単)  
「戦後社会教育におけるグループワーク論の成立過程」  
教育史学会第 52 回研究発表

## 論文掲載

---

青山鉄兵(単)  
「青少年教育施設におけるボランティア活動の現状と課題」  
『日本生涯教育学会論集』第 29 号,pp.53-62.

## 青山鉄兵(単)

「国公立・民間の青少年教育施設・団体の事業運営に関する調査研究報告書」執筆  
国立青少年教育振興機構

## 講演会・研修会講師

---

埼玉県「放課後子ども教室コーディネーター研修会」及び「同安全管理員等研修会」講師

## その他

---

社団法人日本弘道会「新教育基本法国会議事録集(上下巻)」編集

## 大学院

### 工学研究科 (Graduate School of Engineering)

#### 宮坂 力 (みやさか つとむ) 教授

---



出生年 : 1953 年  
在籍 : 2001 年 12 月～  
最終学歴 : 東京大学大学院工学系研究科合成化学専攻博士課程  
学位 : 工学博士  
学位論文 : 光合成初期過程の電気化学シミュレーション  
専門分野 : 光電気化学および分子エレクトロニクス  
前職 : 富士写真フイルム足柄研究所主任研究員  
現職 : 大学ベンチャー ベクセル・テクノロジーズ株式会社 会長 (兼務)  
留学 : カナダ・ケベック大学トアリビエール校生物物理学科 (1979-1980)  
学会 : 日本化学会、電気化学会、光化学協会、高分子学会、アメリカ電気化学会  
社会的活動 : 東京大学大学院総合文化研究科客員教授  
電気化学会理事  
日本化学会関東支部幹事  
経済産業省:地域イノベーション創造研究事業のプロジェクトリーダー  
NEDO 若手プロジェクトの審査委員  
受賞・表彰 : (財)化学技術戦略推進機構「アカデミアショーケース」 (2002)  
横浜市ベンチャービジネスプランコンテスト「アカデミー賞」 (2004)  
Scientific American 50 selection (2005)  
GSC(グリーンサステナブルケミストリー)・文部科学大臣賞 (2009)

#### 著書出版

---

##### 宮坂力 (監修)

「新概念太陽電池と製造プロセス」  
シーエムシー出版, 2009 年

##### 手島健次郎、池上和志、宮坂力

「フレキシブル色素増感太陽電池と光キャパシタへの応用」  
「最新太陽電池総覧」豊島安健、内田聡 監修、技術情報協会  
2008 年



**宮坂力**、手島健次郎、瓦家正英、**池上和志**、池田信之  
「プリンタブル技術によるプラスチック色素増感太陽電池の開発」  
太陽エネルギー 有効利用最前線、NTS出版  
2008年

#### 学会・研究会発表

---

**宮坂力**、**池上和志**、手島健次郎、瓦家正英  
「低コストプラスチック色素増感太陽電池モジュールの非真空製造」  
学振 175 委員会 第5回次世代太陽光発電システムシンポジウム  
2008年6月26日 於宮崎市民プラザ(宮崎市)

**池上和志**、**宮坂力**  
「プラスチック色素増感太陽電池モジュール用の高耐久性電解液の開発」  
日本化学会第2回関東支部大会  
2008年9月18日 於群馬大学桐生キャンパス

河野正教、**池上和志**、**宮坂力**  
「有機色素を用いたプラスチック色素増感太陽電池の耐久性の検討」  
日本化学会第2回関東支部大会  
2008年9月18日 於群馬大学 桐生キャンパス

小島陽広、手島健次郎、白井靖男、**宮坂力**  
「ハロゲン化鉛系化合物を可視光増感剤に用いた新規光電気化学セル (10)」  
光化学討論会  
2008年9月11日～13日 於大阪府立大学中百舌鳥キャンパス

**宮坂力**、**池上和志**  
「プラスチック色素増感太陽電池の開発(16) エネルギー変換効率に及ぼす電解液中のヨウ化物イオン濃度依存性」  
光化学討論会  
2008年9月11日～13日 於大阪府立大学中百舌鳥キャンパス

手島健次郎、三好幸三、**池上和志**、**宮坂力**  
「プラスチック色素増感太陽電池の開発(17) 光透過型還元触媒層の設計」  
光化学討論会  
2008年9月11日～13日 於大阪府立大学中百舌鳥キャンパス

渡邊誠、**宮坂力**  
「色素増感系と導電性高分子を用いる可視光下での環境浄化(1) / フェノール類の分解」  
第2回日本化学会関東支部大会  
2008年9月18日～19日 於群馬大学桐生キャンパス

河野正教、**池上和志**、**宮坂力**  
「有機色素を用いたプラスチック色素増感太陽電池の耐久性の検討」,  
第2回日本化学会関東支部大会  
2008年9月18日～19日 於群馬大学桐生キャンパス

## 池上和志、宮坂力

「プラスチック色素増感太陽電池モジュール用の高耐久性電解液の開発」,

第2回日本化学会関東支部大会

2008年9月18日～19日 於群馬大学桐生キャンパス

## 宮坂力

「高出力、高耐久色素増感プラスチック太陽電池の開発」

高分子同友会第27回総合講演会

2008年10月28日 於化学会館ホール

## 論文掲載

---

### 宮坂力

「印刷で作るプラスチック色素増感太陽電池モジュール」

電子材料 47(4) pp.61-67

2008年

### 宮坂力

「色素増感光電変換とライフワーク 化学で作る太陽電池を実用化へ」

化学と工業 61(7) pp.720-722

2008年

### 宮坂力

「フレキシブル太陽電池」

未来材料 8(12) pp.19-24

2008年

## 講演会・研修会講師

---

### 宮坂力

「光エネルギーを直接電力として貯蔵する光キャパシタ」

『環境問題に貢献するエネルギー貯蔵・製造新材料』講演会、関東高分子若手研究会、  
高分子学会主催

2008年6月14日 於東京大学本郷キャンパス

### 宮坂力

日本化学会講演会「未来を担うエネルギー技術・水素エネルギーと太陽エネルギー」

色素増感型太陽電池のモジュール開発

2008年6月27日 於日本化学会7階ホール

### 宮坂力

「プリンタブルなプラスチック色素増感太陽電池モジュールの開発」

「国際フロンティア産業メッセ2008」講演

2008年10月9日 於財団法人神戸市産業振興財団、神戸国際展示場2号館(ポートアイランド内)

### 宮坂力

「超低コストのフィルム型太陽電池の製作」

環境共生型エネルギーに関する最新研究動向

光機能材料研究会

2008年11月14日 於東京大学先端科学技術研究センター 4号館講堂

### 宮坂力

「プリンタブル、フレキシブル色素増感太陽電池の開発」

平成 20 年度電気化学会産学フォーラム講演会—太陽光エネルギー変換デバイスの現状と課題解決に向けて—

2008 年 11 月 15 日 於東京大学大学院理学系研究科化学本館講堂

### 宮坂力

「フレキシブル光発電デバイスの実用化開発の現状」

フレキシブル光発電／国内外の研究開発 色素増感太陽電池 実用化へ向けた技術戦略  
新社会システム総合研究所主催

2008 年 12 月 8 日 於明治記念館

### 宮坂力

「色素増感を用いる新しい太陽電池と光蓄電素子」

電解蓄電器研究会新年特別講演会

2009 年 1 月 8 日 於経団連会館(東京)

### 宮坂力

「色素増感太陽電池の基本原理と最近の動向」

機能性フィルム研究会講演会

2009 年 1 月 19 日 於東京理科大学森戸記念館 (東京)

### 宮坂力

「プリンタブル、フレキシブル色素増感光電変換素子の開発」

インターネットコンジャパン 2009 専門技術セミナー

2009 年 1 月 28 日 於東京ビッグサイト(東京)

### 宮坂力

「プリンタブル、フレキシブル色素増感太陽電池の開発動向」

プリンタブル・エレクトロニクスシンポジウム

2009 年 2 月 19 日 於東京ビッグサイト(東京)

### 宮坂力

「プラスチック系色素増感太陽電池の開発」

第 4 回光応用新産業創出フォーラム

2009 年 2 月 27 日 於慶応義塾大学三田キャンパス(東京)

### 国際学会・シンポジウムでの発表・講演

---

T. Miyasaka, M. Ikegami, M. Kawaraya, and K. Teshima,

“Green printable design for plastic dye-sensitized solar cells and integrated modules based on low-temperature technologies”,

214th ECS Meeting, Joint International meeting with ECS of Japan, Honolulu, Hawaii, October 12-17, 2008

T. Muto, **M. Ikegami**, and **T. Miyasaka**,

“PEDOT-PSS-catalyzed counterelectrode for plastic dye-sensitized solar cells: Effect of surface area on the I<sup>3-</sup> reduction activity and cell performance”,

214th ECS Meeting, Joint International meeting with ECS of Japan, Honolulu, Hawaii, October 12-17, 2008

M. Kawano, **M. Ikegami**, and **T. Miyasaka**,

“Plastic type dye-sensitized solar cells using electrolytes with a minimum iodine concentration to improve light management” ,

214th ECS Meeting, Joint International meeting with ECS of Japan, Honolulu, Hawaii, October 12-17, 2008

A. Kojima, K. Teshima, Y. Shirai, and **T. Miyasaka**,

“Novel photoelectrochemical cell with mesoscopic electrodes sensitized by lead-halide compounds (11)”,

214th ECS Meeting, Joint International meeting with ECS of Japan, Honolulu, Hawaii, October 12-17, 2008

#### **宮坂力**

“Flexible dye-sensitized solar cells and integrated modules for low-cost photovoltaic systems”

1st Photonics and OptoElectronics Meetings (POEM), Wuhan National Laboratory for Optoelectronics  
2008年11月24日～27日 於 Huazhong University of Science and Technology (華中科技大学、武漢、中国)

#### **宮坂力**

“Green printable dye-sensitized photovoltaic cells by plastic technologies”

International Symposium on Solar Cells and Solar Fuels

2008年12月10日～12日 於大連工科大学(中国、大連)

#### **宮坂力**

“Material solutions to green printable dye-sensitized photovoltaic cells”

The 3rd Japan-Korea Bilateral Workshop on Dye-sensitized and Organic Solar Cells

2008年12月18日から19日 於北九州国際会議場

#### **雑誌掲載**

---

##### **宮坂力**

「ユーザーの選択肢広めるベンチャーの技術開発」

環境ビジネス 2009年4月号、pp.44-45

株式会社ビジネス出版

#### **新聞記事掲載**

---

##### **宮坂力**

「新型太陽電池 相次ぎ実用化」

日経産業新聞夕刊 第1面

2008年6月30日

## 宮坂力

「プラ製色素増感太陽電池 耐久性 4-6 倍に向上 桐蔭横浜大、用途拡大へ」  
日刊工業新聞  
2009年2月24日

## 海外出張

---

### 宮坂力

214th ECS Meeting, Joint International meeting with ECS of Japan, Honolulu, Hawaii, October 12-17, 2008

### 宮坂力

精華大学材料工学科セミナー、精華大学、北京、中国 18-20 November 2008

### 宮坂力

1st Photonics and Optoelectronics Meetings (POEM), Wuhan National Laboratory for Optoelectronics, Huazhong University of Science and Technology (华中科技大学、武漢、中国), 24-27 November 2008

## 特許申請等

---

### 宮坂力

特許登録, 「光発電体シート、それを用いた太陽光発電用ユニット及び発電装置」  
特許第 4233260 号(出願 2002-060938)

## その他

---

### ○表彰・受賞

河野正教(指導教員:宮坂力)

桐蔭医用工学国際シンポジウム 2008 ポスター賞受賞  
2008年10月31日

川上直毅(指導教員:宮坂力)

「ものづくり技術交流会」ポスター賞受賞  
2008年11月25日

GSC(グリーンサステナブルケミストリー)・文部科学大臣賞 (2009年3月)

## 大塚 雅人 (おおつか まさと) 准教授

---



出生年 : 1965 年  
在籍 : 2004 年 4 月～  
最終学歴 : 岡山大学医学部  
学位 : 医学博士  
学位論文 : Otsuka M, Itagane H, Haze K: Clinical significance of improved persistent defect by thallium-201 reinjection imaging in the subacute phase of myocardial infarction. J Cardiol 33; 67-74, 1999  
専門分野 : 循環器病学、心血管カテーテルインターベンション、血管内超音波、心臓 CT  
前職 : 大阪市立総合医療センター循環器内科医長  
現職 : 横浜総合病院ハートセンター循環器科部長  
留学 : Erasmus Medical Center, Rotterdam (2005.12～2007.3)  
資格 : 医師免許, 日本循環器学会認定循環器専門医, 日本内科学会認定内科医, 日本心血管インターベンション学会認定指導医  
学会 : 日本循環器学会、日本心臓病学会、日本心血管インターベンション治療学会、日本冠疾患学会、日本内科学会  
受賞・表彰 : 1999 年日本冠疾患学会賞  
2003 年日本心臓病学会 Cardiovascular Imaging Award

### 学会・研究会発表

---

富谷美香、大西恵美、新井孝章、霜越理恵、相澤敬人、菅原重忠、中村光哉、梅田研、**大塚雅人**  
「超音波検査による下肢動脈閉塞性疾患の検出・評価に関する検討—CT 血管撮影との比較」  
日本超音波医学会第 81 回学術集会  
2008 年 5 月 25 日 於神戸

大西恵美、富谷美香、梅田研、霜越理恵、新井孝章、菅原重忠、中村光哉、東田隆治、**大塚雅人**  
「総腸骨動脈の複雑形態病変の診断に超音波検査が有用であった一例」  
第 33 回日本超音波検査学会  
2008 年 6 月 14 日 於前橋

竹中創、**大塚雅人**、中村光哉、梅田研、東田隆治  
「診断困難であった大動脈基部解離に伴う急性心筋梗塞症の 1 例」  
第 6 回神奈川・県北部 ACS 研究会  
2008 年 6 月 19 日 於横浜

**Masato Otsuka**, Shigetada Sugahara, Mitsuchika Nakamura, Takaaki Kanno, Ken Umeda  
"Positioning error of IVUS-guided stent deployment"  
第 17 回日本心血管インターベンション学会学術集会  
2008 年 7 月 4 日 於名古屋

梅田研、**大塚雅人**、中村光哉、菅原重忠、東田隆治

「運動負荷 ABI 検査および CT 検査が診断および治療に有用であった総腸骨動脈狭窄による間欠性跛行の 1 例」

第 209 回日本循環器学会関東甲信越地方会

2008 年 9 月 27 日 於東京

**小田川美伯**、安村佑樹、**川島徳道**、**大塚雅人**、竹中創、中村光哉、梅田研、官野高明、**直江史郎**

「IVUS カテーテル(Atlantis SR Pro2)の使用後ガイドワイヤーポート劣化に関する検討」

第 17 回関東甲信越 IVUS 研究会

2008 年 10 月 31 日 於東京

### **大塚雅人**

「IVUS ガイド下ステント留置における Positioning Error」

第 11 回 Cardiovascular Imaging Frontier 研究会

2008 年 11 月 29 日 於東京

**小田川美伯**、官野高明、**大塚雅人**、竹中創、中村光哉、東田隆治、梅田研、**直江史郎**

「血管内超音波カテーテルの使用後ガイドワイヤーポート劣化に関する検討」

Complex Cardiovascular Therapeutics 2009

2009 年 1 月 31 日 於神戸

官野高明、**小田川美伯**、**大塚雅人**、梅田研、中村光哉、竹中創、東田隆治、**直江史郎**

「血管内超音波カテーテル・ガイドワイヤーポート劣化に関する検討」

第 73 回日本循環器学会総会・学術集会

2009 年 3 月 20 日 於大阪

富谷美香、新井孝章、霜越理恵、大西恵美、桜井直子、中村春美、竹中創、中村光哉、梅田研、東田隆治、**大塚雅人**

「血管エコー検査による下肢動脈閉塞性疾患の検出評価に関する検討—CT 血管撮影との比較—」

第 73 回日本循環器学会総会・学術集会

2009 年 3 月 20 日 於大阪

山本章世、上村優香、萩原亮子、若木新子、**大塚雅人**、梅田研、東田隆治

「心電図モニター装着用“3 ウェイポーチ”の快適性評価」

第 73 回日本循環器学会総会・学術集会

2009 年 3 月 21 日 於大阪

### **論文掲載**

---

**Otsuka M**, Sugahara S, Umeda K, Nakamura M, Nakamura A, Bonkohara Y, Tsurumi Y

Utility of multislice computed tomography as a strategic tool for complex percutaneous coronary intervention.

*Int J Cardiovasc Imaging*, 24; 201-210, 2008

**Otsuka M**, Bruining N, Van Pelt NC, Mollet NR, Ligthart JMR, Vourvouri E, Hamers R, De Jaegere P, Wijns W, Van Domburg RT, Stone GW, Veldhof S, Verheye S, Dudek D, Serruys PW, Krestin GP, De Feyter PJ

Quantification of coronary plaque by 64-slice computed tomography: A comparison with quantitative intracoronary ultrasound. *Invest Radiol*, 43; 314-321, 2008

Pugliese F, Weustink AC, Van Mieghem C, Alberghina F, **Otsuka M**, Meijboom WB, Van Pelt N, Mollet NR, Cademartiri F, Krestin GP, Hunink MG, de Feyter PJ

Dual-source coronary computed tomography angiography for detecting in-stent restenosis. *Heart*, 94: 848-854, 2008

Bruining N, Tanimoto S, **Otsuka M**, Weustink A, Ligthart J, de Winter S, van Mieghem C, Nieman K, de Feyter PJ, van Domburg RT, Serruys PW

Quantitative multi-modality imaging analysis of a bioabsorbable poly-L-lactic acid stent design in the acute phase: a comparison between 2- and 3D-QCA, QCU and QMSCT-CA. *EuroInterv*, 4; 285-291, 2008

**Masato Otsuka**, Shuzou Tanimoto, Georgios Sianos, Neville Kukreja, Annick C. Weustink, Patrick W. Serruys, Pim J. De Feyter

"Radio-lucent" and "radio-opaque" coronary stents characterized by multislice computed tomography  
Int J Cardiol. 132 pp.e8 - e10

2009年1月31日

### 講演会・研修会講師

---

「『冠動脈画像診断 UP TO DATE』 —スタチンによるプラーク治療の現状・展望—」

第42回川崎市内科医会定時総会, 記念講演

2008年5月10日 於川崎

「冠動脈 CT 情報の PCI における有効利用」

京都北部 PCI 研究会

2008年5月17日 於舞鶴

「IVUS ガイドで, “ジオミス”のない適性 DES 留置を目指す」

京都北部 PCI ライブデモンストレーション

2008年5月17日 於舞鶴

BASIC COURSE (講師)

第16回関東甲信越 IVUS 研究会

2008年7月18日

「PCI に活かす IVUS, CT -ジオグラフィックな有効利用- (特別講演)」

第7回群馬 IVUS 研究会

2008年10月17日 於前橋

IVUS LEARNING CENTER (講師)

第17回関東甲信越 IVUS 研究会

2008年10月31日 於東京

### その他

---

京都北部 PCI ライブデモンストレーション (IVUS コメンテーター)

2008年5月17日

第56回日本心臓病学会学術集会・座長 (DSA・CT・MRI4)

2008年9月10日



第4回神奈川 IVUS 研究会学術集会・座長(症例検討)  
2008年9月12日

第17回関東甲信越 IVUS 研究会・座長(症例検討会1)  
2008年10月31日

### 三浦康弘 (みうら やすひろ) 准教授

---



出生年 : 1962年  
在籍 : 1996年4月～  
最終学歴 : 東京理科大学大学院理学研究科物理学専攻博士課程  
学位 : 博士(理学)  
学位論文 : Studies on Structure and Properties of Highly Conductive Langmuir-Blodgett Films Based on Metal(dmit)<sub>2</sub>  
専門分野 : 物理学、分子エレクトロニクス  
前職 : University of Houston, Department of Chemistry, Postdoctoral Research Fellow, 理化学研究所国際フロンティア研究システム・フロンティア研究花王(株)栃木研究所研究員  
留学 : University of Houston(1994～1996)  
学会 : 応用物理学会、応用物理学会 有機分子・バイオエレクトロニクス分科会、日本化学会、材料技術研究協会、日本MRS、高圧力学会  
社会的活動 : 材料技術研究協会・編集委員(1997～)、  
応用物理学会 有機分子・バイオエレクトロニクス分科会常任幹事(2003年4月～2005年3月)、  
Japanese Journal of Applied Physics 誌、特別編集委員(2004年10月～2006年1月)、  
Transaction of Materials Research Society of Japan 誌 特別編集委員(2005～)、  
東京大学物性研究所 外来研究員(2001～)、  
日本MRS 学術シンポジウム Session B 代表チェア(2006、2007)  
東京都狛江市水泳協会 監事(2007年～)、  
第84回日本選手権水泳競技大会競泳競技 兼  
第29回オリンピック競技大会 代表選手選考会  
桐蔭学園 Team Official  
受賞・表彰 : 東京理科大学理事長賞(1992)、  
1998年、2002年 材料技術研究協会討論会ポスター賞

## 著書出版

---

(2006 年度未掲載分 1 件)

### 三浦康弘

『第 2 版 油化学辞典』日本油化学会編(分担執筆箇所:Lagmuir-Blodgett 膜、 $\pi$ -A 曲線、極限面積など、17 の見出し語について執筆)丸善(2006).

## 学会・研究会発表

---

### 三浦康弘、片岡幹悠、井上杏子、杉道夫

「長鎖アルキルアンモニウム-Au(dmit)<sub>2</sub> LB 膜の形態評価(Ⅲ)」

2008 年秋季第 69 回応用物理学会学術講演会

2008 年 9 月 2 日 於中部大学(愛知県春日井市)

### 三浦康弘、杉道夫、松林和幸、上床美也

「Metal(dmit)<sub>2</sub> に基づく導電性 LB 膜の静水圧力下の電気伝導(Ⅲ)」

第 49 回高圧討論会

2008 年 11 月 14 日 於姫路商工会議所(兵庫県姫路市)

### 三浦康弘、小林聡一郎、星野純一、井上杏子、杉道夫

「ジチオレン系金属錯体に基づく高導電性分子薄膜の構造評価」

第 8 回琉球大学物性研究会

2008 年 11 月 29 日 於琉球大学(沖縄県那覇市)

### 三浦康弘、井上杏子、星野純一、小林聡一郎、杉道夫

「長鎖アルキルアンモニウム-Au(dmit)<sub>2</sub> LB 膜の構造と電氣的性質(V)」

2009 年春季第 56 回応用物理学関係連合講演会

2009 年 3 月 31 日 於筑波大学(茨城県つくば市)

## 論文掲載

---

Yuichi Sugano, Yuki Koyano, Hiroko Moshino, **Yasuhiro F. Miura** and **Michio Sugi**

“Thermal Stability of the Hydrothermally-induced J-band in Merocyanine-containing LB Films”, Trans. Mater. Res. Soc. Jpn. **33**[1] (2008) 107-110.

Hiroko Moshino, Yuki Koyano, Yuichi Sugano, **Yasuhiro F. Miura** and **Michio Sugi**

“Hydrothermal and Dry-heat Treatments in Merocyanine-containing Langmuir-Blodgett Films”, Trans. Mater. Res. Soc. Jpn. **33**[1] (2008) 103-106.

Yuki Koyano, Yuichi Sugano, Hiroko Moshino, **Yasuhiro F. Miura** and **Michio Sugi**

”Restoration of J-band by Hydrothermal Treatments in Dry-heat Merocyanine LB Films”, Trans. Mater. Res. Soc. Jpn. **33**[1] (2008) 95-98.

**Yasuhiro F. Miura**, Masaaki Kitao, Haruki Matsui, **Michio Sugi**, Masato Hedo, Kazuyuki Matsubayashi and Yoshiya Uwatoko

”Observation of Metallic Resistance down to 56 K in Langmuir-Blodgett Films based on Ditetradecyldimethylammonium-Au(dmit)<sub>2</sub> Salt”, Jpn. J. Appl. Phys., **47**(2008) 8884-8886.

**Yasuhiro F. Miura**, Masaaki Kitao, Haruki Matsui, **Michio Sugi**, Masato Hedo, Kazuyuki Matsubayashi, Yoshiya Uwatoko

“Observation of Metallic Resistance Down to 56 K in Langmuir-Blodgett Films Based on Ditetradecyldimethylammonium-Au(dmit)<sub>2</sub> Salt”, Jpn. J. Appl. Phys. **47** (2008) 8884-8886.

Hiroko Moshino, Yuki Koyano, Syuji Mouri, **Yasuhiro F. Miura** and **Michio Sugi**

“Kinetics of Thermal Dissociation-Restoration Processes of J-Aggregate”, Jpn. J. Appl. Phys., **48** (2009) 051504 (7 pages).

### 講演会・研修会講師

---

#### 三浦康弘

「導電性ラングミュア・プロジェクト膜の開発ー金属性から超伝導へー」

高分子学会 印刷・情報記録・表示研究会 および 光反応・電子用材料研究会 合同研究会

2008年12月4日 於 千里ライフサイエンスセンター(大阪府豊中市)

### 国際学会・シンポジウムでの発表・講演

---

**Yasuhiro F. Miura**, Mikihiro Kataoka, Takaharu Seki, Masaaki Kitao, Haruki Matsui, **Michio Sugi**, Masato Hedo, Kazuyuki Matsubayashi, Yoshiya Uwatoko,

“Formation of Giant Crystalline Domains in the Dialkyldimethylammonium-Au(dmit)<sub>2</sub> LB Films and the Extended Metallic Temperature Dependence of Resistance”

International Conference on Science and Technology of Synthetic Metals (ICSM2008)

July 6, 2008, Porto de Galinhas, Pernambuco, Brazil.

**Yasuhiro F. Miura**, Kyoko Inoue, **Michio Sugi**, Kazuyuki Matsubayashi, Yoshiya Uwatoko,

“Pressure Effect on Resistance of Alkylammonium-Au(DMIT)<sub>2</sub> LB Films”

Korea-Japan Joint Forum (KJF2008)

October 25, 2008., Chitose Institute of Science and Technology, Chitose, Hokkaido, Japan.

**Yasuhiro F. Miura**, Shin-ichi Morita, **Michio Sugi**,

“Highly Conductive Molecular Thin Films -From Metallic toward Superconducting Properties-”

Symposium on Biomedical Engineering 2008 (TOIN BME 2008)

October 31, 2008, Toin University of Yokohama, Yokohama, Kanagawa, Japan.

**Yasuhiro F. Miura**, Souichiro Kobayashi, Kyoko Inoue, Jun-ichi Hoshino, Yuuta Ito, Takaharu Seki, **Michio Sugi**,

“Surface Morphology and Electrical Properties of Alkylammonium-Au(dmit)<sub>2</sub> Langmuir-Blodgett Films”

The 8th International Conference on Nano-Molecular Electronics (ICNME 2008)

December 18, 2008, Kobe Portopia Hotel, Kobe, Hyogo, Japan.

**Yasuhiro F. Miura**, Souichiro Kobayashi, Kyoko Inoue, Jun-ichi Hoshino, **Michio Sugi**,

“Fabrication and Characterization of Highly Conductive Au(dmit)<sub>2</sub> LB Films”

5th International Conference on Molecular Electronics and Bioelectronics (M&BE5)

March 17, 2009, Miyazaki International Conference Hall, Miyazaki, Japan

### 海外出張

---

#### 三浦康弘

国際学会 International Conference on Science and Technology of Synthetic Metals (ICSM2008)

July 6-11, 2008, Porto de Galinhas, Pernambuco, Brazil.

## その他

### ○助成金・補助金等

財団法人 池谷科学技術振興財団 研究助成金(2007～2008)

文部科学省 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業  
—社会連携推進経費—(2007～)

### ○その他

2008年4月18日 日本マスターズ水泳短水路大会(習志野会場)男子F区分(45-49歳)  
200M バタフライ 4位

## 池上 和志 (いけがみ まさし) 講師



出生年 : 1973年  
在籍 : 2006年4月～  
最終学歴 : 筑波大学大学院化学研究科化学専攻修了  
学位 : 博士(理学)  
学位論文 : Photochemical Reactions of Intra- and Intermolecularly Hydrogen Bonded Compounds  
(分子内及び分子間水素結合系の光化学反応に関する研究)  
専門分野 : 光化学、光電気化学  
前職 : ペクセル・テクノロジーズ(株) 研究開発部博士研究員  
学会 : 日本化学会、光化学協会、日本光医学・光生物学会、電気化学会、アメリカ電気化学会

### 学会・研究会発表

宮坂力、池上和志、手島健次郎、瓦家正英

「低コストプラスチック色素増感太陽電池モジュールの非真空製造」

学振175委員会 第5回次世代太陽光発電システムシンポジウム

2008年6月26日 於宮崎市民プラザ(宮崎市)

### 池上和志、宮坂力

「プラスチック色素増感太陽電池モジュール用の高耐久性電解液の開発」

日本化学会第2回関東支部大会

2008年9月18日 於群馬大学桐生キャンパス

### 河野正教、池上和志、宮坂力

「有機色素を用いたプラスチック色素増感太陽電池の耐久性の検討」

日本化学会第2回関東支部大会

2008年9月18日 於群馬大学 桐生キャンパス

### 池上和志

“Dye-sensitized plastic photovoltaic cells and modules”1st Asian Plastic Electronics Conference and Showcase, The Mikkienium Seoul Hilton Hotel, Seoul, KOREA, 25-26 June, 2008

### **宮坂力、池上和志**

「プラスチック色素増感太陽電池の開発(16)エネルギー変換効率に及ぼす電解液中のヨウ化物イオン濃度依存性」  
2008年9月11日～13日 於大阪府立大学中百舌鳥キャンパス

### **手島健次郎、三好幸三、池上和志、宮坂力**

「プラスチック色素増感太陽電池の開発(17)光透過型還元触媒層の設計」  
2008年9月11日～13日 於大阪府立大学中百舌鳥キャンパス

### **河野正教、池上和志、宮坂力**

「有機色素を用いたプラスチック色素増感太陽電池の耐久性の検討」,  
第2回日本化学会関東支部大会  
2008年9月18日～19日 於群馬大学桐生キャンパス

### **池上和志、宮坂力**

「プラスチック色素増感太陽電池モジュール用の高耐久性電解液の開発」,  
第2回日本化学会関東支部大会  
2008年9月18日～19日 於群馬大学桐生キャンパス

### **池上和志**

「Design of green printable and flexible dye-sensitized photovoltaic cells」  
太陽光エネルギーの有効利用に関するワークショップ、大阪市立大学学内重点研究—都市環境の再生  
に向けた戦略的新展開  
2008年12月15日 於大阪市立大学文化交流センターホール

### **森田紗織、池上和志、宮坂力**

「低温成膜酸化チタンペーストによる多層膜作製と色素増感太陽電池の特性向上」  
電気化学会第76大会  
2009年3月29日(日)～3月31日(火) 於京都大学吉田キャンパス

### **小島陽広、手島健次郎、池上和志、宮坂力**

「色素増感太陽電池における白金担持ポラス対極の検討」  
電気化学会第76大会  
2009年3月29日(日)～3月31日(火) 於京都大学吉田キャンパス

### **池上和志、河野正教、甲村長利、原浩二郎、手島健次郎、宮坂力**

「プラスチック色素増感太陽電池の開発(19)有機色素の耐久性の検討」  
電気化学会第76大会  
2009年3月29日(日)～3月31日(火) 於京都大学吉田キャンパス

### **山本慶太、手島健次郎、池上和志、宮坂力**

「プラスチック色素増感電極を用いたフレキシブル光キャパシタ素子」  
電気化学会第76大会  
2009年3月29日(日)～3月31日(火) 於京都大学吉田キャンパス

### **論文掲載**

---

**M. Ikegami, J. Suzuki, K. Teshima, M. Kawaraya, and T. Miyasaka**

“Improvement in durability of flexible plastic dye-sensitized solar cell modules”, Solar Ener. Mater. Solar Cells, 93, 836-839(2009).

## 講演会・研修会講師

---

(2007 年度未掲載分 1 件)

### 池上和志

「電解液の封止技術と高効率化のポイント」

色素増感太陽電池の材料設計

2008 年3月25日 於東京流通センター

### 池上和志

「フィルム型色素増感太陽電池モジュール製作のポイント」

フィルム型太陽電池技術動向 色素増感太陽電池の現状と未来 オルガテクノプレセミナー

2008 年5月30日 於総評会館

### 池上和志

「色素増感太陽電池の現状と展望」

(株)プレスジャーナル 08 秋季 特別シンポジウム

徹底検証:太陽電池製造技術の最新動向

ー結晶系・薄膜系を中心に太陽電池製造技術・装置・材料の全貌を探るー

2008 年9月25日(木) 於学士会館

### 池上和志

「色素増感フィルム太陽電池の実用化開発と耐久性評価」

色素増感太陽電池の変換効率・耐久性向上

~モジュール化/低温TiO<sub>2</sub>/ペースト/電解質の固体化/電解液の封止/評価手法~

2008 年11月19日 於ゆうほうと

## 国際学会・シンポジウムでの発表・講演

---

**T. Miyasaka, M. Ikegami, M. Kawaraya, and K. Teshima,**

“Green printable design for plastic dye-sensitized solar cells and integrated modules based on low-temperature technologies”,

214th ECS Meeting, Joint International meeting with ECS of Japan, Honolulu, Hawaii, October 12-17, 2008

T. Muto, **M. Ikegami,** and **T. Miyasaka,**

“PEDOT-PSS-catalyzed counterelectrode for plastic dye-sensitized solar cells: Effect of surface area on the I<sup>3-</sup> reduction activity and cell performance”,

214th ECS Meeting, Joint International meeting with ECS of Japan, Honolulu, Hawaii, October 12-17, 2008

M. Kawano, **M. Ikegami,** and **T. Miyasaka,**

“Plastic type dye-sensitized solar cells using electrolytes with a minimum iodine concentration to improve light management”,

214th ECS Meeting, Joint International meeting with ECS of Japan, Honolulu, Hawaii, October 12-17, 2008

### 池上和志

“Green PV innovations by plastic dye-sensitized cells”

The 5th International Forum on New&Renewable Energy 2008

2008 年12月3日~5日 於全州 コンファレンスホール(韓国)

## 海外出張

---

### 池上和志

"Dye-sensitized plastic photovoltaic cells and modules"1st Asian Plastic Electronics Conference and Showcase, The Millennium Seoul Hilton Hotel, Seoul, KOREA, 25-26 June, 2008

### 池上和志

The 5th International Forum on New&Renewable Energy 2008  
2008年12月3日～5日 於全州 コンファレンスホール(韓国)

## その他

---

### ○表彰・受賞

宮坂力、池上和志、手島健次郎

2008年度GSC文部科学大臣賞 「印刷技術によるプラスチック色素増感太陽電池の開発と教育・普及活動

## 法務研究科法務専攻（法科大学院・Law School）

### 青山正明（あおやま まさあき）客員教授

---



出生年：1937年  
在籍：2003年4月～2008年3月・2008年4月～  
最終学歴：東京大学法学部  
専門分野：民事法  
前職：東京高等裁判所部総括判事、東京家庭裁判所長、  
福岡高等裁判所長官、桐蔭横浜大学法科大学院教授  
現職：弁護士  
社会的活動：弁護士（第二東京弁護士会）、国土交通省建設紛争審査  
会特別委員、第二東京弁護士会仲裁センター仲裁人候補  
者、独立行政法人水資源機構倫理懇談会座長  
受賞・表彰：瑞宝重光章（平成19年11月受章）

### 著書出版

---

青山正明 編著

「新訂 民事訴訟と不動産登記一問一答」

（株）テイハン 初版第1刷刊

2008年12月

### 井口寛二（いぐち かんじ）教授

---



出生年：1945年  
在籍：2005年4月～  
最終学歴：東京教育大学  
専門分野：労働法  
現職：弁護士



## 猪股孝史（いのまた たかし）教授

---



出生年 : 1959 年  
在籍 : 1994 年 4 月～  
最終学歴 : 中央大学大学院博士課程後期課程  
学位 : 法学修士  
学位論文 : 既判力論の構造的基礎  
—その客観的範囲を中心として—  
専門分野 : 民事訴訟法、民事紛争処理法  
前職 : 放送大学助教授  
学会 : 日本民事訴訟法学会、仲裁ADR法学会

### 論文掲載

#### 猪股孝史

「訴訟と仲裁合意」

商事法務 『民事司法の法理と政策(上)(下)』小島武司先生古稀祝賀 (下)305-334 頁

2008 年 8 月 23 日

### 国際学会・シンポジウムでの発表・講演

#### 猪股孝史

国際メディアエーション交渉研究会「調停・和解の理念と技法」コメンテーター

桐蔭横浜大学メディアエーション交渉研究所(助成・協力 社会科学国際交流江草基金)

2008 年 10 月 24 日

## 江口 眞樹子（えぐち まきこ）教授

---



出生年 : 1958 年  
在籍 : 2007 年 4 月～  
最終学歴 : 神戸大学大学院法学研究科博士後期課程  
学位 : 法学修士  
学位論文 : 企業の社会的責任について—フランス法における société と association に関する法の歴史的変遷を通じて—  
専門分野 : 商法、金融商品取引法  
前職 : 平成国際大学法学部助教授  
留学 : ドイツ連邦共和国ミュンヘン大学法学部(1987～1989)  
学会 : 日本私法学会、日本経済法学会  
社会的活動 : 加須地区消防組合情報公開・個人情報保護運営審議会会長

## 大澤 恒 夫（おおさわ つねお）教授

---



出生年 : 1954 年  
在籍 : 2005 年 4 月～  
最終学歴 : 中央大学大学院法学研究科民事法専攻博士後期課程修了  
学位 : 法学博士  
学位論文 : 「弁護士業務における対話の理念と技法—法と対話の専門家をめざして」  
専門分野 : 法的対話論、司法アクセス論、弁護士論、ADR 論、(弁護士としての主要業務)IT 分野における知的財産法、競争法、企業再建  
現職 : 弁護士(1981 年～現在)  
学会 : 日本民事訴訟法学会、日本法社会学会、法とコンピュータ学会(理事)、日本交渉学会、仲裁 ADR 法学会 司法アクセス学会(理事)  
社会的活動 : 財団法人ソフトウェア情報センター(SOFTIC)評議員、ソフトウェア紛争解決センター運営委員、「司法制度改革と先端テクノロジー」研究会委員、日本仲裁人協会会員、大阪大学大学院客員教授(ネゴシエーション講座)、インターカレッジ・ネゴシエーション・コンペティション審査員、日弁連業務改革委員会幹事

### 学会・研究会発表

---

(2007 年度未掲載分 1 件)

#### 大澤恒夫

「大学対抗交渉コンペティションと交渉教育」

第3部「教員・審査員参考演技と審査員・教員の視点」で、模擬仲裁の代理人役を務め、パネラーとしてディスカッションに参加

大阪大学・上智大学特色 GP シンポジウム

2008 年 2 月 11 日

#### 大澤恒夫

「法とのコンタクト」

セッションでの報告「法と人とを結ぶもの—弁護士の不在と非専門リソース」

日本法社会学会

2008 年 5 月 10 日

### 国際学会・シンポジウムでの発表・講演

---

#### 大澤恒夫

「桐蔭横浜大学におけるミディエーション交渉教育について」と題する報告

桐蔭横浜大学ミディエーション交渉研究所主催の「国際ミディエーション研究会」

2008 年 10 月 25 日

### 雑誌掲載

---

#### 大澤恒夫

「依頼者、相手方、そして対話」(1) (2)

法律のひろば 2008 年 7 月号、8 月号

## 大 藤 敏（おおとう さとし）教授

---



出 生 年 : 1940 年  
在 籍 : 2005 年 4 月～  
最 終 学 歴 : 中央大学法学部法律学科  
前 職 : 千葉地方裁判所所長、東京高等裁判所民事部総括判事  
現 職 : 弁護士  
社会的活動 : 医道審議会委員(医道分科会員及び保健師助産師分科会員(厚生労働省))、財団法人交通事故紛争処理センター本部審査員、平成 19 年、平成 20 年新司法試験審査委員(行政法)

## 岡 田 泰 亮（おかだ やすあき）教授

---



出 生 年 : 1945 年  
在 籍 : 2004 年 4 月～  
最 終 学 歴 : 早稲田大学法学部  
現 職 : 弁護士

## 蒲 俊 郎（かば としろう）教授

---



出 生 年 : 1960 年  
在 籍 : 2005 年 4 月～  
最 終 学 歴 : 慶應義塾大学法学部法律学科  
専 門 分 野 : 電子商取引 (E C)、労働法  
前 職 : 桐蔭横浜大学法学部客員教授  
現 職 : 弁護士  
学 会 : 日本私法学会、情報ネットワーク法学会、経営法曹会議、民事訴訟法学会、司法アクセス学会、日本法律家協会会員

## 論文掲載

---

### 蒲俊郎

「企業ポイントの概念整理及びポイントプログラム内容の不利益変更の有効性について」

「ボーダレス社会と法ーオスカー・ハルトヴィーク先生追悼」

信山社刊

## 河邊 義正 (かわべ よしまさ) 教授

---



出生年 : 1942 年  
在籍 : 2007 年 4 月～  
最終学歴 : 中央大学法学部法律学科  
専門分野 : 刑事実務  
前職 : 元東京高等裁判所判事部総括、  
1986-1990 司法研修所教官  
1986-1990 司法試験考查委員  
現職 : 弁護士(東京弁護士会)

## 小林 幸夫 (こばやし ゆきお) 教授

---



出生年 : 1954 年  
在籍 : 2005 年 4 月～  
最終学歴 : 中央大学法学部法律学科卒業  
専門分野 : 知的財産権訴訟 (特に特許侵害訴訟)  
現職 : 弁理士 (1979 年登録)、弁護士 (1995 年登録)

## 佐藤 歳二 (さとう としじ) 客員教授

---



出生年 : 1936 年  
在籍 : 2007 年 4 月～  
最終学歴 : 中央大学法学部  
専門分野 : 民事訴訟法、民事執行法、民事保全法、民事法総合  
前職 : 裁判官、早稲田大学法学部、同大学院法務研究科  
現職 : 弁護士  
学会 : 日本民事訴訟法学会、日本交通法学会、仲裁ADR法学会  
社会的活動 : 財団法人司法協会理事長、総務省電波監理審議会・審理官、東京証券取引所自主規制委員会委員

## 鈴木 純 (すずき じゅん) 教授

---



出生年 : 1949 年  
在籍 : 2005 年 4 月～  
最終学歴 : 東京大学法学部  
専門分野 : 一般民事事件  
現職 : 弁護士  
社会的活動 : 元 東京家庭裁判所調停委員('98.4～'02.3)  
元 東京地方裁判所調停委員('02.4～'06.3)  
元 第二東京弁護士会副会長('06.4～'07.3)  
現 東京地方裁判所鑑定委員('02.1～)

## 鈴木 達次 (すずき たつじ) 教授

---



出生年 : 1964 年  
在籍 : 2002 年 4 月～  
最終学歴 : 慶應義塾大学大学院法学研究科博士課程単位取得  
学位 : 法学修士  
専門分野 : 商法  
前職 : 愛媛大学法文学部助教授  
学会 : 日本私法学会、保険学会

## 鈴木 満 (すずき みつる) 教授

---



出生年 : 1942 年  
在籍 : 1996 年 4 月～  
最終学歴 : 岐阜大学農学部  
専門分野 : 経済法  
前職 : 公正取引委員会首席審判官  
現職 : 弁護士(横浜弁護士会)  
学会 : 日本経済法学会、日本流通学会、法と経済学会  
社会的活動 : 防衛省関東防衛局入札監視委員会委員長  
立川市入札等監視委員会委員長ほか

## 著書出版

---

### 鈴木満

「談合を防止する自治体の入札改革」

学陽書房

2008 年 8 月

## 論文掲載

---

### 鈴木満

「改正下請法に基づく勧告・公表事件の分析と違反防止への対策」  
公正取引 2008 年 11 月号 18～24 頁

### 鈴木満

「課徴金事件の判審決における争点の整理」  
横浜弁護士会専門実務研究 2009 年 3～20 頁

## 中 島 肇（なかじま はじめ）教授

---



出生年 : 1955 年  
在籍 : 2007 年 4 月～  
最終学歴 : 東京大学法学部  
専門分野 : 倒産法、企業法、民事法  
前職 : 東京高等裁判所判事

## 西 本 靖 宏（にしもと やすひろ）教授

---



出生年 : 1968 年  
在籍 : 2003 年 4 月～  
最終学歴 : 明治学院大学大学院法学研究科博士課程単位取得退学  
学位 : 法学修士  
Master of Legal Institutions (University of Wisconsin)  
学位論文 : 会社合併の法的構造と課税理論  
専門分野 : 租税法、行政法  
前職 : 大分大学経済学部 助教授  
留学 : University of Wisconsin Law School (97～99 年)  
学会 : 租税法学会、公法学会

## 論文掲載

---

### 西本靖宏

「インバージョンの変遷と対応策ーアメリカ連邦租税法における議論を中心として」  
中央経済社 税務弘報 56 卷 13 号 105-112 頁  
2008 年 12 月

## その他

---

### 西本靖宏

「租税法学会の動向」  
有斐閣 租税法研究 36 号 135-171 頁  
2008 年 6 月

## 早坂 禧子（はやさか とみこ）教授

---



出生年 : 1944 年  
在籍 : 1998 年 4 月～  
最終学歴 : 東北大学大学院法学研究科修士課程  
学位 : 法学修士  
専門分野 : 行政法  
前職 : 東京大学法学部助手  
学会 : 日本公法学会、国際憲法学会、日米法学会  
社会的活動 : 会計検査院情報公開審査会委員、神奈川県医療審議会委員、神奈川県国民健康保険審査会会長、横浜市情報公開・個人情報保護審査会委員、中央区情報公開審査会々長

## 廣江 健司（ひろえ けんし）教授

---



出生年 : 1948 年  
在籍 : 1993 年 4 月～  
最終学歴 : 早稲田大学大学院法学研究科修士課程  
学位 : 法学修士  
学位論文 : 植物新品種の国際的保護  
前職 : 東京大学助手、九州国際大学法経学部助教授  
現職 : 弁護士  
学会 : 国際私法学会、国際法学会  
社会的活動 : 第一東京弁護士会会員

## 著書出版

---

### 廣江健司

「国際民事関係法」

成文堂

2008 年

## 古野 豊秋（ふるの とよあき）教授

---



出生年 : 1943 年  
在籍 : 1993 年 4 月～  
最終学歴 : 中央大学大学院法学研究科修士課程  
学位 : 法学博士  
学位論文 : 違憲の憲法解釈  
専門分野 : 憲法学  
前職 : 桐蔭横浜大学法学部教授  
学会 : 日本公法学会、日独法学会、ドイツ国家学研究会 (DAS 研)、憲法裁判研究会、ドイツ憲法判例研究会、東京法哲学研究会

## 松本時夫（まつもと ときお）客員教授

---



出生年 : 1935年  
在籍 : 2000年4月～2008年3月・2008年4月～  
最終学歴 : 東京大学法学部  
前職 : 東京高等裁判所部総括判事、広島高等裁判所長官、  
桐蔭横浜大学法科大学院教授  
現職 : 弁護士  
留学 : Harvard Law School  
学会 : 日本刑法学会、日米法学会

## 三宅弘人（みやけ ひろと）教授

---



出生年 : 1934年  
在籍 : 1999年4月～  
最終学歴 : ノースウエスタン大学ロースクール修士課程修了  
学位 : 法学修士  
専門分野 : 民事法、民事訴訟法、倒産法  
前職 : 東京高等裁判所部総括判事、東京家庭裁判所長  
現職 : 弁護士(第一東京弁護士会)  
留学 : ノースウエスタン大学、シカゴ大学(1963～1965)  
資格 : LL. M.  
学会 : 民事訴訟法学会

## 宮島里史（みやじま さとし）教授

---



出生年 : 1951年  
在籍 : 1994年4月～  
学位 : 法学修士(中央大学)  
Master of Laws (Northwestern Univ. School of Law)  
学位論文 : 弁護権の意味と機能(中央大学)、  
Waiver of the Sixth Amendment Right to Counsel at the Pretrial Stages (Northwestern Univ. School of Law)  
専門分野 : 憲法、刑事訴訟法、少年法  
前職 : 桐蔭横浜大学法学部助教授  
留学 : Northwestern Univ. School of Law (U.S.A)  
学会 : 日本刑法学会、日米法学会



## 村瀬 統一（むらせ とういち）教授

---



出生年 : 1940 年  
在籍 : 2005 年 4 月～  
最終学歴 : 中央大学法学部  
専門分野 : 民事・行政法  
現職 : 弁護士  
学会 : 民事訴訟法学会  
社会的活動 : 民事調停委員

## 吉田 宣之（よしだ のぶゆき）教授

---



出生年 : 1945 年  
在籍 : 1993 年 4 月～  
最終学歴 : 中央大学大学院法学研究科刑事法専攻博士課程修了  
学位 : 法学博士  
学位論文 : 違法性の本質と行為無価値  
専門分野 : 刑法  
前職 : 武蔵野短期大学国際教養学科教授  
現職 : 弁護士  
留学 : ルードウィッヒ・マクシミリアン大学  
法学部刑事法研究所、レーゲンスブルク大学法学部刑事  
法研究室、ヴェリップブルク大学ヒルゲンドルフ研究室  
学会 : 日本刑法学会、日本生命倫理学会、東京大学刑事判例研  
究会、中央大学刑事判例研究会  
社会的活動 : 神奈川県学生柔道連盟会長、  
自由民主党かながわ政治大学校校長

**奥井理予 (おくい みちよ) 講師**

---



出生年 : 1972 年  
在籍 : 2005 年 4 月～  
最終学歴 : 広島大学大学院医学系研究科博士課程後期修了  
学位 : 博士(薬学)  
学位論文 : ダウン症関連領域からクローニングされたMNB遺伝子の発現解析  
専門分野 : 分子生物学、細胞生物学  
前職 : 慶応義塾大学医学部助手  
留学 : St. Jude Children's Research Hospital (2008.11～留学中)  
資格 : 薬剤師免許  
学会 : 日本分子生物学会、日本薬学会、日本癌学会

**学会・研究会発表**

---

奥井理予、矢守隆夫、山本智理子、中川健、石川雄一  
ヒト肺癌と大腸癌における PTEN 遺伝子のメチル化解析  
Methylation of *PTEN* gene in human colon and lung cancers  
第 67 回日本癌学会学術総会(名古屋)

**論文掲載**

---

Inamura, K., Takeuchi, K., Togashi, Y, Nomura, K, Ninomiya, H., **Okui, M.**, Satoh, Y., Okumura, S., Nakagawa, K., Soda, M., Choi, YL., Niki, T., Mano, H., Ishikawa, Y. (2008) EML4-ALK fusion is linked to histological characteristics in a subset of lung cancers. *J. Thorac. Oncol.* **3**:13-17.

Ninomiya H, Hiramatsu M, Inamura K, Nomura K, **Okui M**, Miyoshi T, Okumura S, Satoh Y, Nakagawa K, Nishio M, Horai T, Miyata S, Tsuchiya E, Fukayama M, Ishikawa Y. (2009) Correlation between morphology and EGFR mutations in lung adenocarcinomas Significance of the micropapillary pattern and the hobnail cell type Lung Cancer **63**:235-240

**その他**

---

**○助成金・補助金等**

科学研究費補助金若手研究B 2年間(平成 20・21 年度)  
「肺癌における早老症原因遺伝子 WRN の発現制御と癌化メカニズムの解明」  
研究代表者 **奥井理予**  
平成 20 年度 170 万円、平成 21 年度 150 万円

## 吉田 薫 (よしだ かおる) 講師

---



出生年 : 1970 年  
在籍 : 2004 年 6 月～  
最終学歴 : 東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻博士課程修了  
学位 : 博士(理学)  
学位論文 : ニシン精子活性化タンパク質による精子活性化機構の生理生化学的研究  
専門分野 : 細胞生理生化学  
前職 : 科学技術振興機構・戦略的創造研究推進事業「内分泌かく乱物質」岩本チーム研究員  
学会 : 日本動物学会、日本分子生物学会、日本生殖医学会、日本ヒトプロテオーム機構

### 学会・研究会発表

---

吉田薫、吉池美紀、吉田学、森澤正昭、Zoltan Krasznai、Terez Marian、岩本晃明  
「精嚢分泌タンパク質 Semenogelin の精子膜電位および膜透過性への影響」  
日本アンドロロジー学会第 27 回学術大会  
2008 年 7 月 5 日 於京都

### 論文掲載

---

Yoshida M, Shiba K, **Yoshida K**, Tsuchikawa H, Ootou O, Oishi T, Murata M.

Ascidian sperm activating and attracting factor: importance of sulfate groups for the activities and implication of its putative receptor.

FEBS Lett. 2008 Oct 15;582(23-24):3429-33.

Kawano N, **Yoshida K**, Iwamoto T, Yoshida M.

Ganglioside GM1 mediates decapacitation effects of SVS2 on murine spermatozoa.

Biol Reprod. 2008 Dec;79(6):1153-9.

Manabu Yoshida, Natsuko Kawano, **Kaoru Yoshida**

"Control of sperm motility and fertility: Diverse factors and common mechanisms."

Cell Mol Life Sci.

2008 年 7 月 7 日

Cherr GN, Morisawa M, Vines CA, **Yoshida K**, Smith EH, Matsubara T, Pillai MC, Griffin FJ, Yanagimachi R

"Two egg-derived molecules in sperm motility initiation and fertilization in the Pacific herring (*Clupea pallasii*)."

Int J Dev Biol. 2008;52(5-6) pp.743-752

2008.8

## 特許申請等

---

(2007 年度未掲載分 1 件)

岩本晃明、吉池美紀、**吉田薫**、寺井一隆

「精子無力症の診断方法」

出願番号:特願 2007-105708

出願人:学校法人聖マリアンナ医科大学、学校法人桐蔭学園

日付:2007 年 4 月 13 日

## その他

---

### ○助成金・補助金等

科学研究費補助金・若手研究(B) 19791128・研究代表者

「精囊分泌タンパク質による膜ラフトを介した精子機能制御機構の解明」

平成 19-21 年度

科学研究費補助金・基盤研究(B) 19370028・研究分担者

「受精時における精子運動能・受精能の調節機構の解明」

平成 19-20 年度

科学研究費補助金・基盤研究(C)・研究分担者

「精囊蛋白をマーカーとした精子の質を判定する検査法の確立」

平成 20-22 年度

## 中 島 伸 江 (なかじま のぶえ) 助手

---



出 生 年 : 1954 年

在 籍 : 2007 年 4 月～

最 終 学 歴 : 東京理科大学理学部応用化学科

専 門 分 野 : 神経生理学、薬理学

前 職 : 自治医科大学神経内科学研究室、学習塾経営

留 学 : Medical Research Council in Cambridge

Department of Neuropharmacology

資 格 : 高等学校・中学校理科教員免許

受 賞 ・ 表 彰 : 1) 中島伸江、川島徳道「色材協会 優秀ポスター賞」2008 年 9 月 11 日 於名古屋市工業研究所

2) 竹井靖、古曾部俊之、中島伸江、村上拓郎、川島徳道、「ALA-PDT における二波長同時照射型 LED の PDT 効果」2008 年度材料技術研究協会討論会(ゴールドポスター賞)

3) 筒井美帆、中島伸江、川島徳道、「サージに含まれる種子および果実フラボノイドのヒト白血病単球細胞(U937)増殖抑制効果」、2008 年度材料技術研究協会討論会(ゴールドポスター賞)

## 学会・研究会発表

---

(2007 年度未掲載分 2 件)

**N.Kawashima**, M.Saito, Y.Niikura, **N.Nakajima**, K.Kawasaki, S.Shigehara and T.Tsunekuni, “Preparation of custom-made implant materials using stereo lithography”, European Association for Osseointegration (EAO) 16th Annual Scientific Meeting 25-27 October 2007, Barcelona, Spain

S.Shigehara, **N.Kawashima**, M.Saito, Y.Niikura, **N.Nakajima**, K. Kawasaki, T.Tsunekuni  
“PREPARATION OF CUSTOM-MADE IMPLANT MATERIALS”, 24TH CONGRESS OF THE PAN-PACIFIC SURGICAL ASSOCIATION JAPAN CHAPTER, Hawaii Convention Center Honolulu, Hawaii, USA 2007

**Norimichi Kawashima, Takuro N. Murakami, Nobue Nakajima**

“3D plastic replica for surgery planning with stereolithography”

Hannover Messe

May 21-25 (2008)

Tomoko Sugawara, Naoki Kusumoto, Masaki Saito, **Nobue Nakajima, Takuro N. Murakami**, Satoshi Shigehara, Takeshi Tsunekuni, **Norimichi Kawashima**

“Preparation of Epithese using stereo-lithography”

ASIO's 54th Annual Conference, June 19-21(2008)

**Nobue Nakajima** and **Norimichi Kawashima**

“Comparison of ATP level in U937 cells in vitro using two different photosensitizer”, Toin international symposium on biomedical engineering 2008

31 October 2008

Yasushi Takei, **Toshiyuki Kosobe, Nobue Nakajima, Takuro N. Murakami, Norimichi Kawashima**

“Photodynamic therapy for cancer cells using mixed wavelength LEDs”, TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2008

31 October 2008

**中島伸江、川島徳道**

「PDTにおけるヒト白血病細胞(U937)のLEDランプの照射に伴うATP産生量の変化」

色材協会研究発表会

2008年9月11日

**竹井靖、古曾部俊之、中島伸江、村上拓郎、川島徳道**

「ALA-PDTにおける二波長同時照射型LEDのPDT効果」

色材協会研究発表会

2008年9月11日

**川島徳道、中島伸江、村上拓郎**

「光造形を用いた手術シミュレーション」

神奈川県ものづくり技術交流会

2008年10月17日

井上弘誉、**中島伸江**、**村上拓郎**、**川島徳道**

「U937 における Hypericin-PDT 効果」

2008 年度 材料技術研究協会

2008 年 12 月 5 日 於東京理科大学(野田)

竹井靖、**古曾部俊之**、**中島伸江**、**村上拓郎**、**川島徳道**

「ALA-PDT における二波長同時照射型 LED の PDT 効果(IV)」

2008 年度 材料技術研究協会

2008 年 12 月 5 日 於東京理科大学(野田)

筒井美帆、**中島伸江**、**川島徳道**

「サジーに含まれる種子および果実フラボノイドのヒト白血病細胞における増殖抑制効果」

2008 年度 材料技術研究協会

2008 年 12 月 5 日 於東京理科大学(野田)

### 論文掲載

---

**Toshiyuki Kosobe**, Xuepeng Qiu, Yuki Ohno, **Nobue Nakajima**, **Takurou N. Murakami**, **Norimichi Kawashima** “Effect of LED lamp on PDT efficacy” Material technology 26(3) pp.176-181 (2008)

### 国際学会・シンポジウムでの発表・講演

---

**Nobue Nakajima** and **Norimichi Kawashima**

“Comparison of ATP level in U937 cells in vitro using two different photosensitizer”

Toin international symposium on biomedical engineering 2008, October 31, (2008)

### 海外出張

---

Hannover Messe (Hannover Germany) 2008 年 5 月 21 日～29 日

### その他

---

#### ○表彰・受賞

**中島伸江**、**川島徳道**「色材協会 優秀ポスター賞」2008 年 9 月 11 日 於名古屋市工業研究所

竹井靖、**古曾部俊之**、**中島伸江**、**村上拓郎**、**川島徳道**、「ALA-PDT における二波長同時照射型 LED の PDT 効果」2008 年度材料技術研究協会討論会(ゴールドポスター賞)

筒井美帆、**中島伸江**、**川島徳道**、「サジーに含まれる種子および果実フラボノイドのヒト白血病単球細胞(U937)増殖抑制効果」、2008 年度材料技術研究協会討論会(ゴールドポスター賞)

#### ○助成金・補助金等

平成 20 年度 東京都水道局共同研究助成「使用済活性炭の有効利用」研究分担者

## 2008 年度退職者

医用工学部

生命・環境システム工学科

### 高田 朋典 (たかた ともりの) 准教授

---



出生年 : 1945 年  
在籍 : 1989 年 4 月～2009 年 3 月  
最終学歴 : 日本大学理工学部  
学位 : 工学博士  
学位論文 : 新規有機ポリマー・セメント複合材料の開発と強度発現に関する研究  
専門分野 : 高分子化学、機能性高分子、複合材料  
前職 : 桐蔭学園工業高等専門学校講師  
学会 : 日本化学会、高分子学会、日本化学会教育部会、日本セラミック協会、無機マテリアル学会  
社会的活動 : 文部科学省専門教育課サイエンス・ボランティア登録  
受賞・表彰 : 平成 8 年度トステム建材産業振興財団 第 5 回助成(1996)、平成 9 年度セメント協会論文賞受賞(1998)、松籟科学技術振興財団研究助成(1998)、平成 12 年度旭硝子財団研究助成(2000)、平成 12 年度神奈川高度技術支援財団助成(2000)

### 論文掲載

---

福田和繁、松浦弘典、大谷若菜、川島徳道、高田朋典

「赤外分光法を用いた無機-有機複合材料の同時定量分析方法」

J.Soc.Inorganic Materials, Japan 15 pp.14-20

臨床工学科

### 小田川 美伯 (おだがわ よしひろ) 助教

---



出生年 : 1974 年  
在籍 : 2007 年 4 月～2009 年 1 月  
最終学歴 : 桐蔭横浜大学大学院工学研究科修士課程医用工学専攻修了  
学位 : 工学修士  
学位論文 : Degradation of indwelling catheter for blood access by disinfection and its analysis using finite element method (FEM)  
専門分野 : 臨床工学、医用材料  
前職 : 読売理工学院 読売理工医療福祉専門学校一講師  
資格 : 第 2 種 ME 技術実力検定試験合格、臨床工学技士免許  
学会 : 東京都臨床工学技士会、日本臨床工学技士会

## 学会・研究会発表

---

横山ジャンポール、**小田川美伯**、辻毅一、藤倉久男、**川島徳道**

「間伐材を利用した疲れにくい階段の歩行解析」

日本医工学治療学会第24回学術大会

2008年4月19日 於幕張メッセ国際会議場

**小田川美伯**、青野賢大、**佐藤敏夫**、辻毅一、**川島徳道**、古賀大介

「手術用ドリルを用いた穴あけ加工特性」

日本医工学治療学会第24回学術大会

2008年4月19日 於幕張メッセ国際会議場

赤松正、宮坂宗男、安村佑樹、**小田川美伯**、**川島徳道**、重原聡

「機能性エピテーゼの開発と将来展望－医用工学分野からのアプローチ－」

第26回日本頭蓋顎顔面外科学術集会

2008年10月16日 於ホテルメトロポリタン盛岡

**小田川美伯**、安村佑樹、**川島徳道**、**大塚雅人**、竹中創、中村光哉、梅田研、官野高明、**直江史郎**

「IVUSカテーテル(Atlantis SR Pro2)の使用後ガイドワイヤーポート劣化に関する検討」

第17回関東甲信越IVUS研究会

2008年10月31日 於東京

関口真依、**小田川美伯**、辻毅一、**川島徳道**

「LEDを用いた足ツボ刺激効果」

2008年度 材料技術研究協会

2008年12月5日 於東京理科大学(野田)

末吉利佳、**小田川美伯**、辻毅一、**川島徳道**

「整形外科手術用ドリルの穴あけ加工特性」

2008年度 材料技術研究協会

2008年12月5日 於東京理科大学(野田)

麻生瑞歩、**小田川美伯**、辻毅一、**川島徳道**

「可変式椅子を用いた筋電解析」

2008年度 材料技術研究協会

2008年12月5日 於東京理科大学(野田)

横山ジャンポール、**小田川美伯**、辻毅一、**川島徳道**

「階段の昇降時に及ぼす踏み面勾配の影響」

2008年度 材料技術研究協会

2008年12月5日 於東京理科大学(野田)

**小田川美伯**、官野高明、**大塚雅人**、竹中創、中村光哉、東田隆治、梅田研、**直江史郎**

「血管内超音波カテーテルの使用後ガイドワイヤーポート劣化に関する検討」

Complex Cardiovascular Therapeutics 2009

2009年1月31日 於神戸



## 古曾部 俊之 (こそべ としゆき) 助手

---



出生年 : 1975 年  
在籍 : 2006 年 4 月～2009 年 3 月  
最終学歴 : 桐蔭横浜大学大学院工学研究科材料工学専攻博士後期課程  
学位 : 博士(工学)  
学位論文 : Photodynamic Therapy for Cancer Cells using Metal-halide Lamps and 5-Aminolevulinic acid  
専門分野 : 光化学、有機合成  
学会 : 日本化学会、日本光医学・光生物学、日本光線力学学会、材料技術研究協会、International Photodynamic Association  
受賞・表彰 : 2003 年材料技術研究協会技術賞、  
2005 年材料技術研究協会学生論文賞

### 学会・研究会発表

---

竹井 靖、古曾部俊之、中島伸江、村上拓郎、川島徳道

「ALA-PDT における2波長同時照射型 LED の PDT 効果」  
色材協会

2008 年 9 月 11 日 於名古屋市工業研究所

石井琢也、小笠原裕一、飯田有美、古曾部俊之、川島徳道、徳岡由一

プロトポルフィリン IX の細胞内集積性に及ぼすフェニルアラニンの添加効果におけるシステム L の寄与について

2008 年材料技術研究協会討論会

2008 年 12 月 5 日 於東京理科大学野田キャンパス

竹井靖、古曾部俊之、中島伸江、村上拓郎、川島徳道

「ALA-PDT における二波長同時照射型 LED の PDT 効果(IV)」

2008 年度 材料技術研究協会

平成 20 年 12 月 5 日 於東京理科大学(野田)

小笠原裕一、飯田有美、古曾部俊之、川島徳道、徳岡由一

「プロトポルフィリン IX の細胞内集積性に及ぼすフェニルアラニンの添加効果におけるシステムLの寄与について」

2008 年度 材料技術研究協会

2008 年 12 月 5 日 於東京理科大学(野田)

### 論文掲載

---

Toshiyuki Kosobe, Xuepeng Qiu, Yuki Ohno, Nobue Nakajima, Takurou N. Murakami, Norimichi Kawashima

“Effect of LED lamp on PDT efficacy”

Material technology 26(3) pp.176-181

Takuya Ishii, Tomoyasu Kimura, Hiroki Izawa, Tomomi Iida, **Toshiyuki Kosobe**, Masahiro Ishizuka, **Norimichi Kawashima**, **Yoshikazu Tokuoka**

“Effect of phenylalanine on 5-aminolevulinic acid-induced protoporphyrin IX accumulation in U-937 cell”  
TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2008 (31 October 2008)

Yasushi Takei, **Toshiyuki Kosobe**, **Nobue Nakajima**, **Takuro N. Murakami**, **Norimichi Kawashima**

“Photodynamic therapy for cancer cells using mixed wavelength LEDs”  
TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2008 (31 October 2008)

### 特許申請等

**徳岡由一、古曾部俊之、川島徳道**

「5-アミノレブリン酸誘導体及びその塩」

出願番号:2008-220006

出願人:桐蔭学園 北里研究所 コスモ石油

日付:2008年8月28日

### その他

#### ○表彰・受賞

竹井靖、**古曾部俊之**、**中島伸江**、**村上拓郎**、**川島徳道**

「ALA-PDTにおける二波長同時照射型LEDのPDT効果」

2008年度材料技術研究協会討論会ゴールドポスター賞

2008年12月5日

工学部

電子情報工学科

**古市千枝子（ふるいち ちえこ）教授**



出生年 : 1941年  
在籍 : 1991年4月～2009年3月  
最終学歴 : お茶の水女子大学理学部物理学科  
学位 : 工学博士  
学位論文 : メルケプストラムCV方式による音声の規則合成の研究  
専門分野 : 音声情報処理、知識処理工学、情報工学  
前職 : 東京工業大学精密工学研究所助手  
非常勤講師 : 東京工業大学精密工学研究所(1991～1992)  
学会 : 電子情報通信学会、日本音響学会

**大幅元吉（おおはばもとよし）教授**

---



出生年 : 1946年  
在籍 : 1991年4月～2009年3月  
最終学歴 : 早稲田大学大学院理工学研究科修士課程  
学位 : 工学博士  
学位論文 : An Experimental Study on Shape Oscillations of Magnetic Fluid Columns Supported by a Magnetic Field (慶応義塾大学)  
専門分野 : 流体力学、機械力学  
前職 : 桐蔭学園工業高等専門学校教授  
留学 : 米国ブリッジポート大学 (1983.7～9)  
学会 : 日本機械学会、日本フルードパワー学会、アメリカ機械学会、日本生物環境工学会  
社会的活動 : 日本油空圧学会「機能性流体の油空圧機器への応用に関する研究会」委員 (1996.4～1999.3)、日本機械学会「メカトロニクスと機能性流体に関する研究会」委員 (1997.4～2000.3)、日本機械学会「機能性流体力学の先端融合化に関する研究分科会」委員 (2004.4～2006.3)、日本油空圧学会編集委員、日本機械学会校閲委員を歴任、桐蔭横浜大学ベンチャー：ペクセルテクノロジー株式会社取締役 (2004.3～)、(社) 横浜北工業会担当委員 (1998.4～)、横浜北日中交流協会顧問 (2005.9～)

**川久保達之（かわくぼ たつゆき）終身教授**

---

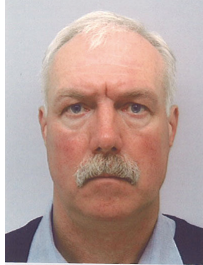


出生年 : 1932年  
在籍 : 1992年4月～2009年3月  
最終学歴 : 東京工業大学大学院博士課程  
学位 : 理学博士  
学位論文 : 遷移金属酸化物の電氣的磁氣的性質の研究  
専門分野 : 固体物理、流体物理、生体物理  
前職 : 東京工業大学理学部教授  
留学 : マサチューセッツ工科大学 (1974～1975)  
学会 : 応用物理学会、日本物理学会、日本生物物理学会  
社会的活動 : 萬谷記念かながわ奨学基金運営委員  
応用物理学会会長 (1992～1994)  
学術会議会員 (1997～1999)

スポーツ健康政策学部  
スポーツテクノロジー学科

**John Harris Kerr (カー・ジョン・ハリス) 教授**

---



出生年 : 1951 年  
在籍 : 2008 年 4 月～2009 年 3 月  
最終学歴 : イギリス ノッティンガム大学心理学科  
学位 : 修士 (教育学) (北アイルランド)、博士 (心理学) (イングランド)  
学位論文 : Arousal mechanisms, attention and sports performance.  
1988 Department of Psychology, University of Nottingham, England  
専門分野 : スポーツ心理学、心理学  
前職 : 国士舘大学大学院スポーツ・システム研究科教授  
学会 : Graduate member, British Psychological Society

**越智 英輔 (おち えいすけ) 助手**

---

出生年 : 1979 年  
在籍 : 2008 年 4 月～2009 年 3 月  
最終学歴 : 東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻博士課程修了  
学位 : 博士 (学術)  
学位論文 : 筋運動が骨格筋および関節の機能に及ぼす効果とそのメカニズム  
専門分野 : 運動生理学、運動生化学  
前職 : 日本体育大学助手  
学会 : 日本体育学会、日本体力医学会、アメリカスポーツ医学会、バレーボール学会、日本衛生学会

スポーツ健康政策学科

**大宮 朋子 (おおみや ともこ) 講師**

---

出生年 : 1972 年  
在籍 : 2008 年 4 月～2009 年 3 月  
最終学歴 : 政策研究大学院大学  
学位 : 博士 (文化政策研究)  
学位論文 : 極東フランス学院の研究  
ーフランスの対外文化政策における学術・文化機関の役割  
専門分野 : 文化政策学、国際文化交流論  
前職 : 国際交流基金国際文化交流研究センター研究員  
学会 : 文化政策研究学会、比較文明学会、日本社会学会

大学院  
法学研究科

**石井紫郎 (いしい しろう) 客員教授**

---



出生年 : 1935 年  
在籍 : 2003 年 4 月～2009 年 3 月  
最終学歴 : 東京大学法学部  
学位 : 法学士  
専門分野 : 日本法制史、日本法文化論  
前職 : 東京大学法学部助教授・教授・学部長  
東京大学副学長(1993～1995)  
国際日本文化研究センター教授  
内閣府・総合科学技術会議常勤議員(2001～2003)  
ベルリン自由大学客員講師(1967)  
ハーヴァード大学東アジア研究センター研究員(1972～73)  
留学 : ハンブルク大学に留学(1965～66)  
学会 : 法制史学会、日独法学会、史学会  
社会的活動 : 独立行政法人・日本学術振興会 学術システム研究センター相談役(非常勤)、大学共同利用機関法人・自然科学研究機構理事、文科省・中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会委員、大学共同利用機関・情報システム研究機構経営協議会委員、文科省・研究機関における公的研究費の管理・監査に関する検討会主査、日本学生野球連盟・日本学生野球憲章検討委員会委員長、その他

工学研究科

**杉道夫 (すぎ みちお) 教授**

---



出生年 : 1940 年  
在籍 : 1994 年 10 月～2009 年 3 月  
最終学歴 : 東京大学大学院理学系研究科物理学専門課程修士課程  
学位 : 理学博士、社会学修士、工学士  
学位論文 : Structure-Dependent Carrier Transport in Langmuir layer Assembly Films (博士論文)、  
古代メソポタミアの尺度の研究 (修士論文)、  
選鉱過程の動特性に関する研究 (卒業論文)  
専門分野 : 有機薄膜物性、古代オリエント文化史、選鉱学  
前職 : 通商産業省工業技術院電子技術総合研究所首席研究官  
留学 : ドイツ国ニーダーザクセン州ゲッチンゲン市マックス・プランク生物物理化学研究所 (1972. 9～1974. 9)  
非常勤講師 : 東北大学 (1984～1985)、東京工業大学 (1986)  
学会 : 応用物理学会、日本物理学会、日本化学会、日本生物物理学会、電子情報通信学会

社会的活動 : ラングミュア・プロジェクト膜国際会議国際組織委員 (1983～1993)、応用物理学会会誌編集委員 (1985～1987)、「Thin Solid Films」誌編集顧問 (1990～1999)、応用物理学会賞委員会委員 (1992～1994)、超分子膜技術研究委員会代表幹事 (1994～1998)、日本 MRS 常任理事 (2000～)

## 学会・研究会発表

---

### 三浦康弘、片岡幹悠、井上杏子、杉道夫

「長鎖アルキルアンモニウム-Au(dmit)<sub>2</sub> LB 膜の形態評価(Ⅲ)」

2008 年秋季第 69 回応用物理学会学術講演会

2008 年 9 月 2 日 於中部大学(愛知県春日井市)

### 三浦康弘、杉道夫、松林和幸、上床美也

「Metal(dmit)<sub>2</sub>に基づく導電性 LB 膜の静水圧力下の電気伝導(Ⅲ)」

第 49 回高圧討論会

2008 年 11 月 14 日 於姫路商工会議所(兵庫県姫路市)

### 三浦康弘、小林聡一郎、星野純一、井上杏子、杉道夫

「ジチオレン系金属錯体に基づく高導電性分子薄膜の構造評価」

第 8 回琉球大学物性研究会

2008 年 11 月 29 日 於琉球大学(沖縄県那覇市)

### 三浦康弘、井上杏子、星野純一、小林聡一郎、杉道夫

「長鎖アルキルアンモニウム-Au(dmit)<sub>2</sub> LB 膜の構造と電氣的性質(V)」

2009 年春季第 56 回応用物理学関係連合講演会

2009 年 3 月 31 日 於筑波大学(茨城県つくば市)

## 論文掲載

---

Yuichi Sugano, Yuki Koyano, Hiroko Moshino, **Yasuhiro F. Miura** and **Michio Sugi**

“Thermal Stability of the Hydrothermally-induced J-band in Merocyanine-containing LB Films”, Trans. Mater. Res. Soc. Jpn. **33**[1] (2008) 107-110.

Hiroko Moshino, Yuki Koyano, Yuichi Sugano, **Yasuhiro F. Miura** and **Michio Sugi**

“Hydrothermal and Dry-heat Treatments in Merocyanine-containing Langmuir-Blodgett Films”, Trans. Mater. Res. Soc. Jpn. **33**[1] (2008) 103-106.

Yuki Koyano, Yuichi Sugano, Hiroko Moshino, **Yasuhiro F. Miura** and **Michio Sugi**

”Restoration of J-band by Hydrothermal Treatments in Dry-heat Merocyanine LB Films”, Trans. Mater. Res. Soc. Jpn. **33**[1] (2008) 95-98.

**Yasuhiro F. Miura**, Masaaki Kitao, Haruki Matsui, **Michio Sugi**, Masato Hedo, Kazuyuki Matsubayashi and Yoshiya Uwatoko

”Observation of Metallic Resistance down to 56 K in Langmuir-Blodgett Films based on Ditetradecyldimethylammonium-Au(dmit)<sub>2</sub> Salt”, Jpn. J. Appl. Phys., **47**(2008) 8884-8886.

**Yasuhiro F. Miura**, Masaaki Kitao, Haruki Matsui, **Michio Sugi**, Masato Hedo, Kazuyuki Matsubayashi, Yoshiya Uwatoko

“Observation of Metallic Resistance Down to 56 K in Langmuir–Blodgett Films Based on Ditetradecyldimethylammonium–Au(dmit)<sub>2</sub> Salt”, Jpn. J. Appl. Phys. **47** (2008) 8884–8886.

Hiroko Moshino, Yuki Koyano, Syuji Mouri, **Yasuhiro F. Miura** and **Michio Sugi**

“Kinetics of Thermal Dissociation–Restoration Processes of J–Aggregate”, Jpn. J. Appl. Phys., **48** (2009) 051504 (7 pages).

#### **国際学会・シンポジウムでの発表・講演**

---

**Yasuhiro F. Miura**, Mikihiro Kataoka, Takaharu Seki, Masaaki Kitao, Haruki Matsui, **Michio Sugi**, Masato Hedo, Kazuyuki Matsubayashi, Yoshiya Uwatoko

“Formation of Giant Crystalline Domains in the Dialkyldimethylammonium–Au(dmit)<sub>2</sub> LB Films and the Extended Metallic Temperature Dependence of Resistance”

International Conference on Science and Technology of Synthetic Metals (ICSM2008)

July 6, 2008, Porto de Galinhas, Pernambuco, Brazil.

**Yasuhiro F. Miura**, Kyoko Inoue, **Michio Sugi**, Kazuyuki Matsubayashi, Yoshiya Uwatoko

“Pressure Effect on Resistance of Alkylammonium–Au(DMIT)<sub>2</sub> LB Films”

Korea–Japan Joint Forum (KJF2008)

October 25, 2008., Chitose Institute of Science and Technology, Chitose, Hokkaido, Japan.

**Yasuhiro F. Miura**, Shin-ichi Morita, **Michio Sugi**

“Highly Conductive Molecular Thin Films –From Metallic toward Superconducting Properties–”

Symposium on Biomedical Engineering 2008 (TOIN BME 2008)

October 31, 2008, Toin University of Yokohama, Yokohama, Kanagawa, Japan

**Yasuhiro F. Miura**, Souichiro Kobayashi, Kyoko Inoue, Jun-ichi Hoshino, Yuuta Ito, Takaharu Seki, **Michio Sugi**

“Surface Morphology and Electrical Properties of Alkylammonium–Au(dmit)<sub>2</sub> Langmuir–Blodgett Films”

The 8th International Conference on Nano–Molecular Electronics (ICNME 2008)

December 18, 2008, Kobe Portopia Hotel, Kobe, Hyogo, Japan.

**Yasuhiro F. Miura**, Souichiro Kobayashi, Kyoko Inoue, Jun-ichi Hoshino, **Michio Sugi**

“Fabrication and Characterization of Highly Conductive Au(dmit)<sub>2</sub> LB Films”

5th International Conference on Molecular Electronics and Bioelectronics (M&BE5)

March 17, 2009, Miyazaki International Conference Hall, Miyazaki, Japan

法科大学院

**小田原 満知子(おだわら まちこ) 教授**

---



出生年 : 1938 年  
在籍 : 2003 年 4 月～2009 年 3 月  
最終学歴 : 東京大学法学部  
専門分野 : 民事法学  
前職 : 裁判官  
現職 : 弁護士

**吉岡 雅史(よしおか まさし) 助手**

---

出生年 : 1976 年  
在籍 : 2008 年 1 月～2009 年 3 月  
最終学歴 : 東京大学法学部



## 公開講座・セミナー等

### 1. シンポジウム

#### 1. 桐蔭横浜大学メディアエイション交渉研究所主催 公開研究会

この度、桐蔭横浜大学メディアエイション交渉研究所において、公開研究会を開催し、多くの方が、参加された。

日 時： 2008年7月26日（土）13時30分～17時00分

場 所： 桐蔭学園メモリアルアカデミウム内「ポロニアホール（B2F）」

参加費： 無料

#### ◆プログラム概要：

（1）開会（13：30～13：40）

（2）個別報告（13：40～15：40）

13：40～14：40 早野木の美（かながわ中央消費生活センター消費生活専門相談員、関東学院大学非常勤講師）  
「メディアエイション技術を消費生活相談の場面でどのように活かすか」

14：40～15：40 小林学（桐蔭横浜大学法学部准教授）

「メディアエイターの独立性・公正性ーメディアエイション倫理の一局面ー」

休憩（15：40～16：00）

（3）ディスカッション（16：00～16：50）

（4）閉会（16：50～17：00）

## 2. 桐蔭横浜大学メディアエーション交渉研究所主催 国際シンポジウム

この度、桐蔭横浜大学メディアエーション交渉研究所において、国際シンポジウムを開催し、国内外からの参加者が訪れた。

日 時： ①2008年10月24日（金）13時00分～17時00分  
②2008年10月25日（土）10時00分～17時10分  
場 所： 桐蔭学園メモリアルアカデミウム内「ポロニアホール（B2F）」

### ◆プログラム概要：

#### （1）第1日目（10月24日）：

「国際メディアエーション研究会」（桐蔭横浜大学メディアエーション交渉研究所主催）

【開会の辞】（13:00～13:10） 山城崇夫・桐蔭横浜大学法学部長

【報告】（13:10～14:50）

テーマ：「調停・和解の理念と技法」

第1報告（13:20～13:50） 陳剛・上海華東政法大学教授

第2報告（13:50～14:20） 草野芳郎・学習院大学法科大学院教授

第3報告（14:20～14:50） 孫漢琦・延世大学校法科大学院教授

【休憩】（14:50～15:10）

【討論】（15:10～17:00）

コメント：猪股孝史・桐蔭横浜大学法科大学院教授

尹龍澤・創価大学法科大学院/法学部教授

郭美松・西南政法大学副教授

総括コメント：垣内秀介・東京大学法学部准教授

#### （2）第2日目（10月25日）：

「第3回東北アジア民事訴訟法国際シンポジウム」（桐蔭横浜大学主催）

【開会の辞】（10:00～10:20） 陳剛・上海華東政法大学教授（東北アジア民事訴訟法研究会代表）

【報告】（10:20～12:00）

テーマ：「各国民事訴訟の現在と未来」

第1報告（10:30～11:00） 陳桂明・中国人民大学法学院教授

（中国民訴法学会会長／中国法学期刊研究会会長）

第2報告（11:00～11:30） 孫漢琦・延世大学校法科大学院教授

（中国法研究センター所長）

第3報告（11:30～12:00） 竹下守夫・駿河台大学総長

昼 食（12:30～13:30）

見 学（13:30～14:30） 旧横浜地方裁判所陪審法廷およびサヴィニーミュージアムなど

【討論】（15:00～16:30）

コメント：陳彬・西南政法大学学長

小林学・桐蔭横浜大学法学部准教授

山本和彦・一橋大学大学院法学研究科教授

【特別報告】（16:30～17:00） 大澤恒夫・桐蔭横浜大学法科大学院教授

【閉会の辞】（17:00～17:10） 小島武司・桐蔭横浜大学学長

### 3. 桐蔭横浜大学メディアエーション交渉研究所主催 第2回公開研究会

この度、桐蔭横浜大学メディアエーション交渉研究所において、第2回公開研究会が開催された。

#### 記

日時： 2009年2月21日（土）13時30分～17時00分

場所： 法学部棟 2階 J203

#### ◆プログラム概要：

(1) 開会 (13 : 30～13 : 40)

(2) 個別報告 (13 : 40～15 : 40)

13:40～14:40 加藤俊明 (神奈川県司法書士会会長、神奈川県司法書士会調停センター長)  
「神奈川県司法書士会調停センターの創設と将来的課題  
ー日本の実務でメディアエーションは通用するかー」

14:40～15:40 **韓寧** (桐蔭横浜大学法学部専任講師)  
「中国における調停の歴史、現在と未来」

休憩 (15:40～16 : 00)

(3) ディスカッション (16 : 00～16 : 50)

(4) 閉会 (16 : 50～17 : 00)

#### 4. 桐蔭横浜大学医用工学部・工学部主催 医用工学国際シンポジウム2008

このシンポジウムは 桐蔭横浜大学の主催による第3回目の医用工学に関する国際シンポジウムです。医用工学分野は材料工学、情報工学、再生医学、遺伝子工学を含む複合領域として、新しく開拓されるべき工学のフロンティアです。桐蔭医用工学国際シンポジウムは、本学の研究成果を国際的に発信し、内外の先導的な研究者を招いて情報交換し、本学の学部・大学院生に国際的な学術交流の現場を経験させ、外国語によるコミュニケーション能力開発の機会を与えることを目的として2006年より毎年開催されています。英語を公用語とし、国内外からの招待講演、口頭発表、そしてポスター発表を行います。私たちは、医用工学関連のさまざまな分野の方々に最新の研究成果を発表し、先端的な科学・技術の動向についての意見交換をし、新しい友好関係が築くことができました。

なお、このシンポジウムは文部科学省の「国際化教育推進経費・国際的医用工学者養成プログラム」の助成を受けた活動です。

日時：2008年10月31日（金）9：30～18：45

場所：桐蔭横浜大学 法学部棟・交流会館

基調講演 9：45～14：00 法学部棟J205

- ① 「AIDS、ガン、幹細胞：障壁の打開」  
スタンフォード大学、カルフォルニア州スタンフォード大学 教授 レオナード・A・ヘルツェンバーグ
- ② 「バイオメディカル研究におけるコンピュータの活用」  
スタンフォード大学、カルフォルニア州スタンフォード大学 教授 レオノア・A・ヘルツェンバーグ
- ③ 「高度な理工学教育がもたらすインドの経済発展」  
慶応義塾大学教授、元駐日インド大使 アフターブ・セート
- ④ 「ゼブラフィッシュの早期心臓コネクションCx63.7/EcxによるNkx2.5発現の確立を通じた筋原線維配向および心臓形態形成の制御」  
東京工業大学大学教授 広瀬茂久
- ⑤ 「小径血管の開発に向けた機能性組織工学における進展」  
オクラホマ大学バークレー校 教授 ピーターS マクフェトリッジ
- ⑥ 「血管内治療とHIFUナイフをもちいた患者さんの自信を共感できる癌治療について」  
クリニカE.T 院長 奥野哲治

14：30～16：30 口頭発表 交流会館3階

17：00～18：45 ポスター発表

## 5. 生涯学習センター

## 2008年度 第I期

## 桐蔭生涯学習センター講座一覧表

講座番号	講座名	講師	講義日	時間	回数	受講料
01	現代と宗教	八木誠一(元桐蔭横浜大学教授)	5月8日(木)~7月10日(木)	10:30~12:00	10	20,000
02	イエスと現代	八木誠一(元桐蔭横浜大学教授)	5月8日(木)~7月10日(木)	13:30~15:00	10	20,000
03	短歌 実作の楽しみ	宇都宮とよ(歌誌「心の花」選歌委員)	5月13日(火)~7月1日(火)	13:30~15:00	8	16,000
04	風土記を読む(4)	小島恵子(湘南短期大学教授)	9月4・5・8・9日	10:30~15:00	8	16,000
05	世界史を見直す-近代史考-	赤堀景章(桐蔭横浜大学名誉教授)	5月9日(金)~7月11日(金)	13:00~14:30	10	20,000
06	朗読基礎コース	鈴木正導(元NHKアナウンサー)	5月8日(木)~7月10日(木)	10:30~12:00	10	25,000
07	朗読を楽しむ	鈴木正導(元NHKアナウンサー)	5月8日(木)~7月10日(木)	13:30~15:00	10	20,000
08	基礎スペイン語講座① -文化と共に学ぶ-	高橋悦子(日本ペルー共生協会副会長)	5月14日(水)~7月9日(水)	10:30~12:00	9	18,000
09	入門・初級中国語会話 <対象:初心者>	曾 雪(桐蔭横浜大学大学院生)	5月14日(水)~7月16日(水)	13:30~15:00	10	20,000
10	初・中級中国語会話 <対象:継続者又は経験者>	曾 雪(桐蔭横浜大学大学院生)	5月14日(水)~7月16日(水)	10:30~12:00	10	20,000
11	英語1年生 - 中学レベル -	宮島知子(英会話学校講師)	5月14日(水)~7月16日(水)	13:30~15:00	10	20,000
12	英語1年生 - ゆっくり楽しむ英会話 -	宮島知子(英会話学校講師)	5月14日(水)~7月16日(水)	10:30~12:00	10	20,000
13	大人のための英語ブラッシュアップ - 英語講読 高校生レベル -	原 千砂子(桐蔭横浜大学准教授)	5月14日(水)~7月16日(水)	10:30~12:00	10	20,000
14	学びなおす英語- 中級程度 -	岡田俊恵(桐蔭横浜大学教授)	5月9日(金)~7月11日(金)	13:15~14:45	10	20,000
15	学びなおす英語- 上級程度 -	岡田俊恵(桐蔭横浜大学教授)	5月9日(金)~7月11日(金)	15:00~16:30	10	20,000
16	Focus on Communication - はじめての英会話 -	エリザベス・小野寺 (桐蔭横浜大学講師)	5月15日(木)~7月3日(木)	13:30~15:00	8	16,000
17	English is fun!- 初級英会話 A -	ジェフリー・シンハ(桐蔭学園講師)	5月12日(月)~6月30日(月)	13:30~15:00	8	16,000
18	Develop your Word and Speech Powers! - 初級英会話 B -	ロバート・カトレット (拓殖大学講師)	5月12日(月)~6月30日(月)	10:40~12:10	8	16,000
19	You Can Do it in English! - 中級英会話 -	ジェームズ・グラジアニ (桐蔭学園講師)	5月12日(月)~6月30日(月)	10:30~12:00	8	16,000
20	Advanced English Conversation - 上級英会話 -	エリザベス・小野寺 (桐蔭横浜大学講師)	5月15日(木)~7月3日(木)	10:30~12:00	8	16,000
21	パソコン入門講座	中丸 久一(桐蔭横浜大学講師)	5月13日(火)~7月1日(火)	13:30~15:00	8	20,000
22	初めての写真講座(一眼レフ入門)	玄 一生(写真家)	5月13日(火)~7月15日(火)	10:30~12:00	9	18,000
23	楽しい写真講座	玄 一生(写真家)	5月13日(火)~7月15日(火)	13:30~15:00	9	18,000
24	はじめてのフルートアンサンブル	遠藤 まり (昭和音楽大学附属音楽教室講師)	5月9日(金)~7月4日(金)	14:00~15:30	9	22,500
25	たのしいフルートアンサンブル	遠藤 まり (昭和音楽大学附属音楽教室講師)	5月9日(金)~7月11日(金)	10:30~12:00	10	25,000
26	楽しい絵画教室	今村 昭寛 (洋画家 一創会運営委員)	5月8日(木)~7月10日(木)	10:30~12:00	10	20,000

※講座の未定箇所(講義日・曜日・時間)はホームページでご確認ください。

URL : <http://www.cc.toin.ac.jp/kika/ikc/>

2008年度 第Ⅱ期

桐蔭生涯学習センター講座一覧表

講座番号	講座名	講師	講義日	時間	回数	受講料
01	現代と宗教	八木誠一(元桐蔭横浜大学教授)	9月18日(木)~11月27日(木)	10:30 ~12:00	10	20,000
02	イエスと現代	八木誠一(元桐蔭横浜大学教授)	9月18日(木)~11月27日(木)	13:30 ~15:00	10	20,000
03	短歌 実作の楽しみ	宇都宮とよ (歌誌「心の花」選歌委員)	9月30日(火)~11月18日(火)	13:30 ~15:00	8	16,000
04	風土記を読む(4)	小島恵子(湘南短期大学教授)	9月4・5・8・9日	10:30 ~15:00	8	16,000
05	世界史を見直す - 近代史考 -	赤堀景章 (桐蔭横浜大学名誉教授)	9月19日(金)~11月21日(金)	13:00 ~14:30	10	20,000
06	朗読基礎コース	鈴木正導(元NHKアナウンサー)	9月18日(木)~11月20日(木)	10:30 ~12:00	10	25,000
07	朗読を楽しむ	鈴木正導(元NHKアナウンサー)	9月18日(木)~11月20日(木)	13:30 ~15:00	10	20,000
08	基礎スペイン語講座② - 文化と共に学ぶ -	高橋悦子 (日本ペルー共生協会副会長)	10月1日(水)~11月26日(水)	10:30 ~12:00	9	18,000
09	入門・初級中国語会話 <対象:初心者>	曾 雪(桐蔭横浜大学大学院生)	9月24日(水)~11月26日(水)	13:30 ~15:00	10	20,000
10	初・中級中国語会話 <対象:継続者又は経験者>	曾 雪(桐蔭横浜大学大学院生)	9月24日(水)~11月26日(水)	10:30 ~12:00	10	20,000
11	英語1年生 - 中学レベル -	宮島知子(英会話学校講師)	9月24日(水)~12月10日(水)	13:30 ~15:00	12	24,000
12	英語1年生 - ゆっくり楽しむ英会話 -	宮島知子(英会話学校講師)	9月24日(水)~12月10日(水)	10:30 ~12:00	12	24,000
13	大人のための英語ブラッシュアップ - 英語講読 高校生レベル -	原 千砂子 (桐蔭横浜大学准教授)	9月24日(水) ~12月3日(水)	10:30 ~12:00	11	22,000
14	学びなおす英語- 中級程度 -	岡田俊恵(桐蔭横浜大学教授)	9月19日(金) ~12月12日(金)	13:15~14:45	12	24,000
15	学びなおす英語- 上級程度 -	岡田俊恵(桐蔭横浜大学教授)	9月19日(金) ~12月12日(金)	15:00 ~16:30	12	24,000
16	Focus on Communication - はじめての英会話 -	エリザベス・小野寺 (桐蔭横浜大学講師)	9月18日(木)~11月6日(木)	13:30 ~15:00	8	16,000
17	English is fun! - 初級英会話 A -	ジェフリー・シンハ (桐蔭学園講師)	9月29日(月) ~12月8日(月)	13:30 ~15:00	8	16,000
18	Develop your Word and Speech Powers! - 初級英会話 B -	ロバート・カトレット (拓殖大学講師)	9月22日(月)~12月1日(月)	10:30 ~12:00	8	16,000
19	You Can Do it in English! - 中級英会話 -	ジェームズ・グラジアニ (桐蔭学園講師)	9月29日(月)~12月8日(月)	10:30 ~12:00	8	16,000
20	Advanced English Conversation - 上級英会話 -	エリザベス・小野寺 (桐蔭横浜大学講師)	9月18日(木)~11月6日(木)	10:30 ~12:00	8	16,000
21	パソコン活用講座	関根詮明(桐蔭横浜大学講師)	9月30日(火)~11月18日(火)	10:30 ~12:00	8	20,000
22	初めての写真講座(一眼レフ入門)	玄 一生(写真家)	9月30日(火)~12月9日(火)	10:30 ~12:00	10	20,000
23	楽しい写真講座	玄 一生(写真家)	9月30日(火) ~12月9日(火)	13:30 ~15:00	10	20,000
24	はじめてのフルートアンサンブル	遠藤 まり (昭和音楽大学附属音楽教室講師)	9月19日(金) ~11月28日(金)	14:00 ~15:30	10	25,000
25	たのしいフルートアンサンブル	遠藤 まり (昭和音楽大学附属音楽教室講師)	9月19日(金) ~11月28日(金)	10:30 ~12:00	10	25,000
26	楽しい絵画教室	今村 昭寛 (洋画家 一創会運営委員)	9月18日(木) ~11月20日(木)	10:30 ~12:00	10	20,000

URL : <http://www.cc.toin.ac.jp/kika/ikc/>

2008年度 第Ⅲ期

桐蔭生涯学習センター講座一覧表

講座 番号	講座名	講師	講義日	時間	回数	受講料
01	現代と宗教	八木 誠一(元桐蔭横浜大学教授)	1月15日(木)~3月5日(木)	10:30~12:00	8	16,000
02	イエスと現代	八木 誠一(元桐蔭横浜大学教授)	1月15日(木)~3月5日(木)	13:30~15:00	8	16,000
03	短歌 実作の楽しみ	宇都宮 とよ (歌誌「心の花」選歌委員)	1月20日(火)~3月3日(火)	13:30~15:00	7	14,000
04	続日本紀を読む(1)	小島 恵子 (湘南短期大学教授)	2月5日(木)~3月12日(木)	13:30~15:00	6	12,000
05	19世紀史考( 両大戦に向けて )	赤堀 景章 (桐蔭横浜大学名誉教授)	1月16日(金)~3月6日(金)	13:00~14:30	8	16,000
06	朗読基礎コース	鈴木 正導 (元NHKアナウンサー)	1月15日(木)~3月5日(木)	10:30~12:00	8	20,000
07	朗読を楽しむ	鈴木 正導 (元NHKアナウンサー)	1月15日(木)~3月5日(木)	13:30~15:00	8	16,000
08	基礎スペイン語講座③ - 文化と共に学ぶ -	高橋 悦子 (日本ペルー共生協会副会長)	1月21日(水)~3月11日(水)	10:30~12:00	7	14,000
09	初級中国語会話	曾 雪 (桐蔭横浜大学大学院生)	2月4日(水)~3月25日(水)	13:30~15:00	7	14,000
10	中級中国語会話 <対象:継続者又は経験者>	曾 雪 (桐蔭横浜大学大学院生)	2月4日(水)~3月25日(水)	10:30~12:00	7	14,000
11	英語1年生 - 中学レベル -	宮島 知子(英会話学校講師)	1月21日(水)~3月18日(水)	13:30~15:00	8	16,000
12	英語1年生 - ゆっくり楽しむ英会話 -	宮島 知子(英会話学校講師)	1月21日(水)~3月18日(水)	10:30~12:00	8	16,000
13	大人のための英語ブラッシュアップ - 英語講読 高校生レベル -	原 千砂子 (桐蔭横浜大学准教授)	1月21日(水)~3月18日(水)	10:30~12:00	8	16,000
14	学びなおす英語 - 中級程度 -	岡田 俊恵 (桐蔭横浜大学教授)	1月16日(金)~3月6日(金)	13:15~14:45	8	16,000
15	学びなおす英語 - 上級程度 -	岡田 俊恵 (桐蔭横浜大学教授)	1月16日(金)~3月6日(金)	15:00~16:30	8	16,000
16	Focus on Communication - はじめての英会話 -	エリザベス・小野寺 (桐蔭横浜大学講師)	1月15日(木)~3月5日(木)	13:30 ~15:00	8	16,000
17	English is fun! - 初級英会話 A -	ジェフリー・シンハ (桐蔭学園講師)	1月19日(月)~3月9日(月)	13:30~15:00	8	16,000
18	Develop your Word and Speech Powers! - 初級英会話 B -	ロバート・カトレット (拓殖大学講師)	1月19日(月)~3月9日(月)	10:30~12:00	8	16,000
19	You Can Do it in English! - 中級英会話 -	ジェームズ・グラジアニ (桐蔭学園講師)	1月19日(月)~3月9日(月)	10:30~12:00	8	16,000
20	Advanced English Conversation - 上級英会話 -	エリザベス・小野寺 (桐蔭横浜大学講師)	1月15日(木)~3月5日(木)	10:30~12:00	8	16,000
21	パソコン入門講座	中丸 久一 (桐蔭横浜大学講師)	1月20日(火)~3月10日(火)	13:30~15:00	8	20,000
22	初めての写真講座(一眼レフ入門)	玄 一生 (写真家)	1月20日(火)~3月17日(火)	10:30~12:00	8	18,000
23	楽しい写真講座	玄 一生 (写真家)	1月20日(火)~3月17日(火)	13:30~15:00	8	18,000
24	はじめてのフルートアンサンブル	遠藤 まり (昭和音楽大学附属音楽教室講師)	1月16日(金)~3月6日(金)	14:00~15:30	8	20,000
25	たのしいフルートアンサンブル	遠藤 まり (昭和音楽大学附属音楽教室講師)	1月16日(金)~3月6日(金)	10:30~12:00	8	20,000
26	楽しい絵画教室	今村 昭寛 (洋画家 一創会運営委員)	1月15日(木)~3月5日(木)	10:30~12:00	8	18,000

URL : <http://www.cc.toin.ac.jp/kika/ikc/>

## 6. その他

テクニカルショウヨコハマ2008（第29回工業技術見本市）

テーマ：「世界へはばたくオンリーワン技術」

会 期：平成20年2月13日（水）～15日（金）

会 場：パシフィコ横浜

主 催：社団法人神奈川県産業貿易振興協会、社団法人横浜市工業会連合会、神奈川県、横浜市

先端研究プレゼン：

「遊具打撃音の分析による新しい安全性評価の提案」 古曾部俊之助手

産学公連携出展：

「足裏マッサージ器、間伐材を用いた医用工学的製品等の展示、音波による超浅層地中探査」